

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
名古屋 若宮八幡社
各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[昭和59年1月]

15日(日) 清 韻 会 能 (来場歓迎) (番組③面)
29日(日) 青 陽 会 定 期 能 (有料) (番組③面)

[2月]

5日(日) 宝 生 会 定 式 能 (有料) (番組③面)
12日(日) 観 世 会 定 式 能 (有料) (番組③面)
18日(土) 九 草 会 定 期 能 (有料) (番組③面)
19日(日) 洗 心 会 華 心 会 春 の 大 会 (来場歓迎)
25日(土) 麦 草 会 公 演 会 (有料) (番組③面)
6日(日) 春 放 能 会 (来場歓迎)

[3月]

11日(日) 大 蔵 狂 言 会 (来場歓迎)
18日(日) 梅 嶺 会 能 会 (有料)
20日(祭) 泉 正 会 大 会 (来場歓迎)
24日(土) 正 風 会 大 会 (来場歓迎)

[4月]

1日(日) 猶 麟 会 大 大 会 (来場歓迎)
7日(土) 萌 麟 会 定 式 能 (有料)
8日(日) 観 世 会 能 (夜 能) (有料)
10日(火) 大 大 衆 能 (夜 能) (有料)
11日(水) 邦 麟 会 (来場歓迎)
15日(日) 野 村 四 郎 名 古 屋 公 演 会 (有料)
21日(土) 久 田 観 正 会 大 会 (来場歓迎)
22日(日) 幸 友 会 大 会 (来場歓迎)
29日(日) 幸 友 会 大 会 (来場歓迎)
30日(月) 幸 友 会 大 会 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了承下さい)

能楽協会名古屋支部(内藤三二支部長)主催の歳末助け合い協賛能は、旧うら四日、熱田神宮能楽殿で、観世、宝生、金剛流の能四番、和泉流狂言二番、金剛、金春、観世、喜多各流の仕舞が行われた。この催能による義捐金として、同支部では、愛知県、名古屋市へそれぞれ二十一万六千六百円ずつ計四十二万二千三百円を贈った。

県、市へ42万円贈る
能楽協会名古屋支部 歳末助け合い能
環として各福祉団体へ配布、従来は老人ホームが主であったが、今回は、厚生、授産施設にも贈られ協賛支部には、名古屋手をつなぐ親の会、いこいの家、富田作業所、名古屋厚生会館、吹上授産所、そのほか福祉施設からたくさんのお礼状が届けられている。

関市文化会館記念能
関市文化会館完成五周年を記念して、関市主催により二月十九日(日)記念能が催される。
(目) 記念能が催される。
仕舞「道成寺」(小西保二郎)
「半部」(羽瀬清)
「野守」(奥谷恒一)
狂言「昆布売」(善竹忠風)
能「盤渉早舞」
能「葵上」(大西智久、小西弘通、ワキ江崎金治郎)
会場 関市文化会館(関市桜本町) 開演午後一時半、入場料A席三千円、B席二千円(いずれも指定制) C席(小中学生)五百円。

能楽協会名古屋支部主催の夜能は、既報のように昭和五十九年度は「夜能」として、四月十日、十一日の二日間にあたり熱田神宮能楽殿で催される。

「夜能」花シリーズ
第一日(四月十日)(火)
金剛流舞臺子「花月」

第二日(四月十一日)(水)
観世流能「西行様」(梅田邦久)
◎二日目(四月十一日)(水)
宝生流能「右近」(竹内澄子)
和泉流狂言「花盗人」(井上松次郎)
観世流能「鞍馬天狗」(久田秀雄、小島一英)
開演両日とも午後五時三十分。

夜能形式で上演 花シリーズ 大衆能

4月10・11日 熱田神宮能楽殿

謹賀新年
熱田神宮 宮司 篠田康雄
権宮司 長谷晴男

謹賀新年
熱田神宮 能楽会
法人 熱田神宮能楽会

熱田神宮能楽殿運営委員会

委員長 熱田神宮権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
熱田神宮 権宮司 長谷晴男
熱田神宮 権宮司 篠田康雄
熱田神宮 権宮司 長谷晴男
熱田神宮 権宮司 篠田康雄

委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男

委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男

委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男

委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男

委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男

委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男

委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男

委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男

委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男

委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田康雄
委員 熱田神宮 権宮司 長谷晴男

梅 若 万 三 郎

片 山 博 太 郎

幽 詠 会

中日文化センター特別教室

昭 門 会

梅 若 紀 彰

鳳 鳴 会

武 田 太 加 志

武 田 志 房

井 上 嘉 久

大 槻 清 韻 会

大 槻 文 藏

幽 花 会

片 山 慶 次 郎

山 本 観 衛 会

梅 若 盛 義

上 田 観 正 会 能 楽 堂

名 古 屋 淡 交 会

橋 岡 久 共

藤 井 久 三 雄

完 楽 德 久 治 人

武 田 詠 楽 会

武 田 小 兵 衛

武 田 邦 弘

階層があるというところを、家... 権威において公示する意味があっ... たのかも知れません。... 奥、あとはついたり、は失言、大... 曲「釣狐」の披露がありました。... 演ずるは佐藤友彦、地元狂言界... すら、こんなにも違うとは、あら... ためて若はその人々の素質、個性、... 人柄に尽きると知りました。(次... 君にはちよっと気の毒だったよう... な気がしなくてもありません。... (M)

外 東... 十一月五日

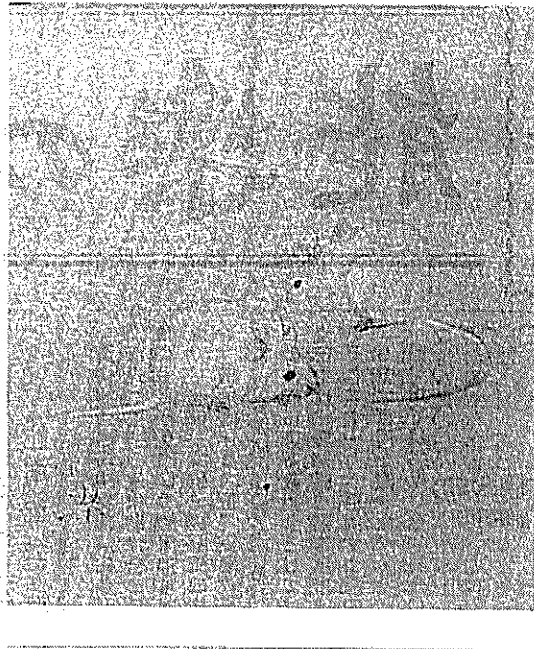
正月雅日記

子ども

えと文 二井栄逸

百八種を一つ一つ除去するかのよう諸方の寺々が打ち出す除夜の鐘をききながら、えとがしらぬずみをか。書初めとも、書初めともけじめのつかないことだ、と、思いながらダイコクネ

ズミを二匹ものにする。
今年、自分のとでもあるし何となく、いつもの年に輪をかけて忙しくなりそうな気がする。ほんとうにそうかも知れないなと思った。
何はともあれ、体を大事にして命のつづく限りがんばろう。
あおぐ高峰ははるかに遠い。未知の世界へわけ入る道は、日毎にけわしいけれど、夢を追う気持ちはずますつづける。
つづける。車は何萬回廻っても小ねずみは同じ階段を踏んでいるのであった。
この小ねずみのように、みずから信念に忠実なのは誇むべきことであるが、自己の反省と、先人の導きがなければ、それは無用の徒勞に終るといふことである。
今年も自分をふくめて、輝かしい希望に満ちたよい年でありますようにと、初日の光をさがしそめた暁の空に祈りをこめた。



観世寿夫記念法政大学能楽賞

片山博太郎氏 受賞
堂本正樹氏

法政大学は、昭和五十四年六月に「観世寿夫記念法政大学能楽賞」を設定し、すでに四回の授賞が行われたが、昭和五十八年度も各方面の識者により推薦された候補者について選考委員(増島宏、横道

万里雄、広末保、小山弘志、表章の諸氏)が慎重に選考した結果にもとずき、第五回の受賞者として片山博太郎氏と堂本正樹氏を決定した。授賞式は一月十二日午後六時から飯田橋会館で行われる。
◎(受賞者)片山博太郎(かたやま・ひろたろう)氏
〔授賞理由〕近年の氏の演能には、五十七年十一月三十一日の「卒都婆小町」や五十八年十月三十日の「眞清」(ともに東京公演)など、緻密な芸風に基づくすぐれた成果が多い。また、演能に際しての氏の研究熱心さには定評があり、斯界の範とすべきものであろう。
経歴：観世流シテ方。日本能楽会会員。昭和五年生れ。京都市出身。二四世家観世左近の末孫だつた片山博通の長男。父お庄が観世華留、雅喜、清太郎に師事し昭和二十七年に「演能」を、二十九年に「翁」を披く。江戸期から京都御世流の主柱だつた名家に生れた境遇に安住することなく、求道的とも言える研究熱心な態度で能に取組んでいて、ことごとく、緻密でテライのない芸風には定評があり、名実ともに関西の観世流を代表する人材と言えよう。近年は自主公演をも含む東京での演能もふえていて、五十七年は「定家」「卒都婆小町」「遊行柳」等を、五十八年は「実盛」「木賊」「旗指」「眞清」等を舞っている。
◎(受賞者)堂本正樹(どうもと・まさき)氏
〔授賞理由〕氏の近著「能・狂言の芸」(五八年六月、東京書籍刊)は、劇作・演出・評論にわたる多彩な演劇活動を展開してきた氏が、視野の広い現代の眼で伝統芸術の特質を解明した好著であり、近年氏を取り組んでいる演劇活動をも研究の成果も十分に反映している。
経歴：昭和八年生れ。神奈川県出身。慶応大学中退。演劇評論家・劇作家・演出家。青年時代からその異才を注目され、古典劇から現代劇にわたる幅広い視野に立って評論・創作・演出と多彩な演劇活動を展開している。新しい方向を示した「僕の新作能」、「伝統演劇と現代」、「三島由紀夫の演劇」、戯曲「霧の叛徒」等から近著「能・狂言の芸」(五八年、東京書籍刊)に至る一連の著作は、常に論の中心に能を据えつつ、その歴史的認識と脚本の読みを踏まえ、伝統演劇の現場を直視し、評論と上演の両面に真摯な発言を続けている。近年取り組んでいる番外曲研究は、能に演劇学の光を当て、梅若紀彰氏との復曲活動をも手がけている。

59年1月・2月放送予定

〔1月〕

◆NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)

15日(日)宝生流「鉢木」今井泰男ほか
22日(日)観世流「東北」浦田保利ほか
29日(日)金春流「國栖」金春欣三ほか

◆NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)

15日(日)観世流「重衡」浅見真州ほか
22日(日)観世流「籠太人鼓」上田照也ほか
29日(日)金剛流「二人静」豊嶋訓三ほか

◆NHK教育テレビ(午前9時)

16日(月)喜多流「郡郷」友枝昭世ほか

〔2月〕

◆NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)

5日(日)宝生流「兼平」松本恵雄ほか
12日(日)観世流「老松」◎観世元正ほか
19日(日)世々流「」◎

◆NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)

5日(日)観世流「和布刈」五木田武計ほか
12日(日)観世流「巻綱」梅若恭行ほか
19日(日)宝生流「按川」大坪十喜雄ほか

◆NHK教育テレビ(午前9時)

2月11日(日)能「忠度」

- フ랑스公
寅能盛況
- 磯 木 長谷川 実 鏡子 藤田六郎兵衛
アト 渡辺 鏡子 藤田六郎兵衛
綿 木 長谷川 実 鏡子 藤田六郎兵衛
鏡子 藤田六郎兵衛
鏡子 藤田六郎兵衛
鏡子 藤田六郎兵衛

<p>賀正</p> <p>壺泉会 嘉夫 名古屋市昭和区山里町一〇三 電話八三二二一三一八五 西宮市甲陽園目神山町一〇七八 電話八〇七九八〇 二四五八</p>	<p>名古屋橋岡会 名古屋市昭和区丸屋町五ノ三五 山田紀子方</p>	<p>井戸良造 井戸和男 大阪市阿倍野区文の里4-24-17 電話〇六(六二二)二三一九番</p>	<p>財団法人 鎌倉能舞台 中森 晶三 中森 貫太 〒248 鎌倉市長谷三ノ五十一三 電話(〇四六七) 〇五五五七</p>	<p>名古屋観世九皇会 観世喜之 有賀滋子 加藤保彦 青木武弘 高木美智子 吉田 妙</p>	<p>大江将董 京都府京都市東山区本町20丁目428</p>	<p>邦謡会 梅田邦久 須部美一 清沢和政 今沢美一 本田勝朗 安藤勝朗</p> <p>名古屋市昭和区台町二丁目十六一五 電話(三五三) (八四二) 四六三三番</p>	<p>山本眞賀 豊中市本町六丁目一〇一六</p>	<p>大垣浦声会 大垣市竹島町善念寺 住所 京都市左京区下鴨之本町五八 浦田保利</p>	<p>名古屋修諷会 梅若修一</p>	<p>名古屋観生会 野村四郎 東京都杉並区永福四ノ三〇一〇 電話(〇三三) 三二二一五二九 名古屋市東区米五ノ四一四 栄能楽舞台</p>	<p>散る花の会 南条秀雄 奥村富久子</p> <p>京都市左京区深草西町二〇 電話(〇七九八) 三三三〇六〇</p>	<p>春海会 梅若善高 豊中市新千里南町三丁目18-12 電話(〇六) 八三一七七八五</p>	<p>一謡会 河村鉦二 叶石会 河村総一郎 河村 大</p> <p>名古屋市昭和区前山町 一丁目二三三 (466) 電話(七六二) 四八八二</p>	<p>久田正会 久田秀雄 久田正会 久田舜一郎 久田正会 久田徹二 松月会 久田舜一郎 松月会 久田徹二 松月会 久田徹二 松月会 久田徹二</p>	<p>每日文化センター 風韻会 殿島修二</p>	<p>水雲会 水藤元三</p>	<p>初陽会 武田宗和</p>	<p>竹翠会 若松宏守 電話(662) 西宮市平松町四一九 (0798) 三三三〇六〇</p>	<p>松音会 泉泰孝</p> <p>京都市杉並区宮前四ノ一九一四 電話(0798) 三三三〇六〇</p>
---	--	---	---	--	------------------------------------	--	------------------------------	--	------------------------	--	---	---	--	--	----------------------------------	---------------------	---------------------	---	--

面の識者により推薦された候補者について選考委員(増島宏、横道世華雪・雅雪)夫妻に師事し昭和二十七年に「道成寺」を、翌年に...

フランク公 演能盛況 観世元昭能楽団は、パリはじめるフランス公演能楽団は、パリはじめる...



演能案内

名古屋清韻会能

昭和五十九年一月十五日(日)祭十時始

神歌 伊藤 晏哉 千歳浮員 第一 地謡 百福 寛三 今村 嘉二

高砂 (ワキ待廻より) 伊藤 晏哉 浮員 鋼一 地謡 百福 寛三 今村 嘉二

草子洗小町 高橋 宗司 小川 貞三 地謡 今村 嘉二 加野 修二

仕舞 絹クセ 足立 悦子 地謡 今村 嘉二 加野 修二

運吟定 北原良一郎 日比大吉郎 地謡 今村 嘉二 加野 修二

舞臺子高 池田美知子 寛 三男 地謡 今村 嘉二 加野 修二

松 風 奥村 久枝 吉田 定男 地謡 今村 嘉二 加野 修二

菊 慈 殿島 博子 寛 三男 地謡 今村 嘉二 加野 修二

田村 飯富 雅介 吉田 定男 地謡 今村 嘉二 加野 修二

二人静 西村 欽也 後藤 孝一郎 地謡 今村 嘉二 加野 修二

青陽会能

一月二十九日(日)午前十一時始

鶴亀 杉江 元 河村真之介 地謡 今村 嘉二 加野 修二

胡蝶 西村 欽也 後藤 孝一郎 地謡 今村 嘉二 加野 修二

野雲 殿島 修二 地謡 今村 嘉二 加野 修二

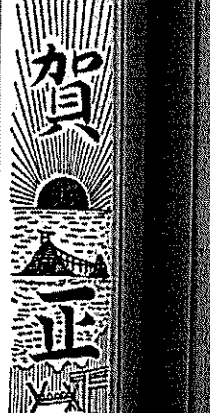
千鳥 大野 弘之 井上松次郎 地謡 今村 嘉二 加野 修二

安達原 飯富 雅介 河村 一郎 地謡 今村 嘉二 加野 修二

祝言 飯富 雅介 河村 一郎 地謡 今村 嘉二 加野 修二

附祝言 飯富 雅介 河村 一郎 地謡 今村 嘉二 加野 修二

当日券 二千元 主催 青陽会 名古屋熱田区神宮一丁目一



下田雄三 雄誠会中部地区連合会 名古屋和石 岐宮竹石 下原雄 萩原雄 高文之屋 倭山之屋

稲生芳雄 半田市船入町三十一 電話(0569)0815

加賀敏彦 名古屋市守山区森新田字乙98の44 電話(056)7771

松和会 中村和男 各務原市那加松町2-11 電話(0583)2794番

重陽会 菊池重郷 大山市犬山字相生五九一六 電話(0568)4501番

緑名会 田中武 尾張旭市城山町三ツ池六一九八 電話(0561)5330番

幸誦会 近藤幸江 岡崎市鶴田本町十一番地ノ三 電話(0564)2529番

翠話会 生駒里翠 名古屋市東区猪高町上社尾廻間84 電話(052)703157番

奥村富久子 岩倉市東新町下境52-1 電話(056)7238

宝生英雄 宝生英照 宝生英照

名古屋巽会 辰巳孝

佐野正治 千川 金沢市泉野町四丁目十二十四 電話(056)2063番

佐野由於 千川 東京都品川区大崎五丁目一の四 五反田南ハイッ一〇〇三

内藤泰二 たいんかい

宝生流 嘉宝会 名古屋市昭和区川名本町二ノ五一

倉本雅 神戸市東灘区田中町一丁目13番 電話(078)45326

吉田俊彦

竹腰勝一

司宝会 名古屋市天白区天白町島田橋住宅 二一三二〇 電話(052)7372

緑宝会 名古屋市緑区鳴海町池上16-10 電話(八九六)三四二八番

金剛永謹 金剛永謹

廣田後援会 廣田後援会

廣田幸稔 廣田幸稔

菊扇会 菊扇会

後援会 後援会

廣田泰三 廣田泰三

金剛流華月会 今井清隆 京都市北区小山下板倉町二三 電話(075)4912647

今井清隆

金剛流 李川会・名古屋 李川会・岐阜 吉川周子

名古屋市千種区西崎町三一六 電話(052)7611257

第廿八期・第一回
名古屋宝生会定式能

二月五日(日)午後一時始
熱田 神宮 能楽殿

番組
佐藤 耕司
飯富 雅介
佐藤 友彦
後見 辰巳 孝
内藤 泰二
西村 祐三
加藤 勝利

東
北
西村 欽也
後藤孝一郎
寛 三男

東
北
後見 戸田 和
河野 邦男
井上茂兵衛
小沢 喜一
地謡
吉田 定男
佐々木輝雄
大野 京一
馬場 富夫
鬼頭 喜男
喜 三男

東
北
後見 戸田 和
河野 邦男
井上茂兵衛
小沢 喜一
地謡
吉田 定男
佐々木輝雄
大野 京一
馬場 富夫
鬼頭 喜男
喜 三男

東
北
後見 戸田 和
河野 邦男
井上茂兵衛
小沢 喜一
地謡
吉田 定男
佐々木輝雄
大野 京一
馬場 富夫
鬼頭 喜男
喜 三男

東
北
後見 戸田 和
河野 邦男
井上茂兵衛
小沢 喜一
地謡
吉田 定男
佐々木輝雄
大野 京一
馬場 富夫
鬼頭 喜男
喜 三男

東
北
後見 戸田 和
河野 邦男
井上茂兵衛
小沢 喜一
地謡
吉田 定男
佐々木輝雄
大野 京一
馬場 富夫
鬼頭 喜男
喜 三男

東
北
後見 戸田 和
河野 邦男
井上茂兵衛
小沢 喜一
地謡
吉田 定男
佐々木輝雄
大野 京一
馬場 富夫
鬼頭 喜男
喜 三男

東
北
後見 戸田 和
河野 邦男
井上茂兵衛
小沢 喜一
地謡
吉田 定男
佐々木輝雄
大野 京一
馬場 富夫
鬼頭 喜男
喜 三男

東
北
後見 戸田 和
河野 邦男
井上茂兵衛
小沢 喜一
地謡
吉田 定男
佐々木輝雄
大野 京一
馬場 富夫
鬼頭 喜男
喜 三男

東
北
後見 戸田 和
河野 邦男
井上茂兵衛
小沢 喜一
地謡
吉田 定男
佐々木輝雄
大野 京一
馬場 富夫
鬼頭 喜男
喜 三男

名古屋観世会定式能 (初回)
二月十二日(日)十二時半始
熱田 神宮 能楽殿

盛
西村 欽也
飯富 雅介
佐藤 友彦
後見 辰巳 孝
内藤 泰二
西村 祐三
加藤 勝利

盛
西村 欽也
飯富 雅介
佐藤 友彦
後見 辰巳 孝
内藤 泰二
西村 祐三
加藤 勝利

盛
西村 欽也
飯富 雅介
佐藤 友彦
後見 辰巳 孝
内藤 泰二
西村 祐三
加藤 勝利

熊
野
村雨留
山本 清
大倉長十郎
藤田大五郎

熊
野
村雨留
山本 清
大倉長十郎
藤田大五郎

熊
野
村雨留
山本 清
大倉長十郎
藤田大五郎

熊
野
村雨留
山本 清
大倉長十郎
藤田大五郎

熊
野
村雨留
山本 清
大倉長十郎
藤田大五郎

熊
野
村雨留
山本 清
大倉長十郎
藤田大五郎

熊
野
村雨留
山本 清
大倉長十郎
藤田大五郎

熊
野
村雨留
山本 清
大倉長十郎
藤田大五郎

熊
野
村雨留
山本 清
大倉長十郎
藤田大五郎

熊
野
村雨留
山本 清
大倉長十郎
藤田大五郎

熊
野
村雨留
山本 清
大倉長十郎
藤田大五郎

名古屋観世九阜会定期能 (初回)
二月十八日(土)午後一時始
熱田 神宮 能楽殿

素高
高木美智子
飯富 雅介
後藤孝一郎
寛 三男

素高
高木美智子
飯富 雅介
後藤孝一郎
寛 三男

素高
高木美智子
飯富 雅介
後藤孝一郎
寛 三男

素高
高木美智子
飯富 雅介
後藤孝一郎
寛 三男

素高
高木美智子
飯富 雅介
後藤孝一郎
寛 三男

素高
高木美智子
飯富 雅介
後藤孝一郎
寛 三男

素高
高木美智子
飯富 雅介
後藤孝一郎
寛 三男

素高
高木美智子
飯富 雅介
後藤孝一郎
寛 三男

洗心会・華心会春の大会
二月十九日(土)午前十時始
熱田 神宮 能楽殿

能「巴」(シテ久松やま子)素謡「卒都婆小町」(尾形義雄)

能「巴」(シテ久松やま子)素謡「卒都婆小町」(尾形義雄)

能「巴」(シテ久松やま子)素謡「卒都婆小町」(尾形義雄)



金 春 信 高
金 春 安 明
金 春 欣 三

金 春 欣 三
東京都杉並区成田東四丁目35-20
電話〇三(三三)一五七三七八二番

本 田 光 洋
東京都中野区上高田二ノ二五ノ二
電話〇三(三八)二六四二番

春 敲 会
東京都中野区上高田二ノ二五ノ二
電話〇三(三八)二六四二番

金 春 晃 実
東京都中野区上高田二ノ二五ノ二
電話〇三(三八)二六四二番

廣 瀬 瑞 弘
東京都中野区上高田二ノ二五ノ二
電話〇三(三八)二六四二番

林 鉄 郎
東京都中野区上高田二ノ二五ノ二
電話〇三(三八)二六四二番

八 声 会
伊勢市富田一丁目四一七
電話〇五五〇二四五六番

中部金春会
名古屋市中区新栄三丁目10-9
電話(二四)三一四一四番

前 田 茂 穂
名古屋市中区新栄三丁目10-9
電話(二四)三一四一四番

喜 多 実
東京都練馬区中村南一ノ二九ノ二

大 阪 喜 多 会
和 島 富 太 郎
宝塚市宝塚一丁目12-1
電話〇七九七(八)八六三〇

二 井 栄 逸
松阪市殿町1412の3
電話〇五九八(二)三〇二二六

長 田 曉 後 援 会
津市高野尾町三三三三三
電話〇五三〇〇六九七番

喜 多 山 本 才
山梨県中巨摩郡玉穂村成島五五の二
山梨医科大学成島宿舎 B二〇四
電話〇五五二(七三)一四二六番

長 田 曉 後 援 会
津市高野尾町三三三三三
電話〇五三〇〇六九七番

谷 田 宗 一 朗
京都市北区衣笠街道31-7
電話(三三)〇六七五(三三)〇六八

森 好 会
東京都渋谷区代々木四一三八-12
電話(〇三)37014609

九州高安流同人会
飯 富 良 徹
飯 富 良 徹
大山要二郎
山崎俊輔
横田富生

福 王 輝 幸
西宮市名次町六番十二号
電話〇七九八(〇)〇七七二

高 安 流 岡 同 門 会
岡次郎右衛門
清水利宣
高坂康弘
森野三蔵
北川湖舟
中藤久蔵
伊藤耕三
塩田耕三
清水利昭

中 村 喜 彦
京都市上京区西門外
電話602

麦の会公演能

後見 今沢 美和
相次 江 修一
地謡 松山 幸親
須部 一 甫
山久 高橋 邦一
日 田 徹 二

鬼 頭 季 信
豊 嶋 十 郎
電話(〇七)三〇一九八二

中 村 喜 彦
京都市上京区西門外
電話602

麦の会公演能

二月二十五日(土)十二時半始
熱田神宮能楽殿

松山 幸親
久田 徹二
植田隆之亮
久田 定男
久田 舜一郎
寛 三男

後見 前野 郁子
久田 秀雄
安藤 勝朗
祖父江 修一
須部 一政
高橋 邦久
梅田 邦久
山田 義高

野村又三郎
井上松次郎

梅田 邦久
西村 欽也
河村 総一郎
柳原 富司忠
藤田 六郎兵衛

観能 泉嘉夫の独演 壹泉会の小町シリーズ

昨年十二月十一日の壹泉会(熱田神宮能楽殿)。まずチラシを見て驚きました。「小町シリーズ」のうちに「草子洗小町」と「通小町」の二曲をひとりで舞うというのです。独演会は、さまで珍しい



「通小町」泉嘉夫・ツレ泉泰孝 (58・12・11壹泉会) 田中正夫氏撮影

ことではありませんが、「小町シリーズ」とひっかけたところが面白。これがシリーズの第一集で第二集以下「卒都婆小町」「鶺鴒小町」と続くのだとするとこれは大変。老女物の大曲と秘曲ぞういだから、これをシリーズとして舞い切れることは容易でない。

昭君

後見 今沢 美和
松山 幸親
須部 一政
山田 義高

西村 欽也
福井 啓久郎
助川 竜夫

長 田 邦 久
梅 田 徹 二
久 田 舜 一郎

「通小町」の二曲、ともに若き日の佳人小町が登場する。シテとツレの連はあっても、そこに組合せのねらいの一つがあったのか。選択の中は狭いにしても、「通小町」は深草少将が主役だから、シリーズに入れるのに多少の抵抗を感じる向きもあるかも知れません。しかしこの曲の小町の存在は、他曲のツレにくらべ、格段に大きい。「恋重荷」の女御どころではない。ある意味では両シテぐらゐの重味があるのではないでしょう。小町の名に釣られて選んだとは毛頭考えられず、その辺のバランスを十分考慮に入れた上でのことだと思えます。

「草子洗小町」は「通小町」に比べて淡彩の趣き、小町の装束も他にきわだつほどでなく、劇的なメリハリも極力押えて、全体をサラリと流した演出は、「通小町」との対照と考へてのことでしょうか。ロングから草子洗のあたりにかけて、なんとなく見所をワクワクさせたのが印象的でした。他に野村又三郎の「木六駄」がありました。狂言としてはなかなかの難物ですが、ベテラン又三郎にとつてはもの数でもあるまいと思いきや、この日はかりはいささか期待はずれ、雪中に多くの牛を追う空間表現に大きさが不足しました。芸達者な人ですが、達者だけでは片付かぬところが「木六駄」のむつかしさですか。(M)

新 年

大倉 長十郎 千原 源二郎 大倉 正之助 千原 正之助	幸 義太郎 野 中正和 幸 方	幸 圓次郎 千原 義太郎 野 中正和 幸 方	森 本重一 算 三男 呉 竹会	龍吟会 藤田六郎兵衛	森 田光春 江崎正左衛門 江崎金次郎	幸友会 福井良久 福井良治 柳原富司忠	鬼頭季信 桂 会 後藤孝一郎	中 喜彦 飯島佐之六 前川光隆 前川光長	山崎俊輔 横田富生
大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 基義	吉田 定男	寛 鉦一	瀬尾 乃武 龜井 俊一 保忠雄 和泉 元秀	助川 竜夫	長生会 鬼頭 八郎 鬼頭 喜太郎 大蔵 方鬼 好英	幸友会 福井良久 福井良治 柳原富司忠	鬼頭 季信	前川 光隆 前川 光長	山崎 俊輔 横田 富生

筑紫 奥 井上松次郎
井上礼之助
大野 弘之助
〔御来場歓迎〕 華心会 奥 村 富 久 子
京都市左京区永観堂西町20
0七五(七七)0七六七

春夏秋冬

五八年の回顧

道成寺と釣狐

野村 広二
五八年の名古屋能界はやはり多事多難。名古屋勢の動きもシテ方...

三回の同曲扱いは其の甘さを感ぜさせ、道成寺に対する心構えについて大小の逸話をさせた。その三回がすんでから、秋のK能楽堂...

名古屋の演能・五八年を豊かにし主流を形づくるが、とりわけ娘捨(笛方藤田六郎兵衛の念)と幸都婆小町(ワキ西村欽也)は花子・娘捨の間語りとともに大きな記録と申せましょう。和泉元弥少年の三番坂(九才)もいつまでも語りつがれるであろう。

よい能とよい狂言は東西からもたらされたが、名古屋勢は次の能狂言が印象に残る。石橋(梅田邦久)・清経(恋之音取)と湯貴妃(久田徹二)ほか、鶯が古稀祝賀・久田秀雄)で久々舞われた。狂言は腰折(松・礼・弘)・布施無経(又・礼)・二千石(礼・松)宗論(友・弘・今枝郁雄)ほか。魚説法・井上辨治も上達のおとがみえた。狸狼の石山由紀ちゃん(サル)もかわいらしい。

特筆したいのは二回(朝日狂言会と和泉元弥後援狂言会。朝日)は二十五回を迎えた。釣狐である。井上祐一・釣狐のおおらかな味と佐藤友彦・同曲の細かい芸の表現の対照はおもしろく、名古屋風の幅の広さをみせていた。二人とも狂言芸への心構えの崩れないのも佳かった。来年の弘之・同曲はどんなであろう。



三宅藤九郎
〒170 東京都豊島区北大家1-24-16

茂山千作
茂山千五郎
京都市上京区中筋通り石薬師上ル

狂言やるまい会
野村又三郎

善竹忠一郎
神戸市東灘区御影町郡家大蔵二

茂山忠三郎
京都市左京区北白川大宮町47-1
電話〇七五(七〇〇)二〇二二番

朝日文化センター

雛子教室
小鼓 後藤孝一郎
丸栄スガイル10階

大西智久

西村欽也

演能写真
ウシマド写真工房
〒602 京都市上京区北野上七軒
電話(宅)〇三三(三三)一三四一

栄能楽舞台
名古屋市中区栄五十四-1-2
電話(二六二)一八三番

楽諷庵舞台
加納保一
名古屋市中区河川町四七七八三
電話(八三三)七〇〇一

葵心庵舞台
尾張旭市東大道町原田二四九三〇二
若杉ビル(旭市役所南)
電話〇五六(一五)〇三三四六番
能舞台 電話〇五六(一五)〇六九八

ビデオ撮影
西川企画画
500 岐阜市北野町20-1-2
電話〇五八(二〇)九八六九番
名古屋営業所 名古屋市中区各駅
2-20-13 輪の内荘 小原方
電話(〇五二)五七一五八一六

福井啓次郎
安福

福井啓次郎

流元 流元 流元 流元

檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291) 2488-9
振替東京 3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入 電話(231) 1990
振替京都 1-113

新年賀 魚伊 魚節
豊橋市魚町18 電話(52) 5256
豊橋也留舞会連絡所 (山本浅太郎方)

新しい視力の見直し—オプトメトリー—
明けておめでとう ございます
新しい視力の世界を拓く、玉水屋のサービスをご利用下さい。
定休水曜日 営業10時~7時
大ガネの玉水屋
なごや・栄交差点北西角 ☎961-1826(代)

あなたに心をこめておくりする...
富士道の婚礼道具
家具の富士道
本社 名古屋市中区栄3丁目35番18号
TEL代表(262) 5547
本ショールーム 愛知県西加茂郡三好町 TEL(05613) 2-1178
工場

社 18 43 一円四角

会組寅

名古屋観世九舞会(会主観世喜之師)の昭和五十九年度定例能会は、二月十八日(土)の初回に始

連吟(俊寛)加藤保彦、青木武弘能「雲雀山」吉田 妙舞「若」有賀滋子

演能案内

麦の会公演能

二月二十五日(土)十二時半始

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18 (郵便番号 464) 電話 (731) 7984 振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円 郵送の場合 1年 1200円 部 70円

題字は熱田神宮 篠田富司筆

能 楽 の 友

年金のお受取りは名銀で

- 自動的に振込まれて便利です
●共済年金の方もご利用ください。

名古屋相互銀行

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

Calendar table listing dates from February to May with event names and details like '有料' or '来場歓迎'.

名古屋観世九阜会 定期能番組 年4回の公演

名古屋観世九阜会(会主観世喜之節)の昭和五十九年度定期能番組は、二月十八日(土)の初回に始まり、年四回演能が行われる。

本賞 山本真賀氏「定家」 河村隆司氏「善知鳥」 奨励賞に久田徹二氏の「井筒」

五十八年度大阪文化祭賞の受賞が旧うら二六日に決定、第一部門の能・狂言で、観世流・山本真賀氏、河村隆司氏が本賞を受賞、久田徹二氏が奨励賞を受賞した。

中川清氏が滋賀県文化賞受賞

観世流シテ方・中川清氏(長浜市地福寺町八一二九)は、伝承芸能の分野において、能楽を通じて伝統芸能の興隆と後進の育成につとめ、滋賀県文化の向上と発展への貢献により、昨年十一月八日、武村滋賀県知事から県文化賞が授与された。

名古屋 洗心会 春の大会

二月十九日(日)午前十時半始 熱田神宮能楽殿

Performance program table for 'Spring Meeting' with categories like '素謡', '舞踊', '附祝言' and names of performers.

麦の会公演能

二月二十五日(土)十二時半始 熱田神宮能楽殿

Performance program table for 'Wheat Association Performance' with categories like '源氏供養', '野の花', '東', '北', '大島', '久見' and names of performers.

春月雅日記

斎 妻

えと文 二井栄逸



野村四郎名古屋公演

能「隅田川」上演

4月21日 熱田神宮能楽殿

「能 隅田川」を鑑る会として、観世流野村四郎師の名古屋公演が四月二十一日(土)熱田神宮能楽殿で催される。

主催は中日新聞社・中部日本放送。

当日は午後二時開演、名古屋大学文学部教授山下安明氏の「隅田川」についてと題する講演が行われる。能組は次のとおり。

仕舞「笠之段」野村四郎
狂言「綱なむ」野村又三郎、佐藤友彦、井上礼之助
能「隅田川」シテ野村四郎、

金剛流海外公演

カナダ、アメリカカ40日間

冬と春の間に咲きそめ、いち早く春を告げる花々の中でも華やかなのはツバキである。

普通、野生種のものやヤマツバキ、或いはヤブツバキ等といひ、園芸種のものにツバキとよばれているが、これは両者まとめてツバキと呼んで別に区別しなくともよいと思う。ツバキほど種類が多い花木はないであろう。

山椿の中にも、紅、白、紫がかったものもある。私は、山椿であろうと、園芸種であろうと、白いは白椿(白玉椿は美称)、紅いものは紅椿、紫がかったものは黒椿とよばせてもらっている。

あしびきの
山つばき咲く
八峯(やつを) 越え
鹿(しし) 待つ君が
いはひ妻かも

— 萬葉 —



観世流 上田照也氏逝去

13日 上田観正会葬で執行

観世流シテ方・上田照也氏は、二月十一日午後六時三十分、胃潰瘍のため大阪・北通病院内で逝去された。享年五十八歳。

葬儀は上田観正会葬により十三日正午から二時まで神戸市長田区大塚町の「上田観正会能楽堂」で執り行われた。喪主長男貴弘氏。

故上田照也氏は、本名、執本照也。



狂言方 佐藤秀雄氏逝去

2月4日 告別式を執行

一時から名古屋市中区和区川名山町一ノ四〇の自宅で行われ、能楽関係者ら多数が参列した。喪主は長男友彦氏。

故佐藤秀雄氏は明治四十五年二月八日、名古屋市中区大塚町で生れ、二代目井上彌次郎に師事、伝統ある名古屋狂言共同社に所属、昭和三十五年狂言共同社結成七十年記念会で「釣狐」。昭和五十年重要無形文化財総合指定保持者指定日本能楽会会員となり、後進の指導に当たり、名古屋狂言界の発展につとめた。

春 能

二月二十六日(日)午前十時始
熱田神宮能楽殿

連吟	松	政	シテ 駒林 豊徳
連吟	松	風	シテ 田中 幸枝
連吟	松	シテ 佐藤志津子	シテ 佐藤志津子
仕舞	紅葉	寛	かつ子
仕舞	高	安藤	山城
仕舞	老	中	勝子
仕舞	清	金児	島子
連吟	羽	衣	シテ 石原みつ子
連吟	松	衣	ワキ 坂井 こと
仕舞	高	安藤	山城
仕舞	老	中	勝子
仕舞	清	金児	島子
連吟	羽	衣	シテ 石原みつ子
連吟	松	衣	ワキ 坂井 こと

能 杜

連吟	松	政	シテ 駒林 豊徳
連吟	松	風	シテ 田中 幸枝
連吟	松	シテ 佐藤志津子	シテ 佐藤志津子
仕舞	紅葉	寛	かつ子
仕舞	高	安藤	山城
仕舞	老	中	勝子
仕舞	清	金児	島子
連吟	羽	衣	シテ 石原みつ子
連吟	松	衣	ワキ 坂井 こと

能 枕

連吟	松	政	シテ 駒林 豊徳
連吟	松	風	シテ 田中 幸枝
連吟	松	シテ 佐藤志津子	シテ 佐藤志津子
仕舞	紅葉	寛	かつ子
仕舞	高	安藤	山城
仕舞	老	中	勝子
仕舞	清	金児	島子
連吟	羽	衣	シテ 石原みつ子
連吟	松	衣	ワキ 坂井 こと

名古屋梅猶会能楽会

第14回大蔵狂言会なごや会

三月十一日(日)正午始
熱田神宮能楽殿

〔御来場歓迎〕

舞臺子班 女 鬼頭 淑子 吉田 定男 鹿取 希世
安 宅 村瀬 郁子 鏡 誠一 藤田 六郎兵衛
村上 博 鏡 誠一 藤田 六郎兵衛
能野 守 飯富 雅介 鏡 誠一 藤田 六郎兵衛
村瀬 郁子 鏡 誠一 藤田 六郎兵衛

附祝言 主催 春 敲 会

名古屋市中区和区山里町一三五
内藤泰二方 電話八三三三四四九

〔御来場歓迎〕

小舞 子の日(大蔵弥太郎)
狂言 口真似(丹羽良之)しびり(小山きゆ子)飛越(カーン)・テモテ
小舞 桑の弓(真野合子)七つに成子(立川一枝)始(丹羽節)
狂言 紋相撲(計盛清子)盆山(紅谷与一)
小舞 泰山府君(小山きゆ子)十七八(中村つや)鷹鷹金(河村文子)眺の明星(川村由理)貝盡し(岩田葉)
狂言 井杭(森貴寛)貫翠(半田敬明)
小舞 三人夫(小野加津子)名取川(村松泰子)祐善(杉村光子)
狂言 塗師(榎木信榮)おかしき天狗(大西安春)
狂言 呼声(増本寿代)泉(神山佳子)葉平餅(若林邦昌)

主催 大蔵狂言会・なごや会
指導 大蔵 弥太郎
連絡所 名古屋市中区白菊町3-33 丹羽節方
電話(〇五二)五二一三三三七四

59年2月・3月放送予定

〔2月〕

- NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)
- 19日(日) 番噺子・観世流「老松」観世元正ほか
- 26日(日) 素謡・観世流「東北」浦田保利ほか
- NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)
- 19日(日) 宝生流「桜川」大塚十喜雄ほか
- 26日(日) 金剛流「藤戸」豊嶋剛三ほか

〔3月〕

- NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)
- 4日(日) 観世流「大仏供養」
- 11日(日) 喜多流「声刈」
- 18日(日) 宝生流「国柄」
- 25日(日) 金剛流「桜川」
- NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)
- 4日(日) 宝生流「鶴雀山」渡辺三郎ほか
- 11日(日) 観世流「安宅」坂井音重・宝生閑
- 18日(日) 同上
- 25日(日) 狂言「蜘蛛盗人」大蔵弥太郎ほか

(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

壺泉会大会

三月二十日(祭)午前九時半始

狂言「縄なひ」野村又三郎、佐藤友彦、井上礼之助
能「隅田川」シテ野村四郎、(番)

イガイ、又は熱田神宮能楽殿
(電話)五二一六七—二九一二
年七十一歳。
葬儀ならびに告別式は四日午後

少のたきと目録の目録の目録
第二赤十字病院で逝去された。享年七十一歳。
葬儀ならびに告別式は四日午後

要するに、この能楽は、日本能楽协会会员となり、後進の指導に当り、名古屋狂言界の発展につくした。

金剛流海外公演

カナダ、アメリカ40日間

北米14都市で演能

金剛流・金剛水師を団長とするカナダ・アメリカ公演団は、一月十七日出発、アメリカ、カナダの十四都市で公演、二月二十六日帰国の予定である。

これは、カゾコ・フィリア・インターナショナル・インコーポレイテッドの主催によるもので、一行のメンバーは次のとおり。

団長金剛水師、団員シテ方・豊嶋三、豊嶋三千春、松野恭彦、植田道一、広田幸徳、松野洋樹、植田恭三、ワキ方・森茂好、囃子方・杉市和、大倉源二郎、河村大方。

各地だより

広田後援会 春季能

4月1日 金剛能楽堂

金剛流・広田後援会能は、四月一日(日)午後一時三十分から金剛能楽堂で第六十二回「春季能」を開催する。能組は次のとおり。

仕舞「田村」(広田幸徳)
能「磯」梓之出(シテ広田幸徳) ツル谷口宗義、ワキ宝生閑、笛・森田光春、小鼓・大倉長十郎、大鼓・安福建雄、太鼓・前川光隆、間・茂山千之丞、後見・金剛水師、広田幸三、地謡・金剛水師(か) 狂言「右近左近」茂山千之丞、茂山真喜
能「乱」(シテ広田幸徳、ワキ宝生閑、笛・森田光春、小鼓・曾和博朗、大鼓・井林清一、太鼓・前川光隆、後見・金剛水師、地謡・前川光隆)

佐藤秀雄師を偲ぶ

竹尾邦太郎

昨年十一月二十七日、和泉元弥三番更被露の和泉特別公演が熱田神宮能楽殿で開かれた。開演にはまだ間があり、閑散とした見所の脇正面後方には背広姿の小柄な老人がひとり黙々と舞台空間を見詰めていた。暫く舞台を過ぎかかっては佐藤秀雄であった。私は近寄り言葉も掛けず、振り向いたと見えた双眸には何か哀しげな色が見え、私は口を噤んだ。息友彦が「釣狐」を抜く日でもあった。本来ならアド演師か後見を勤めるところである。その無念さ溢る顔がさか思われた。

舞台は前場が淡々と進み、床几にかかったシテ白藏主(友彦)の語りかき、アド演師(松次郎)との問答になった。さりげなく、「狐を釣る」とか言うものがある。

「名があった。舞台晩年、今にして思えば体調優れなかつたのであろう。立シヤベリの途中絶句したことがある。秀雄の眼に一瞬もどかし気な青立ちを見た。老翁もどかし巧みにアドリブで躰すところであらう。しかし秀雄はそれをしなかつた。生真面目で真正直なのである。それがアイによく映っていたと思う。」

そして語りアイよりむしろアンライアイに良い味があった。特にお節介をやいたり、ちよっかいを出したりといった軽々しさの中の酸味は一寸類がなかった。「花月」や「安達原」などである。小柄な身体も合っていた。

本狂言でも秀雄はアドに徹していらした。相手は卯三郎や丘造の場合が多かった。就中登場人物がシテとアドのみのときである。曲目によっては松次郎や礼之助と身長が不適合であった。その持味は、シテと盛り合いながらシテに融発され次第に気力が充実して

入場券は、一般自由席前売り券三千円(当日券四千円)半生券当日売りのみ千八百円。

指定席希望の方は、広田後援会(〇七五七七八—一八八五、七八一—三四二)又は金剛能楽堂(〇七五—二二—三〇四九)なお「秋季能」は十月七日(日)金剛能楽堂で開演の予定。

59年度金剛会 定期能番組

昭和五十九年度金剛会定期能は、一月二十二日(日)を初回として年間十回の公演が決定されている。

演能は宗家以下総出演で、佳曲小書を繰りまげた充実した内容。会員は、年間会費三万円、新規入会の場合は別に入会金五千元を納入。座席指定。第一回は一月二十二日開演、第二回は以降の予定番組の演能は次のとおり。

・二月二十六日(日)「西王母」(今井清隆)「善知鳥」(金剛水師) 三月二十四日(土)「弱法師」(金剛水師)「養上」(無明之折)(金剛水師)

狂言装束の復元で知られる堀江勤之助氏(前名古屋工業大学講師)による「知多貝紫染衣展」が二月三日から八日まで、名古屋・三越本店の四階特選室のサロンで開催された。

貝紫染は、古代ローマの皇帝の衣料の染色として知られるが、地中海と同系の貝が伊勢湾にもあり、それを採取して国内で始めての手描き貝紫染展として注目をおこめた。

堀江勤之助氏の貝紫染衣展

名古屋梅猶会能楽会

三月十八日(日)十一時始

熱田神宮能楽殿

難	波	梅若	盛義	柳原富司忠	助川	龍夫	三男
番	梅若	善久	梅若	善久	梅若	善久	梅若
舞	梅若	善久	梅若	善久	梅若	善久	梅若
組	梅若	善久	梅若	善久	梅若	善久	梅若
子	梅若	善久	梅若	善久	梅若	善久	梅若
子	梅若	善久	梅若	善久	梅若	善久	梅若
子	梅若	善久	梅若	善久	梅若	善久	梅若
子	梅若	善久	梅若	善久	梅若	善久	梅若
子	梅若	善久	梅若	善久	梅若	善久	梅若
子	梅若	善久	梅若	善久	梅若	善久	梅若

壹泉会大会

三月二十日(祭)午前九時半始

熱田神宮能楽殿

素	源氏	重	荷	坂	加藤	春枝	小山	富美代	石川	晴子
素	源氏	重	荷	坂	加藤	春枝	小山	富美代	石川	晴子
素	源氏	重	荷	坂	加藤	春枝	小山	富美代	石川	晴子
素	源氏	重	荷	坂	加藤	春枝	小山	富美代	石川	晴子
素	源氏	重	荷	坂	加藤	春枝	小山	富美代	石川	晴子
素	源氏	重	荷	坂	加藤	春枝	小山	富美代	石川	晴子
素	源氏	重	荷	坂	加藤	春枝	小山	富美代	石川	晴子
素	源氏	重	荷	坂	加藤	春枝	小山	富美代	石川	晴子
素	源氏	重	荷	坂	加藤	春枝	小山	富美代	石川	晴子
素	源氏	重	荷	坂	加藤	春枝	小山	富美代	石川	晴子

2月 19日 26日
3月 4日 11日 18日 25日

秋の演能予告

能と狂言

五十九年度「能と狂言」(藤田六郎兵衛師主宰)は、九月二十四日(振替休日)、熱田神宮能楽殿で開催される。

能一通小町(雨夜之伝)シテ観世鏡之丞、ツレ梅田邦久、笛・寛三男、小鼓・福井啓次郎、大鼓・大倉正之助)

一調一管「獅子」(シテ上田悟、藤田六郎兵衛)

能「道成寺」(シテ観世鏡夫、藤田六郎兵衛、小鼓・大倉源二郎、大鼓・河村大太鼓、助川池)

耳目抄

年末年始

能の春は翁で始まる。今年の五流謡曲放送の翁は宝生流(NHK以下おなじ)。

昨年未検査書店から五九年のカレ

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!

舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。

テレビ放送番組企画制作
ビデオCM企画制作
録音ビデオ撮影
ビデオプロダクション 西川企画
岐阜市北野町20-2 TEL(0582)63-9869
名古屋営業所 名古屋市中区名駅2-20-3輪の内荘 小塚方 TEL(052)571-5816

追善能

故梅若猶義十三回忌

十月二十一日(日)
能「経正」(梅若盛彦)
舞臺子「天鼓」(パンシキ(岡田朗))

能「碓」(梅若修一)
能「融」(十三段之舞(梅若盛彦))

今井清隆師
後援会発足
金剛流・今井清隆師の後援会がこのたび発足、第一回目の後援会能が四月八日(日)京都・金剛能楽堂で開催される。

能「石橋」(今井清隆)舞臺子「安宅」(今井克典)など。

御料理 あつた 蓬菜軒

本店 熱田区神戸町三四 電話(67)868618
神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(682)5598(代表)

「年終」を願っていた。一二月月白楽天(吉井順一)・吉野静(山本勝一)・寛(金剛流)・雷(観世元正)・鳥追舟(観世元昭)そして十一月二十三日(観世喜之の願で載る写真は楽しみ。今まで載った右側の写真のうちから翁をはじめ数枚を昨秋八能と狂言Vの講義(朝日CC名古屋)で用いて好評を得た。

「代」。前賞には三役の協力も明記されている。

また、金剛流のこと。永謙(ひさのり)氏が団長で海外演能が行われる。一二月、カナダと米國へ。去る十七日出発。その大鼓で河村大(まさる、名古屋・大鼓河村総一郎)君が参加。同流はじめる若手一行の活躍を祈りたい。

昨年訪仏の能楽団の成果は新聞(東京、十二・七、芸能欄)に大きく載り、朝日のコラム・今日の問題V欄にも八能の旅Vで視野広く取り上げられた。団長・観世元昭氏。

九世、一五八三(永禄十一)没)得意の曲の由。これに先立ち一月十二日妙音太夫四百周年の記念の多彩な催しあり。同曲・三日は治親・宝生開、五日紀彰。くわしくは省く。能楽タイムズ一月号(第一面)参照。東京一・十、芸能欄。

完成した名古屋芸術創造センター。同センターを起点に名古屋市の芸術・芸能文化活動の現状と将来への期待をキメ細かく広い目で語る。なお、狂言の出来る舞台。朝日十月二九、山川和雄編集委員、文化欄。中日十・二九芸能欄。

近年大晦日恒例のテレビ能は久々狂言であった。蟻風流(和泉元秀)・福の神(茂山千作)・御田(山本東次郎)。国立能楽堂開場記念祝賀能放送の結びらしく、これで五回。もう道成寺(友枝附世)も老女物(卒都婆小町・梅若万三郎)で舞われた由。

同能楽堂には、宝生能楽堂や京都観世能楽館のように八月報Vが、まだみてないけれど、出ているらしい。購読の手続きはどんなであろう。八月報Vのような記録(資料)が刊行されて市販されれば申分ないのであるが、この間も愛好者の方から千駄ヶ谷のどのあたりでしようかとたずねられた。

次は、片山博太郎氏が泉清・松ノ門会(東京、五・八・十月)で芸術祭優秀賞を、これに重ねて同曲を含む近年の成果で観世野夫法大記念能楽賞を受けられた。関西のために前年同様めでたい。なお同曲(松門ノ会)の笛は、先年の岡氏卒都婆小町と同じく、藤田六郎兵衛(卒都婆のときは昭陽時

「三番鬼」(初心忘るべからず)。連想ゲーム(上・下)。どちらも女性側が当てる。後者はスリー・ヒント・ゲーム。三番鬼は坪内ミキ子さんが(七点)。ほかに元日六段の調べ(中嶋島欣一)をきき、年末(FM)と元日には雅楽を。

新人団83・滋賀県の巻。△邦楽の頂上に立つVの副題で、喜多実氏(大津市出身)を取り上げる。「東京よりも、三年(注、生れてから)居ただけの生地大津に強いふるさと感情と誇りを抱いている」世阿弥時代の能は天才に由来したが、今は違う。鍛錬による。人による芸です。「昔は野宮が好きだったが、最近玉葱のような、動きが少なくて深さのある曲に心がひかれる」などの語録が光る。ほかに宮城喜代子・山本邦山両氏の。朝日十一月・十九、梅若紀彰(と)して。希曲・治親(春近か)を便曲。二月三・五の両日、梅若妙音太夫(梅若三十

「放送」。

正月三日。三十一日の狂言放送で一夜明ければ、元旦は月宮殿・喜多実。近年、鶴・翁・月宮殿(テレビ)と実氏に接することが出来るのはうれしい。ここで、十五日も喜多実流で都那・附世。八傘之出Vの特別演出。佳。何度か大書して写されたオモテが効果的。空下りの仕方も私には珍し。終りに常盤で間(万之介)から傘を受

奨励賞を受賞している。

▽新人賞 (古典芸術)

訂正。能友回想(五八・十二月)の狂言磁石の肩衣のこと。堀江勤之助氏新作と書きましたが、これは、和泉元秀氏のご指摘のとおり和泉家伝来の肩衣の再現新調で、筆者の誤り。関係者にご迷惑をおかけしました。お詫言ひして訂正します。(野田三郎) 訂正

面打教室 於名古屋・榮朝日神社 毎週木曜日(月4回)午後5.30~8.00

指導 林龍雲

面巧社

電話問合せ <052> 211-4451

教室の見学・能面お求めになりたい方 お気軽におこし下さい

かみきりすずなり
かすか山
扇かふんぎ
十松屋
かとうたしり
買ひよ
か行うよ
十松や
か行うよ
か行うよ
十松屋
か行うよ

外科・せいけい外科・皮膚、泌尿器科

東山整形外科

TEL 781-7835
東山公園駅下車 オークランドビル2F

生きた設備を誇る日進堂
メガネ調整設備は、正しいメガネ・快適なメガネづくりの根本です。日進堂は視力測定・メガネ調整用の諸設備はもちろんなこと、必要なときには数分でピックアップできる...お客様一人一人の視力記録システムなどを常に生きた設備の充実を心がけています。

■ビス一本にも全神経を集中する日進堂
メガネ店の技術をささえるもの—それは、お客様の信頼におこたえする責任感とまごころです。正しいメガネを安心してご使用いただくために、日進堂は、たとえビス一本にも全神経を傾倒しています。

■徹底した日進堂のアフターサービス
メガネをいつも正しく、最良の状態でご使用いただけるよう努めることもメガネ店のつとめです。日進堂は可能な限りの修理サービス、レンズ・フレームの清掃サービスを無料でやっております。いつでもお気軽にお立ち寄り下さい。

定休日 毎週木曜日

正しいメガネでしあわせを……

メガネの日進堂

◎駐車場完備 名古屋市中区那古野2-20-23(円頓寺本町)
451 TEL (571) 6181-3

割烹・小料理

城

●熱田神宮能楽楽茶部
●住吉小路(中區3-10)
電話 241-0248

社

時間能

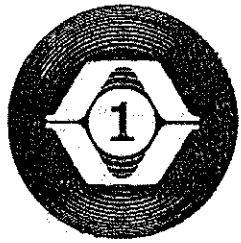
能楽協会名古屋支部(内藤泰二支部長)主催の大会は、春らんまん四月十日(火)十一日(水)

奨励賞を受賞している。

▽新人賞 (古典芸術)

正風会大会
三月二十四日(土)午前十時始

故梅若猶義師十三回忌
猶風会追善能



現代をみつめる眼
東海テレビ

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田宣司筆

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一部 70円

第25回 能 楽 大 衆

4月10日・11日の2日間
花にちなむ演能

能楽協会名古屋支部(内藤泰三支部長)主催の大衆能は、春らんの四月十日(火)十一日(水)の二日間、熱田神宮能楽殿で催される。番組は、第一日が観世流能「西行桜」狂言「花折」はじめ金剛流喜多流の舞囃子。第二日は宝生流能「三山」観世流能「鞍馬天狗」狂言「花盗人」、金春流、観世流の仕舞で桜花の曲をそろえ、花シリーズというべき演目の構成。新しい形の能楽として注目される。

開演は両日とも午後五時半、入場券は千五百円。各プレイガイドも取扱う。(番組詳細は③面掲載)

58年度「芸術選奨」

文部大臣賞 武田太加志氏

新人賞に善竹十郎氏

芸術分野で昨一年間に優れた業績をあげた人たちに贈られる五十八年度(第三十四回)芸術選奨文部大臣賞と新人賞が二月二十五日決定、発表された。

文部大臣賞は十一人と一団体、新人賞は同じく十一人と一団体、係では、文部大臣賞に観世流シテ方・武田太加志氏、新人賞に大蔵流狂言方・善竹十郎氏が受賞した。授賞式は、三月二十三日午後二時から東京・霞が関の国立教育会館で行われ、文部大臣賞と新人賞には賞状と賞金三十万円が贈られる。

武田氏は、昭和三十二年芸術祭で長年の成果を示した。授賞理由は、能「住吉詣」「卒都婆小町」で曲意をよく生かし、優美端麗のなかに古格を守る舞台で長年の成果を示した。

長生会、伊勢神宮神楽奉納

4月6日 観世元信宗家も来演

観世流太鼓の長生会(鬼頭八郎師主宰)は、春の伊勢神宮神楽奉納の囃子会を四月六日(金)伊勢神宮神楽殿で催す。開演午前十一時半。

囃子組は、独鼓「唐船」(高橋一)鬼頭喜太郎)など三番、囃子「帖」(内藤泰三)をはじめ十番。

当日は、観世流太鼓方宗家・観世元信、元則父子らも来演する。なお長生会の神楽奉納は今回で第二十七回を数え、毎年奉納囃子会が催されている。

演能カレンダー

日	演能	会場	備考
18日(日)	梅嶺会能	熱田神宮能楽殿	(有料)
20日(祭)	壺泉会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
24日(土)	正風会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎) (番組①面)
[4月]			
1日(日)	猶願会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎) (番組①面)
7日(土)	前願会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎) (番組②面)
8日(日)	観世会定式能	熱田神宮能楽殿	(有料) (番組③面)
10日(火)	大衆能(第一日)	熱田神宮能楽殿	(有料) (番組③面)
11日(水)	大衆能(第二日)	熱田神宮能楽殿	(有料) (番組③面)
15日(日)	邦舞会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
21日(土)	野村四郎名古屋公演	熱田神宮能楽殿	(有料)
22日(日)	久田観正会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
29日(日)	福井啓次郎師分30周年記念幸友会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
30日(休)	同上	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
[5月]			
3日(祭)	壺泉会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
5日(祭)	壺泉会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
6日(日)	壺泉会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
12日(土)	青陽会定期能	熱田神宮能楽殿	(有料)
13日(日)	壺泉会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
19日(土)	九狂言やまい	熱田神宮能楽殿	(有料)
20日(日)	狂言やまい	熱田神宮能楽殿	(有料)
26日(土)	壺泉会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
27日(日)	壺泉会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
[6月]			
3日(日)	清願会能	熱田神宮能楽殿	(有料)
5日(火)	熱田神宮大祭奉納能	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
9日(土)	一謡会叶石会大会	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)
10日(日)	観世会定式能	熱田神宮能楽殿	(有料)
17日(日)	壺泉会大会	熱田神宮能楽殿	(有料)
24日(日)	狂言やまい	熱田神宮能楽殿	(来場歓迎)

正風会大会

三月二十四日(土)午前十時始
熱田神宮能楽殿

舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛	舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛
舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛	舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛
舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛	舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛

故梅若猶義師十三回忌 追善能

四月一日(日)午前九時始
熱田神宮能楽殿

舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛	舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛
舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛	舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛
舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛	舞臺子 敦	連吟八	獨吟熊	花	土	盛

三月雅日記

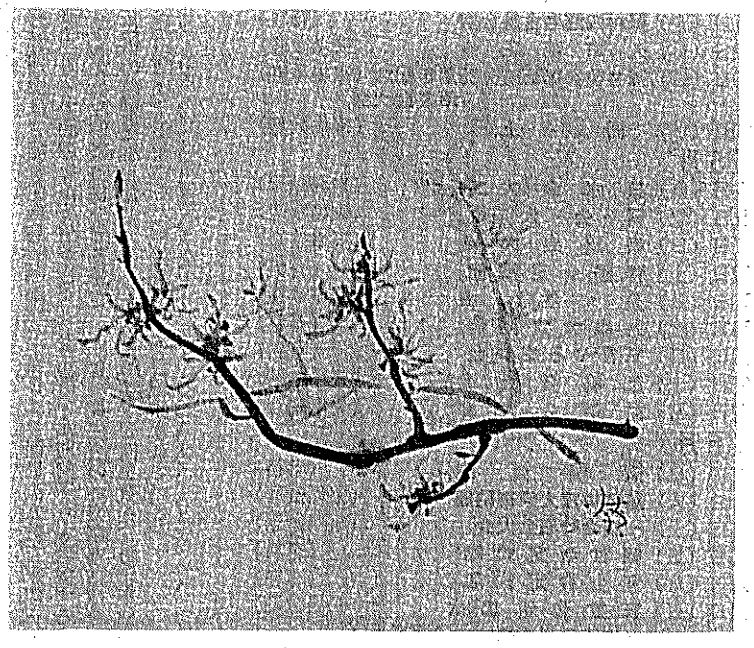
花の素顔

えと文 二井栄逸

今年はずきがいままでつづき梅の咲くもおくれてしまった。「月ヶ瀬の梅は三月二十日頃が見頃らしいですよ」なじみのタクシーの運転手が言っていたが、言外に「月ヶ瀬へどうですか?」、と尋ねているような気がした。

家の紅梅もようやくマチ針の頭のような紅いつぼみをふくらませ今にもほころびそうになっている。その梅より一足先にマンサクが、紙きれのような花びらを空にのびし始めた。

早春、万花にさきがけて、「先づ咲く」が訛ってマンサクの名がついたといわれている。このマンサクを、残雪をふみながら訪ねる植物好きの友の居たことも覚えて二月、三月、と、季節は進んで



この頃、閑雲の派手な花々がはらりんとする中で、キフジとかムシカリとか、地味な野草の花を好む人が多くなってきた。それは多分あらためて花の素顔にひかれ始めたのかも知れない。

マンサクも、別段、珍しくもないが、いけて見ると、その味わいは一入深い。あたかも臨場物の前シテのような風格をそなえるから

大阪フェスティバル能

4月15日 能3番上演

大阪フェスティバル能は、四月十五日(日)午後一時から大阪・中之島フェスティバルホール特設舞台で行われる。

番組は、観世流能「小督」恐之舞(観世喜之) 観世流能「砥」碎之出(梅若盛) 金剛流能「是我意」白頭(金剛殿) 和泉流能「木六歌」(野村万作)など。(番組詳細⑤面掲載)

故梅若猶義13回忌 追善能

4月1日 名古屋梅能会社中会 今秋10月に名古屋で追善能開催 能界に大きな足跡を刻んだ故梅若猶義師の十三回忌追善能は、三

正風会大会

3月24日 熱田能楽殿

宝生流・正風会(衣笠正宣師主宰)は、三月二十四日(土)熱田神宮能楽殿で社中大会を開催。

能「羽衣」(シテ後藤新治) 「小袖曾我」(シテ竹内良伯)の二番はじめ素謡十二番、舞囃子、仕舞、連吟、独吟二十数番(番組⑤面掲載)

椿大神社大祭奉納能

伊勢一ノ宮椿大神社

伊勢一ノ宮椿大神社(鈴鹿市山本町)の神事能として毎年大祭の四月十一日、金剛宗家はじめ同門により奉納、演能された。復曲「細女」(うすめ)の謡本がこのほど完成した。監修は金剛殿宗家、発行は椿大神社、頒価千五百円。なおことしの奉納能も四月十一日上演される。

藤田流能管教室

毎月3回 長円寺会館

能管へのいざないとして昨春四月から名古屋で「藤田流能管教室」が、昨年から受講者は中ノ舞、序ノ舞、男舞、羯鼓、早舞を精古しているが、とくに初めて笛に慣れる方々にわかりやすい指古として好評。同教室では受

第四回 蒔謡会

四月七日(土)午前九時半始 熱田神宮能楽殿

連吟(清謡会) 熊野	加藤 茂代 山岡 米子 山岡 明子 磯村 鶴子	梅山 上子 鬼頭 澄	連吟(清謡会) 源氏供養	吉川 照子 伊藤 和枝	神谷 富美 川合 光子 野村 光子	連吟(清謡会) 草子洗小町	水野 次子 井 井	筒 近藤かずみ	連吟(清謡会) 菊慈童	宇野 雅悦 杜 杜	若キリ 浅井 敏	連吟(清謡会) 草子洗小町	水野 次子 井 井	筒 近藤かずみ	連吟(清謡会) 源氏供養	吉川 照子 伊藤 和枝	神谷 富美 川合 光子 野村 光子	連吟(清謡会) 熊野	加藤 茂代 山岡 米子 山岡 明子 磯村 鶴子	梅山 上子 鬼頭 澄	連吟(清謡会) 草子洗小町	水野 次子 井 井	筒 近藤かずみ	連吟(清謡会) 菊慈童	宇野 雅悦 杜 杜	若キリ 浅井 敏	連吟(清謡会) 草子洗小町	水野 次子 井 井	筒 近藤かずみ	連吟(清謡会) 源氏供養	吉川 照子 伊藤 和枝	神谷 富美 川合 光子 野村 光子
------------	----------------------------------	---------------	--------------	----------------	-------------------------	---------------	--------------	---------	-------------	--------------	----------	---------------	--------------	---------	--------------	----------------	-------------------------	------------	----------------------------------	---------------	---------------	--------------	---------	-------------	--------------	----------	---------------	--------------	---------	--------------	----------------	-------------------------

観世会定式能(三回)

史」とあります。ほかの文献に「浪楽」より、従来の名称「浪楽」より注目に値する立派な舞台が思い

墨狂言

井上礼之助 大野 弘之 佐藤 友彦

梅田 邦久

能界に大きな足跡を刻んだ故梅若橋師の十三回忌追善会は、三幸「安宅」など八舞、舞臺子、仕舞が演ぜられる。来場歓迎。(番組①面)

観能独語

ちよつと気になる「能」と「能楽」の區別

能や狂言について気になるところがいくつもあります。何とつまらんとを……と笑に付されそうなお話ですが、やはり気になるのでその一つ二つを告白させていただきます。

その一つ、これは能、狂言の舞臺に閉じてのことではなく、その案内のチラシやリーフレット、広告などのたぐいによく見ることが、能、狂言、舞臺子、仕舞、楽謡等々とズラリ並んだ能組を眺んで見ますと、ある能のそれに演目の前に「能」とあり、また別の能では「能楽」とあります。「能」でも「能楽」でも同じことどちらでもいじやないかと云われそうですが、それが私には気がつかないで来た。「能」は小

かかると。私にはどうも「能」の方がいいんじゃないかという気がしてならないのです。

つまり私の感じでは「能楽」は能一般の総称で、個々の演目の場合は「能」だけで事足りるのではないかと思うのです。正しいの正しくないの、正確不正確を云っているのではなく、その方が語感として自然なような気がするだけです。何も証書類を持ち出すようなつもりはありませんが、国立能楽堂の開場記念特集パンフレットに「明治十四年(一八八一)に芝居の能が設立され……能専用の劇場が誕生し……その頃から能と狂言とを「能楽」の語で呼ぶことが一般化して来た。」(「能楽小

第26回大阪国際フェスティバル

フェスティバル能

四月十五日(日)午後一時始
大阪・中之島フェスティバル
ホール特設舞臺

観世流・龍
梅若 善高
池内光之助
観世 喜之

小
後見 梅若 喜久
梅若 盛義
梅若 修一
梅若 盛義
梅若 修一

木六 駄
野村 万作
後見 小川 七作

和泉流・狂言
石田 幸雄
野村万三郎
野村又三郎

砥
梅若 修一
梅若 盛義
梅若 修一
梅若 盛義
梅若 修一

梅若 修一
梅若 盛義
梅若 修一
梅若 盛義
梅若 修一

兵衛方(名古屋市西区福下二丁目)の注目に値する立派な舞臺が思いのほか入りか悪く見所がさびしい。殊更に寒気のきびしい二月です。無難な演目もありませんが、野村から無理もありませんが、野村の演目、観世喜之、さらには地元の代表する有望トリオ(麦の会)に肩すかしを食わせた感じなのは、地元人の一人としてまことに残念です。

四月八日(日)十二時半始
熱田神宮能楽殿

観世会定式能(三回)

俊
能組
梅若 紀彰
西村 欽也
柳村総一郎
河村総一郎
寛 三男

第25回大衆能

四月十日(火)午後五時半始(第一日)
熱田神宮能楽殿

喜 忠
度長田 誠
後藤嘉津幸
寛 敏一
鹿取 希世

花 月
吉川 周子
鬼頭 英二
鹿取 希世

花 折
野村又三郎
井上松次郎
佐藤 友彦
大矢 信行

花 折
野村又三郎
井上松次郎
佐藤 友彦
大矢 信行

西行 桜
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

西行 桜
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

西行 桜
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

西行 桜
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

四月十一日(水)午後五時半始(第二日)
熱田神宮能楽殿

羽
衣
江崎金治郎
寛 敏一
前川 光長

鞍馬天狗

四月十一日(水)午後五時半始(第二日)
熱田神宮能楽殿

花見 武田 大志
久田 美子
久田 美子
久田 美子
久田 美子

花見 武田 大志
久田 美子
久田 美子
久田 美子
久田 美子

花見 武田 大志
久田 美子
久田 美子
久田 美子
久田 美子

花見 武田 大志
久田 美子
久田 美子
久田 美子
久田 美子

花見 武田 大志
久田 美子
久田 美子
久田 美子
久田 美子

花見 武田 大志
久田 美子
久田 美子
久田 美子
久田 美子

花見 武田 大志
久田 美子
久田 美子
久田 美子
久田 美子

花見 武田 大志
久田 美子
久田 美子
久田 美子
久田 美子

梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

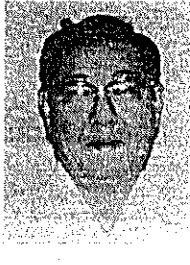
梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

梅田 邦久
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
寛 助川 竜夫

観世流 久田秀雄氏逝去

3月22日 久田観正会葬執行



観世流シテ方・久田秀雄氏は、三月十九日午後九時二十分、胃がんのため逝去された。享年七十歳。葬儀ならびに告別式は久田観正会葬により二十二日正午から名古屋市中区栄三の勝鬘寺で執り行われた。喪主久田野一郎氏。

久田秀雄師の逝去を悼む

「お能の番組」という冊子があつた。横A5判二百四頁。集める番組は明治十年十月八日より昭和二十六年七月一日に及ぶ四百四十三冊。二段組で所謂踏巻版劇である。奥付によれば昭和二十六年八月一日印刷発行。発行事務所大久手4の10田鶴太郎方とある。他に類書は無く、名古屋能楽界の貴重な資料である。この原紙を切ったのが若き日の久田秀雄である。と故田鶴太郎から聞いたことがある。が切りは活字に近いのを善しとする。当然筆跡は没個性的にならざるを得ないが、字体の特徴は現われるのである。秀雄のそれは堅い。その舞台も風貌押し出しから受ける印象とは異なり、手堅く几帳面なものだった。ただ直面積が割にあり、声刈（34年）・夜討（37年）・小袖（42年）・正尊（46年）・夜討（54年）と並べ下（55年）・夜（58年）と並べると何となく自己の容姿に持つところがあつたのではなからうかと思つて微笑ましい。

シテを勤める場は青陽会（発会後暫らくは清水青陽会）・大衆（普及）能・名古屋能楽会・神戸の上田観正会などであつたが、昭和五十三年六月、日本能楽会役員に列なつて以後は観世会土曜定式能（昭和54年）の三カ年で解消）が加つた。道成寺の扱きは昭和四十年四月・久田観正会廿五周年記念能で、師上田照也が鑑を引いた。大能としては安宅勧進帳（42年）松風（45年）卒都婆小町一度之次第（54年）・碓（55年）があり、何れも照也が地頭を勤めていた。

五月雅日記

この夏、松坂屋で開く個展の試作としてかいて見た。こないだ、かへ出かけた時、何となく西王母



をかいて見たくなつた。うまく舞つてくれるかな、と思ひながら筆をとつたら案外すらすらとかけ、私の能舞台の上で和楽祝福を舞つていく。桃の思い出としては、昔、ふるさとの家に桃があつて、春になると土蔵の白かべをバックに鮮かに朱（あけ）に燃えたのを忘れ得ない。桃は邪気をはらうといわれている。故か、桃の咲く里にくると、そこに住む人達まで、人の良さそうな顔をしていふように見える。西王母は、曲水の宴にちなむ能で、一かけらの哀愁もない。そして、シテに扮する仙女の舞には媚態を含まない艶麗さがあふれてくる。それは、あたかも桃の花のように邪気をはらい、人の世に幸いをもたらすかのように清らかで美しい。中国の神仙譚の根本思想は、常に不老長寿であるように、この西王母（せいおうぼ）も、三千年に一度咲くという桃を君にささげる。一度はかき取つておぼろげに

観能独語

場合、油目に合った頭髪とまでは無理としても、なるべく素朴、質実で、目立たないのをよしとした

名古屋巽会大会

幸謡会大会

<p>①面より幸友会大会番組つづき</p> <p>弓八幡 観世 曉夫 鬼頭英二 鬼頭喜太郎 隅田川 梅田 邦久 河村総一郎 鬼頭三男 一調 勸進 帳 杉本 珠子 福井啓次郎 熊野 荒井 静江 後藤孝一郎 寛三男 一調 松 虫 観世流之丞 高山 雪江（東京）</p> <p>杜 若 西村 欽也 吉田 定男 助川 龍夫 三井寺 河村総一郎 大西 末野 寛三男 番外一調 花 籠 野村 四郎 仲丸 久代 森本 重一 幸 園次郎</p> <p>老 松 盛 殿島 修二 河村総一郎 森本 重一 藤 戸 小林富美子 河野 敏子 森本 重一 獨調 勸進 帳 観世 栄夫 山崎 誠臣 天 鼓 西村 欽也 河村総一郎 鬼頭喜太郎 鬼 瓦 井上松次郎 坂本久仁子 藤田六郎兵衛 雲 雀 山 加藤井知子 坂本久仁子 鬼頭喜太郎 船 辨 慶 富川 千尋 横井 敬子 鬼頭喜太郎 碓 後 奥 善助 筑前 貴久枝 森本 重一 半田 習子 飯富 雅介 上野 智永 助川 龍夫 乱 飯富 雅介 上野 智永 藤田六郎兵衛</p> <p>第二日 四月三十日（休）午前十時始</p> <p>（宝）岩 船 吉田 俊彦 鬼頭 英二 助川 龍夫 （宝）紋 上 竹内 澄子 鬼頭 英二 鬼頭 好信 （宝）小 督 有賀 澄子 吉田 定男 鬼頭 好信 鞍馬天狗 高橋 暎一 中田 武子 森本 重一 連調 羽 衣 杉石和歌子 小出 文子 鬼頭 好信 クセ 伊藤 政枝 水谷 一枝 鹿取 希世 手嶋 なみ江</p> <p>（宝）熊 野 永井 喜美 福井 良治 藤田六郎兵衛 （宝）放 下 僧 杉石 昭子 河村 総一郎 寛三男 （宝）昭 君 葛原 正枝 河村 総一郎 鬼頭 好信 善 知 鳥 近藤 幸江 金井 久枝 鹿取 希世</p>	<p>獨調 屋 島 梅若 善高 須賀 実 宮 武子 西村 欽也 吉田 定男 藤田六郎兵衛 車之伝 野村又三郎 山田 富堂 坂本 重一 後見 辰巳 孝 地謡 井上茂兵衛 三川 淳雄 衣 正宜 杉本 幸通 安久都 和夫 吉野天人 高木美智子 鬼頭 喜太郎 鹿取 希世 連調 七 騎 落 前田三子代 伊藤 君子 房子 木村美智子 生浦 良枝 磯 利行 磯 利行 羽 衣 後藤 新治 水谷 欽一 助川 龍夫 正 清沢 一政 吉田 定男 寛三男 碓 前 川 潮 泰子 河村総一郎 寛三男 連調 小 鍛 治 林 林 林 寛治代 キリ 林 佳代子 万子 子 梅若 修一 須賀 繁子</p> <p>（宝）弱 法師 鈴木 教悦 河村総一郎 森本 重一 間 井上礼之助 藤田 静代</p> <p>（宝）花 争 野村 信行 野村又三郎 寛三男 林 治代 飯富 雅介 坪井香子 寛三男 正宜 西村 欽也 杉江 元 寛三男</p> <p>（宝）都 間 佐藤 友彦 吉野 淳夫 鬼頭 喜男 後見 内藤 泰二 地謡 富田 正代 馬場 富四夫 佐藤 耕司 地謡 西村 祐三 小沢 喜一</p> <p>（宝）石 橋 高安 勝久 河村 素子 鬼頭喜太郎 赤梅若 盛彦 松山 幸親 梅若 修二 白梅若 盛彦 松山 幸親 梅若 修二 後見 中川 雅章 地謡 松山 幸親 梅若 修二 野村 四郎 地謡 松山 幸親 梅若 修二 高橋 政一 地謡 松山 幸親 梅若 修二</p>
---	--

第二十八期 青陽会定期能

五月十二日(土)正午始 熱田 神宮能楽殿

能田 村 杉江元 河村真之介 後藤孝一郎 森本重一

能杜 若 飯富雅介 河村大 池田三男

能善 界 飯富雅介 鬼頭英二 鬼頭好信

能雪 石田 紀子 西村 欽也 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛

能吉野 天 西村 欽也 鬼頭英二 鬼頭好信

能歌 占 佐藤 友彦 井上松次郎

有料(要会員券) 名古屋観世九皇会

名古屋観世九皇会定期能 五月十九日(土)午後一時始

能融 熊 坂 山森 幸男 後藤孝一郎 寛 助川 三男

能粘 竹生 嶋 井上礼之助 佐藤 友彦

能清 道成 寺 三川 松平 武田 志房

能鳳 鳴 会 大会 五月二十六日(土)午前九時始

武田太加志喜寿祝賀 鳳鳴会大会

五月二十六日(土)午前九時始 熱田 神宮能楽殿

能神 高 砂 伊藤 重遠 村上 清

能二人 静 村上 郁子 小森 義郎

能梅 藤 戸 松井 弘 長谷川 清

能正 梅 高橋 孝三 武田 孝子

能經 飯富 雅介 吉田 定男 森本 重一

能道 成 寺 三川 松平 武田 志房

能竹 生 嶋 井上礼之助 佐藤 友彦

能熊 坂 山森 幸男 後藤孝一郎 寛 助川 三男

能西 村 欽也 河村 總一郎 鬼頭 喜太郎

能大 野 弘之 河村 總一郎 鬼頭 喜太郎

能武 田 太 加 志 喜 寿 祝 賀 会

狂言やるまい会公演 5月20日(日)熱田能楽殿

法王に献能 金剛巖氏がローマ 放送八田尚雄さんをしのぶ

テレビ能・忠度 シテ観世元唱 引き締った美し

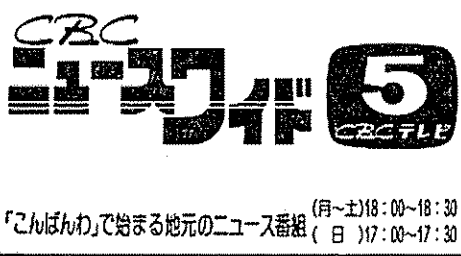
第二十七回 やるまい会公演 五月二十日(日)午後一時半開演

小冊子ながら珠玉に輝く頁を重ねる

「能は生きていく」 横道萬里雄随想集

NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)

NHK教育テレビ(午前9時~10時)



能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社
 名古屋市中区千種2丁目18-18
 (郵便番号 464)
 電話 (731) 7 9 8 4
 振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円
 郵送の場合 1年 1200円
 部 70円

演能カレンダー

〔5月〕 (熱田神宮能楽殿)
 19日(土) 名古屋親世九奉会定期能 (有料) (番組①面)
 20日(日) 狂言やるまい会 (有料) (番組①面)
 26日(土) 武田太加志師喜寿祝賀 (来場歓迎) (番組①面)
 鳳鳴会大会 (来場歓迎) (番組②面)
 27日(日) 名古屋親衛会春の大会 (来場歓迎) (番組②面)

〔6月〕
 3日(日) 清 鎮 会 能 (有料) (番組②面)
 5日(火) 熱田神宮大祭奉納能 (来場歓迎) (番組②面)
 9日(土) 一蘭会叶石会大会 (来場歓迎) (番組②面)
 10日(日) 親世会定式能 (有料) (番組③面)
 17日(日) 親世会定式能 (有料) (番組③面)
 24日(日) 狂言也留舞会 (来場歓迎)

〔7月〕
 15日(日) 朝 日 狂 言 会 (有料) (有料)
 21日(土) 親世九奉会定期能 (有料) (有料)
 22日(日) 親世会 楽 謡 会 (有料)

〔8月〕
 4日(土) 名 古 屋 薪 能 (有料) =熱田神宮境内=
 5日(日) 名 古 屋 定 期 能 (有料) (有料)
 12日(日) 能 楽 で 観 る 「曾我物語」邦謡会主催 (有料)
 19日(日) 興 會 (来場歓迎)
 25日(土) 名古屋学生能楽連盟大会 (来場歓迎)

(演能変更の際はご了解下さい)

春の叙勲

天皇誕生日の四月二十九日、春の叙勲が発表され、能楽界では次の方々が受章に浴した。

- 勲三等瑞宝章
 - 喜多流シテ方 後藤得三氏
- 勲四等旭日小綬章
 - 能楽養成会会長 広瀬信太郎氏

明治三十年一月十七日生れ、大阪府出身、昭和三十七年芸術院賞、四十五年人間国宝指定、五十七年芸術院会員

勲四等旭日小綬章
 能楽養成会会長 広瀬信太郎氏
 明治三十八年九月二十六日生れ、昭和五十年八月から能楽養成会会長、能楽協会監事。

熱田祭奉納能

6月5日 熱田能楽殿で

能「田村」「殺生石」

熱田神宮大祭は、熱田まつりとして親しまれ、演芸、武芸など神賑行事が奉納されるが、能楽協会名古屋支部主催による恒例の奉納能が六月五日、熱田神宮能楽殿で催される。

能・親世流「田村」(シテ清沢一政)宝生流「殺生石」(前シテ福川寿一、後シテ吉田俊彦)狂言「雷」(井上礼之助、野村又三郎)

舞囃子・喜多流「俊成忠度」(長田郷)金剛流「富士太鼓」(河井澄子)仕舞・親世流「杜若」(高木美智子)「大江山」(生駒里翠)金春流「三輪」(前田茂徳)正午開演、入場無料(番組②面)

自治功労で 鬼頭八郎氏受彰

平和町町制30周年 愛知県中島郡平和町は、昭和二十九年に町制を施行、ことし町制三十周年を迎え、四月二十一日総合体育館で記念式典を挙げて、自治功労として鬼頭八郎氏(太鼓方)が表彰された。

鬼頭八郎氏は、公職では、町会議員、選挙管理委員を歴任、地元の発展に尽力、能楽界では親世流太鼓方として活躍、昭和四十九年勲五等瑞宝章を受章、現能楽協会名古屋支部相談役、熱田神宮能楽殿運営委員会委員。

能楽三役研修生募集

国立能楽堂 後継者育成めざす

国立能楽堂と日本能楽会・能楽協会は協力して、ワキ方、囃子方、狂言方の能楽三役の後継者を育成するため、研修生(一期生)の募集を行っている。

募集要項は次のとおり。
 研修目的 将来能楽三役(ワキ・囃子・狂言)になるための基礎教育を行う。
 応募資格 原則として中学校卒業以上二十五歳未満の者。(昭和五十九年三月三十一日現在)
 募集人員 約二十名。
 募集期間 昭和五十九年六月十日まで。

選考 六月下旬に、国立能楽堂で簡単な試験と面接を行う。
 研修期間 昭和五十九年六月下旬から昭和六十二年三月末日までの約三年間。(全日制)ただし、研修開始後六ヶ月以内に能楽師としての適性審査を行い、正式に合格者を決定し、専攻する役を決める。また、研修終了後は日本能楽協会に師事することになる。
 その他 受講料は無料。奨励金制度等の特典がある。

問合せ先 〒一五一 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目十八番一五号 国立能楽堂・養成係 電話東京〇三四三三三三三(代表)

故上田照也、久田秀雄追悼

久田鏡正会春の会

久田鏡正会(久田敬二師主宰)は、故上田照也師、故久田秀雄師追悼の「久田鏡正会春の会」を五月六日、神戸・上田鏡正会能楽堂で開催した。

当日は川口ひさ子さんが名誉師範披露と能「羽衣」和合の舞、はじめ茶話「求塚」(小倉由紀)「碁」(中根千鶴代)など八番、舞囃子、仕舞、連吟十番が上演された。

第二十七回 やるまい会公演

五月二十日(日)午後一時半開演
 熱田神宮能楽殿

附 子	太郎冠者 野村 信行 主 大矢 高義 次郎冠者 佐藤 融
宗 論	男 野村 万作 妻 野村 又三郎 何某 井上礼之助 浄土僧 野村又三郎 法華僧 茂山千五郎 宿屋 佐藤 友彦
石 神	太郎冠者 野村 信行 主 大矢 高義 次郎冠者 佐藤 融
頼 政	河村総一郎 寛 三男 福井啓次郎
頼 政	野村 四郎
通 円	シテ 野村又三郎 地謡 野村万之丞 野村 万作 野村 耕介
朝 日 奈	野村 耕介
止 動 方 角	太郎冠者 野村万之丞 主 野村 万作 伯父 野村又三郎 馬 大矢 高義

主催やるまい会
 名古屋市中区正木2-16-25(野村方)
 電話(〇五二)三三三三三三(野村方)
 電話(〇五二)三三三三三三(野村方)
 (階上自由)
 取扱所 松坂屋、名鉄、三越、中日各ブレイガイド、能楽殿及びやるまい会事務所

武田太加志喜寿祝賀 鳳鳴会大会

五月二十六日(土)午前九時始
 熱田神宮能楽殿

神 歌	野々山 繁 武田 宗和
高 砂	大坪 重遠 伊藤 義郎 村上 清
二人 静	吉本 米子 村上 郁子 小鼓 義郎
藤 戸	松井 弘 長谷川 尚 村上 清

能 融
番外仕舞 菊 慈
國 柘 重
主 武 武 鳳 田 太 鳴 志 加 房 志 会

能 砧
狂言 竹生嶋参 井上礼之助 佐藤 友彦
今沢 美和
山崎 佐東子
西村 欽也
井上松次郎
寛 敏一
福井啓次郎
寛 三男

能 清
小川 博久
八賀 和彦
後見 武田太加志
親世 元正
地謡 祖父江修一
松本 千俊
河村 紅二
小島 一英
武田 志房
中川 雅章
井上松次郎
小川 雅章

能 道 成 寺
三川 慈平
武田 志房
中川 雅章
井上松次郎
小川 雅章

能 熊
山本 一
西村 欽也
河村総一郎
柳原富司
鬼頭喜太郎
藤田六郎兵衛

能 子 養
水波之伝
坂 山 幸男
後藤孝一郎
寛 敏一
助川 竜夫
寛 三男

能 竹 生 嶋 参
井上礼之助 佐藤 友彦
今沢 美和
山崎 佐東子
西村 欽也
井上松次郎
寛 敏一
福井啓次郎
寛 三男

能 經
後見 武田太加志
親世 元正
地謡 祖父江修一
松本 千俊
河村 紅二
小島 一英
武田 志房
中川 雅章
井上松次郎
小川 雅章

能 天 花
道 明 寺 鼓 原
独吟 定家一字題
近江 八景
浦 井 慶
武田 友志
武田 志房

能 仕 舞 弘
石井 鍾子
武田 孝子
大沢 晃
二村 正
財前 光枝
野々山正彦
武田 友志
武田 志房

能 子 方 武田 文志
姉和 祖父江修一
義経 小川 明宏
起請文 一柳 正直
武田 志房

能 高 橋 孝太郎 武田 孝子

専務所 名古屋市南区元福町
 一〇一七 加藤保彦方
 電話〇五二(六二一)三六五九

主催 武 武 鳳 田 太 鳴 志 加 房 志 会

邦楽名所図会・山の巻、織大夫
 団六、同・F.M.三・十七
 大会 × × ×

4月 NH
 15日 ()
 22日 ()
 29日 ()
 5月 NH
 6日 ()
 13日 ()
 20日 ()
 27日 ()
 NH
 6日 ()
 13日 ()
 20日 ()
 27日 ()



五月雅日記

白根葵の咲く頃

えと文 二井栄逸

高山に咲けばかくのごと紫の
あはれなる花白根葵は。
—佐藤佐太郎—
シラネアオイは、花が葵の花に
似ているので、この名がつけられ
た。又、雪のとけた春の山に咲く
ので、山芙蓉とも春芙蓉ともいわ
れている。
山の中で、ふっと出会ったこの
花の美しさを歌人は、「あわれ」
とうたった。
それほどにものあわれを秘め
た花。高山の花にしては、珍しく
おうぶりであるし、すきとおった
青紫色をしているので、誰もが一
瞬、その爽やかさに感動すると思
う。
日光の白根山(シラネザン)に
群生している。特に白根葵の名
前がつけられている。去年、水墨画の
門生が、群馬の友から到来したの
を、お分けだと言って頂いたこ
とがあった。
私は、山葵の連作をかいている
ので、今年は白根へ行くかと思
った位である。ところが、一昨日

の名古屋毎日文化教室の講座日に
その門生から今度は根つきのシラ
ネアオイを買った。
「今、シラネアオイが満開です」
その門生の山荘にはシラネアオイ
が繁殖を始めたそうである。そし
て、カタクリ、アツモリソウ、ヒ
トリシヅカ等の花にまじって自分
の野生美をはこっているそうであ
る。
一昨年だったか、中日劇場で、
喜多長世先生が舞われた、采女の
小波之伝(ささなみのでん)に使
われた色大口の色が丁度シラネア
オイの青紫に、にびいろを薄くか
けたような色であった。
シラネアオイは、北海道、本州
では中部以北の日本海がわに自生
するというが、やはり、群生地
の名前がつけられた位であるから、
白根山に群生する風はすばらし
いのであろう。
晩春から初夏へと、移りゆく山
々には、新緑にまじって野生の花
が次々と開き、けふるように美し
くなる。

名古屋観衛会春の大会

五月二十七日(日) 午前十時始

番外舞獅子松 熱田 神宮 能楽殿
虫 山本 勝一 吉田 定男 藤田 六郎兵衛
勸蒸之舞 久田 徹二

番外連吟 大原 御幸

仕舞 下 借小歌 水野 浩司 網 之 段 久納 希秋
菊 慈 童 田代 博

舞獅子弓八幡 伊藤 秀子 敦 盛 伊藤健一郎
舞五段

仕舞 東 胡 蝶 鈴木 幸子 五 段 武藤 愛子
花 月キリ 伊藤かずみ 五 之 段 青柳 イツエ

舞獅子紅葉狩 駒形賢津子 竹生 島 川口志満子
急之舞

須磨源氏 星野 泰子
舞五段

仕舞 難 波 加藤 歌子 卒都婆小町 村瀬 つね
独吟 鼓 之 瀬 鈴木 幸子

美細熊 野 川 瀬 保 奥村 泰広 山本 博通

仕舞 松 風 山 藤井 敏枝 丸 杉野 伸江

舞獅子 刈 豊住 雅子 梅 枝 中川 芳子
絹 水野たづ子

仕舞 田 村 村 近藤 辰男 女 郎 花 北村 時夫
融 井 栄 雄

舞獅子 養 老 山中 節子 清 経 上田 みよ
坂 川久保彰礼

仕舞 姑 前 川瀬とよ子 戸 吉田 琴子
替之型

舞獅子 頼 政 足立 泰々子 道明寺 脇田喜美子
野 守 山田 伸子

素綴山 姥 三宅 重光 神野勝之助
衣 山本 順之 鶴 飼 山本 真賀

山本 基之
山本万有里

船 弁 慶 西村 欽也 寛 敏一 助川 竜夫
前後之舞 飯富 雅介 福井啓次郎 寛 三男

間 佐藤 友彦

附 祝 言 (終了予定 六時)

主催 名古屋観衛会
御来場歓迎

清韻会 能

六月三日(日) 午後一時始

弱法師 大槻 文蔵 久田 徹二
素 田

賀 茂 水原 元三 寛 敏一 鬼頭喜太郎

舞獅子 舞 舞 子 福井啓次郎 泉 雅一郎 泉 雅三男

頼 政 大槻 秀夫 吉田 定男 藤田 六郎兵衛
後藤 孝一郎

笠之段 今村 嘉男 泉 雅一郎 泉 雅三男
網之段 三島 忠 山本 正人

卒都婆小町 殿島 修二 福井啓次郎 寛 三男
水原 元三 泉 雅三男 泉 雅一郎 泉 雅三男

梅 枝 泉 嘉夫 吉田 定男 藤田 六郎兵衛
後藤 孝一郎

杭か人か 野村又三郎 佐藤 友彦
能

山 姥 西村 欽也 寛 敏一 鬼頭喜太郎
飯富 雅介 福井啓次郎 寛 三男

間 井上松次郎

附 祝 言 (終了予定 五時頃)

主催 大槻清韻会
御来場歓迎

熱田まつり 奉納 能

六月五日(火) 正午始

俊成忠度 長田 郷 河村総一郎 藤田 六郎兵衛
福井啓次郎

仕 舞 若キリ 高木美智子 吉田 恵美子 吉田 恵美子
大江 山 生駒 里翠 地謡 泉 雅一郎 泉 雅三男

村 杉江 元 鬼頭 英二 藤田 六郎兵衛
福井啓次郎

後見 今沢 美和 地謡 松山 幸親 福生 芳雄
殿島 修二 地謡 須田 修一 梅田 邦久 中川 雅章

井上礼之助 野村又三郎 加藤 正三 林 正三 渡部 幸夫

輪クセ 前田 茂徳 地謡 加藤 正三 林 正三 渡部 幸夫

河村真之介 寛 三男 東田 康文 日比野 圭昭

後吉田 俊彦 前福川 寿一 飯富 雅介 河村 大 池田 希世

白頭 井上松次郎 佐藤 耕司 衣 正宜 小沢 喜一 内藤 孝二 加藤 勝利 辰野 義久

附 祝 言 (終了 三時半頃)

主催 能楽協会名古屋支部
御来場歓迎

能楽で観る

「曾我勿吾」一巻一巻

で曾我物をつづる。出演延べ七十
八名の大舞台、開演に先立って能
楽評論家・増田正造氏の曾我物語
とかな照らすとかな出来ないもので

一謡会・叶石会大会

六月九日(土) 午前十時始

観世会定式能(三回)

六月十日(日) 十二時半始

熱田 神宮 能楽殿

私は、山草の連作をかいて... 今年には、新緑にまじって野生の花が次々と開き、けふるように美しくなる。

能楽で観る

「曾我物語」通し能

邦謡会 8月12日 熱田能楽殿で

曾我物語は、忠臣蔵とともに歌舞伎狂言の代表的なものである。親しきまわりのが、能楽での「曾我物語」を金曲通しで上演しようというユニークな構成で、きたる八月十二日(日)熱田能楽殿で「能楽で観る曾我物語」と題して上演される。

観能独語

いい企画「夜桜能」

大衆能、熱田へ帰る

外へ出た大衆能がうちへ帰りました。うちへ帰りました。去年熱田能楽殿へ帰りました。去年熱田能楽殿へ帰りました。去年熱田能楽殿へ帰りました。

五時半始まるの三時間足らず、能一番(第二夜は二番)狂言一番の手軽さも結構ですが問題は中身。第一夜の「西行様」が流過ぎるといふ評判ですが、これは仕方ないでしよう。流過ぎるのをいやがって

〔御来場歓迎〕 主催名 古屋 観 衛 会 指導山 本 勝 一

で曾我物語をつづる。出演延べ七十名の大舞台、開演に先立って能楽評論家・増田正造氏の曾我物語の講演が予定されている。

「誰にでも親しめる能楽」ということで、曾我物語を金曲通しで上演したいとかねてより企画していた曾我物語は名古屋ではこれまで上演されていないと思うし、新作狂言「五郎斬られ」など新しい構

どころかもっと流しものでも遠慮することは無い。演者の力が演目の魅力を生かしてくれば大衆は感動します。その意味で「西行様」は決して流過ぎるなどというものはなかったと思います。

本場の芸は素人でもわかる、名人の芸には素人でも感動するといえます。演目ではない、演者です。演者の力強いからです。「西行様」なく、外容も大切です。能楽堂全

〔金員券〕全席三千円 主催大 槻 清 観 会 取扱いは出演演者又は熱田能楽殿

一謡会・叶石会大会

六月九日(土)午前十時始 熱田能楽殿

Table listing performers and roles for the 'Ishikawa Kaikai' event. Columns include names like 高 鶴, 高 衣, 高 砂, etc., and their respective roles.

〔御来場歓迎〕 主催能楽協会名古屋支部

能世会定式能(三回)

六月十日(日)十二時半始 熱田能楽殿

Table listing performers and roles for the 'Niseikai' event. Columns include names like 大 江, 大 山, 大 中, etc., and their respective roles.

59年5月・6月放送予定 [5月] NHK・FM放送 (日曜日午前7時10分) 20日(日)親世流「頼政」梅若紀彰ほか

第廿八期・第二回 名古屋宝生会定式能

六月十七日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

能	辰巳満次郎	西村 欽也	河村 大	森本 重一
下	辰巳 孝	井上松次郎	後藤 孝一	
加	後見 倉本 雅	地謡 久野 幸三	鬼頭 喜四夫	
杜	若キリ 戸田 和	地謡 久野 幸三	馬場 富四夫	
歌	占キリ 倉本 雅	地謡 加藤 勝利	小沢 喜一	
内藤 泰二	飯富 雅介	吉田 定男	寛 三男	
隅田川	杉江 元	福井 啓次郎		

三月の舞台から

「梅猶会」を見る

竹尾 邦太郎

「声刈」ツレ(勝子)は深井系連面・無紅唐櫛で出た。当然中年過ぎの女性である。シテ(重郎)も薄鼠色水衣の洗い出し(いでたち)である。それだけに兩人の邂逅には若い夫婦には無い陰翳が求められるだろう。しかし舞足しに追われてその余韻はあまり見られなかった。

笠之段は生真面目に過ぎて興がるところに欠け、ツレとの突然の出会いでは、声を取り落して三ノ松辺りに逃げる表情が大き過ぎたが、男舞になって重郎のもつ洪きが出て面目を施した。

「声刈」は鶴義が死去の前年(46年2月)の名古屋梅猶会最後舞台で、緑の水衣をつけていた。ツレは善高で紅入であった。瑞々しいシテであったの思い出す。直面で中年夫婦の屈折した心理を描くのは余韻のことに思われる。

(1時間22分)

「雲抱落」シテ太郎冠者(友彦)の酔いが深まり、泥酔状態に陥っている。口跡が一本調子

竹の子

佐藤 友彦
井上松次郎
大野 弘之

綾鼓

玉井 博祐
宝生 英雄
西村 欽也
福井 良治
寛 三男
鬼頭 喜太郎

附祝言

正会員 一万二千元(年四回分)
当日臨時会員券 六千元

〔有料〕

主催名 古屋宝生会

耳目抄

東京・関西と
名古屋

東京のこと。能楽タイムズ五月号が、いつものように、四月末に送られてきた。八ヶ月の能楽欄は深み。まづ野村万蔵追善会が目玉を引く(二九日)。隅田川(元昭・三川泉・金春安明・八田川)。大原御幸(浅見真洲・栗谷新太郎・小原御幸)。に都那・班女(松本恵進)喜之土蜘蛛入道ノ伝と西行(大坂)も。また八わたしたちの日の本(心)とか八魅能舞Vなどの名称のついた演能名があるし、解説付きの能名も。全国的には、奈良・春日興福寺新能をはじめ、各地の新能(夜外能)が目玉を引く。なお名古屋は三つの会が紹介されている。国立能楽堂の演能名にも見慣れてきた。

又(三郎)で始まり、大蔵・和泉二流の五番。年二回。盛會を折る。関西のこと。京都では五月十三日金春流太鼓方前川宗嗣(先代光隆)氏追善能が催される。挨拶(シテ金剛殿・石橋(師資十二段之式。片山博太郎ほか。ワキ岡次郎右衛門・太鼓岡光長)。狂言昌運・茂山千作。宗嗣氏は光隆時代、二十年十一月戦後初の演能(大衆能、名宝劇場。付、筆者放送に取り上げ、芸能復興にNHKが役を買った記憶あり)に名をされ、その後二度来演されている。名宝のときは片山九郎右衛門(後博通)・茂山千作(先代)・谷口幸次郎(大鼓)ほかの諸氏が名古屋能楽復興のため京都から来る来られた。あとの二度のことは省く。あの明るく高らかな笑い声はいつまでも忘れられぬ。

さて名古屋では。今年の大衆能が、例年の九月でなく、四月に二日間の夜能で行われた。熱田能楽殿。桜に因んだ能と狂言一番ずつ。何はともあれ二十五回を迎えたこと、いや二十回五回迎えたことを祝したい。その間名古屋のまた全国の能界は大小の変化・展開と充実と交代があった。その四半世紀の歩みの中で大衆能も前向きと足踏みの迂曲曲折をみてきた。啓蒙普及運動はむづかしい。

次に、四月下旬八隅田川を観る会Vが催された。よい会であった。シテ野村四郎氏。まず名大山下宏明教授(国文学、殊に平家物語の研究が専門)の話。隅田川が見所の能をみようとする心を高揚させた。「作者元雅の作品には八人間の暗いところ、悲しいところがうかがえる」の言葉は印象的。シテは情と知が品よく交り、ねばりずさりとする。そして地味なうちにいぶし銀の趣あり。大成された。父上の追善会で百万を舞われる由。またワキ森茂好氏の語りは絶佳。ハヤシも佳(六・啓・総)。笛の残り留めで終る。佳演であった。狂言は粗くない(又・礼・友)。皮肉な組み合わせ。おもろし。

五月二十日狂言やるまい会では宗論(野村又三郎・茂山千五郎)と頼政(舞囃子、野村四郎)・通円(小舞、又三郎)がみられる。

佐渡に伝わる幻の能と狂言。驚流狂言と加賀宝生。東京で初上演。記事くわし。朝日二・十五演劇欄。能楽タイムズ四月号。A批評と感想・山崎有一郎Vでも丁寧に扱われる。

(五九・五・一、の)

「鷗鷗小町」上演

梅猶会(梅若盛義師主)

豊春会春の会

豊春会(豊春会)

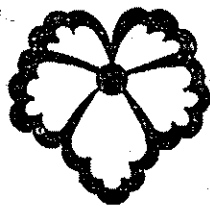
梅猶会(梅若盛義師主)の昭和五十九年度第二回定期能は、六月二日(土)大阪能楽会館で催される。午前十一時始

能「通盛」(シテ仲村勇、ツレ谷口善則)「班女」(班女之伝)シテ梅若盛義「橋弁慶」(シテ井戸和男)「狂言」(雁陣)「善竹孝夫」(日券)自由席三千円。

当日券(自由席三千円)

なお、梅若盛義十三回忌追善別能は今秋十月二十一日(日)大阪能楽会館で、井上良造師の

二井直哉君結婚
喜多流二井榮逸氏次男
喜多流二井榮逸氏の次男直哉君は、松嶋芳哉氏長女榮来さんとの結婚が、四月二十一日、ホテルキャッスルプラザで華燭の典をあげた。仲人は元松阪市長・松阪市名誉市民庄司桂一氏、能面後援会長・永野善彌氏。



御料理 あつた菜軒

本店 熱田区神戸町三四 電話(61)8686、8

本 熱田区新宮坂町 電話(62)5598(代表)

創立30周年迎える

演

利目されたが、ことし第二回の「能と狂言の会」がきたる九月二十四日(休)熱田神宮能楽殿で、

第26回朝日狂言会

七月十五日(日)午後一時三十分始

面打教室 於名古屋・栄朝日神社
 毎週木曜日(月4回) 午後5:30~8:00
指導 林龍雲 面巧社
 電話問合せ <052> 211-4451
 教室の見学・能面お求めになりたい方
 お気軽におこし下さい

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社
 名古屋千種区千種2丁目18-18
 (郵便番号 464)
 電話 (731) 7984
 振替口座 名古屋0-36393
 購読料 1年 700円
 郵送の場合 1年 1200円
 一 部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- [6月]
 - 17日(日) 宝生会定式能 (有料) (番組①面)
 - 24日(日) 狂言也留舞大会 (来場歓迎) (番組①面)
 - [7月]
 - 15日(日) 朝日狂言会 (有料) (番組①面)
 - 21日(土) 観世九皇会定期能 (有料) (番組①面)
 - 22日(日) 観世会楽協会 (有料) (番組②面)
 - [8月]
 - 4日(土) 名古屋新能 (有料) =熱田神宮境内=
 - 5日(日) 青陽会定期能 (有料) (番組①面)
 - 12日(日) 能楽で観る「曾我物語」邦楽会主催 (有料) (番組③面)
 - 19日(日) 龍吟会大会 (来場歓迎)
 - 25日(土) 名古屋学生能楽連盟大会 (一般非公開)
 - 26日(日) 名古屋官庁実業団連合大会 (来場歓迎)
 - [9月]
 - 2日(日) 名古屋金春会能 (第一部来場歓迎、第二部有料)
 - 8日(土) 竹前観唱会 (来場歓迎)
 - 9日(日) 観世会定式能 (有料) (来場歓迎)
 - 15日(日) 武田太加志喜寿祝賀能 (有料)
 - 16日(日) 宝生会定式能 (有料)
 - 21日(金) 中日文化センター芸能発表会 (来場歓迎)
 - 22日(土) 観世九皇会定期能 (来場歓迎)
 - 23日(日) 和泉会 (来場歓迎)
 - 24日(日) 和能と狂言の会(藤田六郎兵衛主催) (有料)
 - 29日(土) 龍雲会大会 (来場歓迎)
 - 30日(日) 武田謡楽会大会 (来場歓迎)
 - [10月]
 - 6日(土) 鶴恵会大会 (来場歓迎)
 - 7日(日) 鶴泉会大会 (来場歓迎)
 - 13日(土) 青陽会能 (有料)
 - 14日(日) 邦楽会創立30周年記念能 (来場歓迎)
- (演能変更の節はご了承下さい)

名古屋新能 8月4日熱田神宮で

能3番、狂言1番

「名古屋新能」はことし第十九回を迎え、きたる八月四日(土)熱田神宮神楽殿前・特設舞台で催される。

名古屋新能は、昭和四十一年から能楽協会名古屋支部主催、熱田神宮、名古屋市の後援で毎年八月の第一土曜日を日程として開催されてきた。

本年は、宝生流、喜多流、観世流の能三番、和泉流狂言一番ほか金剛、金春流の仕舞など能楽協会名古屋支部あげての上演。

能組は、宝生流能「鶴亀」(シテ鈴木義久)喜多流能「橋弁慶」(シテ長田誠)観世流能「住吉詣」(シテ小島一英)狂言「粟山伏」(野村又三郎、佐藤友彦、大矢高義)など。

火入れ式は熱田神宮・長谷晴男権宮司により行われ、本山政雄名古屋市長のあいさつが予定されている。

開演は午後五時半、前売り券千八百円、当日券二千五百円(番組詳細次号)

創立30周年迎える 熱田神宮能楽殿

明春3月10日に記念能

中部地方の能楽界の殿堂として熱田神宮能楽殿は、昭和三十年十一月に完成、爾来三十年にわたって伝統芸能と文化のうえで貴重なあゆみを刻んできたが、このほど開かれた熱田神宮能楽殿運営委員会(委員長 熱田神宮権宮司・長谷晴男氏)で、「熱田神宮能楽殿創立三十周年記念能」を明春三月十日開催することを正式に決定した。

熱田神宮能楽殿創立三十周年記念能の企画については、かねて運営委員会関係者の大きな課題となってきたが、ことし年頭の能楽協会名古屋支部(内藤泰二支部長)の臨初会の席上で、長谷晴男運営委員長から記念能について協力を要望、その後関係者により日程がつめられてきたが、開催を三月十日と決定したものである。

演能曲目等は、逐次決定される。

なお、同運営委員会では、三十周年を迎え、舞台、設備の改善修理、防災施設の充実など万全を図って鋭意進捗する方針である。

也留舞大会

六月二十四日(日)午後一時開演
 熱田神宮能楽殿

雷	昆	膏	葉	番	組
し	布	煉	り	売	大矢 高義
徳田 文三	野村 信行	野村 信行	野村 信行	野村 信行	野村 信行

小唄 暁の明星 飯島美津江 平山みよ子
 大原 木 松本 道子
 朝比奈 光岡 修

附 善 三宅 千生 水野 知子
 文 子 柘植 啓子 長谷川 田鶴
 山 賊 種村とし江 野村 信行
 文 山 伴野 俊彦 上嶋英代子
 三人片輪 上嶋英代子 大矢 高義
 吉村やよい

主催 野村又三郎
 指導 留舞会

能と狂言の会

町寺の上演

9月24日熱田神宮能楽殿

節目されたが、ことし第二回の「能と狂言の会」がきたる九月二十四日(日)熱田神宮能楽殿で、「道成寺」「通小町」の大曲、秀曲で公演される。

「道成寺」(小書赤頭)はシテ観世曉夫、「通小町」(雨夜之伝)はシテ観世曉之丞、ツレ梅田邦久、新鋭の囃子方を配し、観世榮夫、野村四郎、浅見真州、山中義彦の諸師が来演。

さらに太鼓(上田信)笛(藤田六郎兵衛)による一調「鴛鴦」の重曲が上演される。狂言は「雁」(井上松次郎、井上礼之助、大野弘之)ほか狂言が予定されている。

後援名古屋市教育委員会、入場料九千円(全自由席)
 入場券は、熱田神宮能楽殿(電話〇五二一六七)一、二九二、藤田六郎兵衛方(電話〇五二一五七)一、五七六三、三越、松坂屋、名鉄各ブレイガイドで取扱っている。(番組次号)

名古屋観世九皇会定期能(第三回)

七月二十一日(土)午後一時始
 熱田神宮能楽殿

雲	雀	山	西村 欽也	吉田 定男	鹿取 希世
狂	言	布	亮	井上松次郎	井上礼之助
若	有	賀	滋子	河村 総一郎	鬼頭 喜太郎
福	井	啓	次郎	寛 三男	

子方 日野 紀子 妙
 吉田 欽也 元
 飯富 雅介 柳原 富司忠
 若 有賀 滋子 河村 総一郎 鬼頭 喜太郎
 福井 啓次郎 寛 三男

主催 名古屋観世九皇会
 名古屋南区元塩町一丁目一七
 (加藤保彦方)
 電話(〇五二)六一一三六五九番

本 店 熱田区神戸町三四 電話(67)8686、8
 神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(68)5598(代表)

「能」の酔いが深まり、泥酔状態になつてゐる割には口跡が一本調子横暴というのではなく、雨天舞にかけて放て風流を取るといふ気

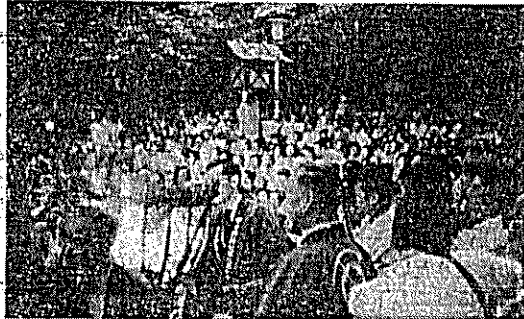
なお、故梅若鶴義十三回忌追善別会能は今秋十月二十一日(日)大阪能楽会館で、井上良造師の笛・杉市和、小鼓・竹村英雄、大

能「田村」(前シテ重本昌三、後シテ豊嶋訓三、ワキ谷田宗二朗、笛・杉市和、小鼓・竹村英雄、大

千人近い観客でうめた

那古野神社奉納新能

名古屋市中区丸の内那古野神社奉納新能、六月二日、初の「奉納新能」が催され、千人に近い観客で境内が埋まり、きわめて盛会であった。



この新能は、名古屋九草会、豊水会主催、那古野神社奉納新能が後援、同神社の能舞台は、明治十七年に建てられ、丁度百年になり、戦災をのがれた貴重なもの。戦後は昭和二十九年に一度演能が行われただけで、立派な能舞台をそのままにしておくのは惜しいとの氏子の願いが実ったものである。

定家葛

えと文 二井栄逸

東京の宗家に屈した頃、先生(現宗家)のお弟子さんであつた大泉さだという方が、定家を舞われたことがあつた。



ズラになつたのだという。事実、京都に言ひ伝えられる式子内親王の墓には、今もその墓石のそばに生える樹の大樹に定家葛が生いづつてゐる。

各地だより

隅田川「鷺」

7月10日 大阪城能

読売新聞大阪本社、読売テレビ放送主催による「大阪城能」がきたる七月十日、大阪城ホールで開催される。

大槻能楽堂で'84自主公演

大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で

大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

梅若盛義能楽団

来春は千五郎、又三郎の「宗論」にまさるとも劣らぬものでした。面白さ、楽しさという点では

フランス公演

能楽で観る 曾我物語

能楽で観る

曾我物語

曾我物語

曾我物語

曾我物語

「鷺」(シテ金剛殿、ツレ金剛永、山主一ほかの諸氏が出演。会場は見所としてコザ敷、床几席などが用意されたが、愛好者はもちろん、氏子、町内会、一般市民が詰めかけ、千人におよぶ観客で、NHK、東海テレビ、CBCなど各テレビも取材放映した。

大槻能楽堂で'84自主公演 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

大槻能楽堂で 大槻清韻会能楽堂では、能の魅力ひろく一般に親しまれる機会として、今春四月から毎月第二水曜日の午後六時から「自主公演」を企画、その第三回として六月公演は十三日、能「隅田川」

観世会素謡会 七月二十二日(日)午後一時始 熱田 神宮 能楽 殿

草子洗小町 今沢美和、能沢恵美子、近藤幸江、有賀紗水、高木美智子

山玉 盛タセ 生駒 里翠、吉田 妙、前野 郁子

野宮 高橋 瞭一、中村 和男、祖父江 修一

天竺 小島 一英、殿島 修二、中川 雅章

附祝言 主催名 古屋 観世会

入場料 三千円(全自由席) 会員券申込みは 出演者名又は能楽殿

後見 武田 欣司、橋本 三郎

観能

名手揃いの好舞台

盛況の「やるまい会」

いやあ、面白かったですね。五月二十日の「やるまい会」。本日に面白かった。何が面白かったのか...

ながら千五郎の自由奔放に押し込まれはしないかと懸念せぬでもなかつたのですが、どうしてどうして...

来客は千五郎と又三郎の「宗論」にまさるとも劣らぬものでしたが、面白さ、楽しさという点では「宗論」の方が一歩上でした。

梅若盛義能楽団 フランス公演
梅若盛義能楽団を団長とする能楽団のフランス公演は、六月十五、十六日、ナントで、六月二十日から...

翠謡会・夏季練成会

七月八日(日)午前十時始
於 榮 能 楽 堂
電話〇五二二四一五四三二

Table listing performers and roles for the 'Suiyōkai Summer Training Meeting'. Roles include 素舞, 仕舞, 番組, 舞, etc. Performers include 雲雀, 杜若, 船弁, etc.

Table listing performers and roles for the 'Onna no Uchi no Uchi' (御来場歓迎) section. Roles include 素舞, 仕舞, 舞, etc. Performers include 雲雀, 杜若, 船弁, etc.

能楽で観る 我物語

八月十二日(日)正午開演
午後一時開演
熱田神宮楽能殿

Table listing performers and roles for 'My Story' (我物語). Roles include 曾我物語, 小袖曾我, etc. Performers include 曾我十郎祐成, etc.

Table listing performers and roles for 'Night Discussion' (夜討曾我). Roles include 夜討曾我, 望月, etc. Performers include 曾我十郎祐成, etc.

Table listing performers and roles for 'Night Discussion' (夜討曾我). Roles include 夜討曾我, 望月, etc. Performers include 曾我十郎祐成, etc.

Table listing broadcast schedules for June and July 1959. Includes NHK FM and NHK Radio 2 broadcasts with dates and times.

Complex block containing information about the 'Zenjiro' (禅師曾我) performance, including ticket prices, venue, and dates.

Vertical text on the right edge of the page, likely containing additional notices or advertisements.

四月の舞台から

「観世会」・「大衆能夜能」

野村四郎名古屋公演

「観世会」こころ、二年古典の復曲に情熱を燃やしている(去る三月廿日にも「大般若」を京都で再演)...

竹尾邦太郎

「観世会」こころ、二年古典の復曲に情熱を燃やしている(去る三月廿日にも「大般若」を京都で再演)...

野村狂言団

野村狂言団は、アメリカ公演のため七月八日出発、ニューヨーク、ダラスなど各地で狂言のみによる公演を行う。

能を知る集い

日本の伝統芸術・能に親しみよきかける「能を知る集い」が、六月十七日(日)午後二時から名

が果見所は華やきを見せた。平日で終演も遅く、入りを危ぶんだが企画の良きで名古屋の夜能も満更ではないといったところ。盛會を祝いたい。

「西行様」

「西行様」初め何事もなくワキ西行上人(欽也)が出て床几にかかり、アイとの問答で花見禁制を申し渡すのは「花折」と同工。

「西行様」

「西行様」初め何事もなくワキ西行上人(欽也)が出て床几にかかり、アイとの問答で花見禁制を申し渡すのは「花折」と同工。

「西行様」

「西行様」初め何事もなくワキ西行上人(欽也)が出て床几にかかり、アイとの問答で花見禁制を申し渡すのは「花折」と同工。

「西行様」

「西行様」初め何事もなくワキ西行上人(欽也)が出て床几にかかり、アイとの問答で花見禁制を申し渡すのは「花折」と同工。

「西行様」

「西行様」初め何事もなくワキ西行上人(欽也)が出て床几にかかり、アイとの問答で花見禁制を申し渡すのは「花折」と同工。

「西行様」

「西行様」初め何事もなくワキ西行上人(欽也)が出て床几にかかり、アイとの問答で花見禁制を申し渡すのは「花折」と同工。

能友随想

野上弥生子さんと謡曲、映捨・金剛巖のこと

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

「野上弥生子さん」

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

「野上弥生子さん」

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

「野上弥生子さん」

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

「野上弥生子さん」

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

「野上弥生子さん」

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

内助の功はいかばかり幅広く深かったことか。あわせて津田青楓氏の「漱石と十弟子」(小宮と野上)、新版「昭四二、朋文堂」に「夫人が美しい賢夫人だから云々」...

「野上弥生子さん」

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

「野上弥生子さん」

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

「野上弥生子さん」

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

「野上弥生子さん」

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

「野上弥生子さん」

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

「野上弥生子さん」

「野上弥生子さん」野上弥生子さん(故・能楽研究家・英文学者野上豊一郎氏夫人)が白寿を迎え百歳になられた。

「野上弥生子さん」

書店 流元 剛行 金流 流本 世宗 親宗

医療衛生用品総合商社 八神商事株式会社 取締役社長 八神 幸一

社 8 43 一馬町一 社 申社社 署中御伺い申し上げます 法人 名古屋能楽会

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一 部 70円

題字は熱田神宮 藤田宮司筆

能 楽 の 友

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
名古屋 若宮八幡社
各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

- 〔7月〕
15日(日) 朝日狂言会 (有料)
21日(土) 観世九草会定期能 (有料)
22日(日) 観世会楽福会 (有料)
- 〔8月〕
4日(土) 名古屋新能 (有料) 熱田神宮境内 (番組②面)
5日(日) 青陽会定期能 (有料) (番組②面)
12日(日) 能楽で観る「曾我物語」邦謡会主催 (有料) (番組③面)
19日(日) 龍吟会ゆかた会 (来場歓迎) (番組③面)
25日(土) 名古屋学生能楽連盟大会 (一般非公開)
26日(日) 名古屋宝生流官庁実業団連合大会 (来場歓迎)
- 〔9月〕
2日(日) 名古屋金春会能 (第一部来場歓迎、第二部有料)
8日(土) 竹前銀唱会 (来場歓迎)
9日(日) 観世会定期能 (有料)
15日(日) 武田太加志喜祝賀能 (有料)
16日(日) 宝生会定期能 (有料)
21日(金) 中日文化センター芸術発表会 (来場歓迎)
22日(土) 観世九草会定期能 (来場歓迎)
23日(日) 和泉会 (来場歓迎)
24日(日) 能と狂言の会 (藤田六郎兵衛主催) (有料) (番組④面)
- 29日(土) 観雲会大会 (来場歓迎)
30日(日) 武田謡楽会大会 (来場歓迎)
- 〔10月〕
6日(土) 猶惠会大会 (来場歓迎)
7日(日) 藤田謡楽会大会 (来場歓迎)
10日(祭) 下田雄三師中部地区連合会能 (来場歓迎)
13日(土) 青陽会定期能 (有料)
14日(日) 邦謡会創立30周年記念能 (来場歓迎)
21日(日) 故梅若嶺・13回忌追善梅嶺会能 (有料)
27日(土) 清福会 (来場歓迎)
28日(日) 淡交会 (来場歓迎)
- (演能変更の節はご了承下さい)

夏を飾る新能

8月16日 岐阜・護国神社
8月18日 津島神社

岐阜護国神社奉納新能がきたる
八月十六日(木)護国神社境内で
催される。主催・護国神社、後援
・邦謡会。
当日は午後四時半開演、神歌
(山田芳郎、安江孝)仕舞、独調
など十六番のうち、護国神社森
根宮司による火入れ式。
午後六時から能「羽衣」(シ
テ片山博太郎、ワキ飯冨雅介、笛
藤田六郎兵衛、小鼓・後藤孝一郎
大鼓・河村総一郎、太鼓・上田信、
地謡・梅田邦久、小野明、武田邦
弘、橋本道雄ほか)
狂言「梅嶺」(茂山あきら、茂
山正義、茂山千之丞)
能「船弁慶」(シテ梅田邦久、
子方・梅田敦史、ワキ西村欽也)
の上演。終了八時四十分、入場無
料。

暑中御伺い申し上げます
熱田神宮 宮司 篠田康雄
権宮司 長谷晴男

本紙四月号既報のとおり、津島
神社では、きたる八月十八日(土)
初の新能が催される。
主催、社団法人・津島青年商工
会議所、開演午後六時半、火入れ
式挙行之のち狂言、能の上演。
狂言「千鳥」(井上松次郎、佐
藤友彦、井上礼之助)
金春流能「舟弁慶」(シテ本田
光洋、子方・鬼頭尚久、ワキ西村
欽也、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・
後藤孝一郎、大鼓・鬼頭英二、太
鼓・鬼頭好信、間・大野弘之、後見
・金春晃実、地謡・高橋汎、林鉄
郎ほか)
入場無料

国立能楽堂、能楽三役の研修開講

国立劇場の養成事業は、本紙五
月号既報のとおり、第一期能楽
(三役)研修生の募集を行って
いる。

後援は愛知県教育委員会、名古
屋市教育委員会、能楽協会名古屋
支部。開場時間は午前九時十五分
から午後四時四十分(入場は午
後四時十五分まで)

能楽研究会「面巧社」は、昨年
夏、会員による初の新作能面展を
名古屋博物館で開催、話題と好
評を博したが、ことし第二期の新
作能面展をきたる七月三十一日
(火)から八月五日(日)まで、
名古屋博物館三階展示場で開催
する。

面巧社、第二回 新作能面展

7月31日から名古屋市博物館で
能楽研究会「面巧社」は、昨年
夏、会員による初の新作能面展を
名古屋博物館で開催、話題と好
評を博したが、ことし第二期の新
作能面展をきたる七月三十一日
(火)から八月五日(日)まで、
名古屋博物館三階展示場で開催
する。

鳳鳴会 武田太加志 武田志房	観世元昭 昭門会 観世元昭	中日文化センター特別教室	梅若万三郎 幽花香会 片山慶次郎	幽詠会 片山博太郎	観世雅雪 観世鎮之丞 観世栄夫	観世元正 東京都渋谷区恵比寿南 一―二十一―十四	大槻清韻会 大槻秀夫 大槻文藏	大阪府東区上町二番地	梅猶会 梅若盛義	山本観衛会 山本勝一 〒662 西宮市南郷町五十二 電話(078)七三〇四七七八	名古屋観世九草会 観世喜之	藤井久雄 完楽徳三治	名古屋橋岡山田会 名古屋市昭和区丸の内五ノ三 山田紀子方	
武田謡楽会 武田小兵衛 武田欣司	橋岡久共	名古屋淡交会	片山慶次郎 〒603 京都市北区小山下花ノ木町二 電話(075)四九二一五三〇三番	山本観衛会 山本勝一	梅猶会 梅若盛義	大槻清韻会 大槻秀夫 大槻文藏	大阪府東区上町二番地	梅猶会 梅若盛義	山本観衛会 山本勝一	名古屋観世九草会 観世喜之	藤井久雄 完楽徳三治	名古屋橋岡山田会 名古屋市昭和区丸の内五ノ三 山田紀子方		
壺泉会 泉嘉夫 名古屋市中区和区山里町一〇三 電話(八三二)一三二一八五 西宮市甲陽園目山町二の一七八 電話(079)八八〇二四八	須部清美 今沢美一 本藤勝 安藤勝 名古屋市中区和区台町二丁目十六 電話(八四二)四六三三番	須部清美 今沢美一 本藤勝 安藤勝 名古屋市中区和区台町二丁目十六 電話(八四二)四六三三番	高橋瞭 吉田一彦 高橋正彦 高橋正彦 高橋正彦	青木武弘 青木武弘 青木武弘 青木武弘 青木武弘	加藤保彦 加藤保彦 加藤保彦 加藤保彦 加藤保彦	有賀滋子 有賀滋子 有賀滋子 有賀滋子 有賀滋子	藤田保彦 藤田保彦 藤田保彦 藤田保彦 藤田保彦	高木美智子 高木美智子 高木美智子 高木美智子 高木美智子	高橋瞭 吉田一彦 高橋正彦 高橋正彦 高橋正彦	青木武弘 青木武弘 青木武弘 青木武弘 青木武弘	加藤保彦 加藤保彦 加藤保彦 加藤保彦 加藤保彦	有賀滋子 有賀滋子 有賀滋子 有賀滋子 有賀滋子	藤田保彦 藤田保彦 藤田保彦 藤田保彦 藤田保彦	高木美智子 高木美智子 高木美智子 高木美智子 高木美智子

よびかける「能を知る集い」が、
六月十七日(日)午後二時から名
今回のテーマは①月に戯れる狂
女(三井寺)②仇討と芸づくし
小島芳樹方(電話〇五八六一二四
三三〇二六番)

むには見所はかくあるべきの見本
を示した。(1時間25分・4月21
日・野村四郎名古屋公演所見)

子氏との「春秋」が大きく浮かぶ。
「専攻の英文学にもまさって彼
(野上氏)の情熱の対象となった
で輝くとき、奥様の弥生子さんの

第十九回名古屋薪能

八月四日(土)午後五時半始

熱田神宮能楽殿・仮設舞台

(金巻)加 茂 前田 茂徳 地謡 渡辺 道三

(觀世)松 風 熊沢忠美子 地謡 林 鉄夫

(觀世)放下 僧 祖父江修一 地謡 田中 武

(金剛)八 島 竹市 幸司 福井 吉田 定男 西部 恵司

(宝生)鶴 飯富 雅介 鬼頭 英二 鬼頭 喜太郎

火入式 熱田神宮権宮司 長谷 晴男

御挨拶 名古屋市長 本山 政雄

(喜多)橋 弁慶 長田 郷 河村 大 森本 重一

(和泉)泉 山 伏 野村又三郎 佐藤 友彦 大矢 高義 後見 井上松次郎

(觀世)住 吉 詣 西村 欽也 河村 孝一郎 藤田 六郎兵衛

附祝言

前売券 千八百円 (当日券 二千五百円) 主催 能楽協会名古屋支部

青陽会能

八月五日(日)十一時始 熱田神宮能楽殿

小 實

後見 近藤 幸江 地謡 今村 嘉男 高橋 一英

半 部

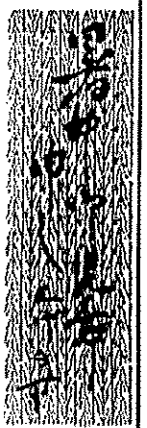
後見 今沢 美和 地謡 高木美智子 祖父江修一

一角仙人

後見 小川 一英 地謡 今村 嘉男 梅田 邦久

附祝言

〔当日券二千円〕 主催 青陽会 名古屋市中区神宮一丁目



散る花の会

南 条 秀 雄

奥村 富 久 子

財団法人 鎌倉能舞台

中 森 晶 三

中 森 貫 太

井 戸 良 造

井 戸 和 男

一謡会 河村 鉦二

叶石会 河村 総一郎

毎日文化センター 謡曲教室

風 韻 会 殿 島 修 二

松 音 会 泉 泰 孝

誠交会 奥 善 助 東京都世田谷区三軒茶屋二丁目一〇三二 電話(〇三)四三二二六三七番

大垣浦声会 精古場 大垣市竹島町善念寺 住所 京都市左京区下鴨芝本町五八 浦 田 保 利

名古屋修 諷 会 梅 若 修 一

名古屋 觀 生 会 野 村 四 郎 東京都杉並区永福四丁目三〇一〇 電話(〇三)三二二一五二九 名古屋精古場 名古屋市中区栄五丁目一四 栄能楽舞台

水 雲 会 水 藤 元 三

初 陽 会 武 田 宗 和

下 田 雄 三 雄謀会中部地区連合会 名古屋和 一宮竹 岐原雄花 下原雄雄 萩原雄雄 高文雄雄 俊文雄雄

宝 生 英 雄 宝 生 英 照

名 古 屋 巽 会 辰 巳 孝

佐 野 正 治 千 野 金沢市泉野町四丁目二十二十四

佐 野 由 於 千 野 東区品川区大崎五丁目一〇四

本 田 光 洋 東京都中野区上高田二丁目二五ノ二 電話(〇三)三八六二六四一

龍吟会ゆかた会 八月十九日(日)十一時始

豊嶋三 千 春

本 田 光 洋

(親世)住吉詣 小島一英 西村 欽也 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛 井上松次郎

龍吟会ゆかた会

八月十九日(日)十一時始

熱田神宮能楽殿

Table listing performers and their roles for the 'Ryūrin Kai Yukata Kai' event. Roles include '一管鈴之段', '連管中之舞', '躰子芦刈', '躰子高', '躰子三', '躰子香', '躰子運', '躰子唐'.

観能 好演、英雄の「綾鼓」

名古屋宝生会定式能

名古屋宝生会定式能(六月十七日)の「綾鼓」を特に感銘深く覚えました。宝生英雄の、どちらかといえば愛敬のない、木を割ったような芸風が、この曲にぴったりはまりました。

乱して右往左往する後シテの姿は、恣に首いたあわれな洩問しい老人の象徴です。英雄の好演を追想して陶酔感にひたっている間に、ふと気になることを思い出しました。前場のシテが橋掛りを引込んでいる時です。地謡の後列があわてたように立上り楽屋へ引上げました。シテがまだ橋掛りを歩いているうちに、大変失礼なことではないでしょうか。見所の緊張をさまたげ、ふん囲気をこわすこととちろんです。あるいはシテの装束直しを急いで手戻す必要があったのかも知れません。然し、それはそれこそ楽屋の内証話です。表立って弁解できる話ではありません。どうせあと一、二分のこと、シテが幕に入ってしまうまで、どうして待てな

主備青 陽 会 名古屋市熱田区神宮一丁目一 熱田神宮能楽殿内 電話〇五二六七二一九二番

瀬戸で初の演能

8月12日 悠福会20周年記念 武田志房師「羽衣」上演

きたる八月十二日(日)瀬戸市文化センターで、武田志房師の能「羽衣」、狂言「棒擧」(井上松次郎師はか)が上演される。この催しは、瀬戸市を中心とする悠福会(名誉師範・加藤武氏主宰)が創立二十周年を記念して開催するもので、能・狂言・清謡・舞踊・仕舞など上演。能上演は瀬戸市では始めてであり、加藤瀬戸市長は「一昨年完成した文化センターは今日まで多彩な催物が繰りひろげられてきたが、能楽がなかったので、不思議でありません。

大会の開催は初めて、文化センターの文化芸術活動もさらに幅広いものになる契機」と祝辞をよせている。上演は前記の能「羽衣」(棒擧)は、はじめ清謡「道成寺」(加藤武)「求家」(武田久子)「露上」(松原叶江)「俊寛」(中島恭)「千手」(加藤ふみ子)「通小町」(小島豊子)、舞踊、連吟、仕舞など。武田太加志、武田志房、武田宗和、岡久広、武田尚浩、村瀬純、井上松次郎の諸氏が来演。主催悠福会(連絡所瀬戸市前田町二五、加藤武方)後援八声会、瀬戸市教育委員会。午前九時半始、入場無料。

大阪 能「自然居士」上演

大機能楽堂の第五回自主公演は、八月八日(水)催される。仕舞「半部」(南条秀雄)「融」(片山博太郎)狂言「蚊拍撲」(茂山千五郎、木村正雄、茂山あきら)能「自然居士」(観世鏡之丞、ツレ斎藤馬ワキ中村信光、ワキツレ植田隆之亮、笛・杉市和、小鼓・久田舜一郎、大鼓・山本孝、間・茂山千之丞、地謡・片山博太郎、大機文蔵、泉泰孝、山中義滋ほか)

【訂正】本紙六月号①面「名古屋新能」記事で、前売り券千八百円とあるのは「千八百円」の間違ひにつきお詫びして訂正します。

Table listing various associations and their members. Columns include names like 雲会, 内藤泰二, 菊扇会, 後援会, 廣田泰三, 金剛流華月会, 今井清隆, 金剛流, 吉川周子, 高安会, 西村欽也, 高安勝久, 豊嶋十郎, 江崎正左衛門, 江崎金治郎, 廣田後援会, 廣田幸稔, 廣田瑞弘, 福王茂十郎.

五・六月の舞台から

「九皇会」・「やるまい会」・「観世会」

「吉野天人」シテ(保彦)の運びに、かつてモノロー・ウォークと云われた先代喜之の面影を見えて懐しかった。中人、八月の夜遊を見せ申さん、とワキ(欽也)にアシクウと云うに自信を込めかせたが、後シテはやや大振りの長相を着こなし得ず、袖を返したり被りたりに少々不満が残った。天人に都郎があれば、都の味が捨て難かった。(48分)

能と狂言の会

九月二十四日(祝)十二時三十分始

熱田神宮能楽殿

通小町

梅田 邦久

雁楽

後見 赤松 祐友

獅子

一調一管

道成寺

赤頭 間

入場料 九千円(全自由席)
入場券のお求めは
熱田神宮能楽殿 電話(053)六七二二九一二
藤田六郎兵衛 電話(053)五七一五七六三
三越松坂屋 電話(053)五七一五七六三

合に濃密な現世の無常感が一転して地獄の業苦となる緩急自在の型の巧妙に喜ぶの充実ぶりがあった。ただ地は少々荒かった。(60分・5月19日・九皇会所見)

「附子」留守居の無聊から前す悪戯心を、太郎冠者(留行)の大胆、次郎冠者(融)の細心が旨く絡んですっきり纏まった。(21分)

「石神」権高な女房ぶりが水際立つアト又三郎の神楽が、種蒔から鳥跳びへとエスカレートし、艶めく肢体にシテ万作が屈たたまれずに浮かれ出す呼吸と、いつしか神楽の陶酔境にあったアトがそれを見られて羞恥狼狽し、迫込みへと雪崩れ込んでゆく迫りの一種艶笑諷刺のおかしさが素晴らしい。(39分)

- 59年7月・8月放送予定
[7月]
NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)
22日(日) 観世流「天鼓」山本真賀ほか
29日(日) 宝生流「歌占」松本忠宏ほか
NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)
22日(日) 金剛流「女郎花」金剛 巖ほか
19日(日) 観世流「都都」梅若紀彰ほか
[8月]
NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)
5日(日) 観世流・番噺子「朝長」◎武田大加志ほか
12日(日) 同 上 ◎
19日(日) 宝生流「七騎落」今井泰男ほか
26日(日) 金剛流「女郎花」金剛 巖ほか
NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)
5日(日) 金春流「教盛」金春晃実ほか
12日(日) 宝生流「歌占」松本忠宏ほか
19日(日) 大西信久、上田照也、寺井政教各師を偲ぶ
26日(日) 観世流「女象」大槻秀夫ほか
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)



高安流岡 同門会
岡次郎 右衛門
清水 利宣
高坂 康弘
森 晴蔵
北野 三郎
中川 湖舟
伊藤 久蔵
塩田 耕三
村山 利弘
清水 昭

九州高安流同人会
飯富 良人
飯富 徹
大山要二郎
山崎 俊輔
横田 富生

龍吟会
藤田六郎兵衛
名古屋市中区福下二丁目一〇番九号
電話(〇五二)五七一五七六三

幸圓次郎
幸義太郎
野中正和
幸方

大倉源二郎
大倉正之助
大倉長十郎
(大蔵方)
千161 東京都新宿区下落合二丁目一四一五〇
電話(〇三三)九五〇一三二六〇番

幸友会
福井啓次郎
福井良久
福井良治
柳原富司 忠

桂 会
後藤孝一郎
飯島 佐之六
千920 金沢市香林坊2-18-8

寛鉦一
吉田定男
長生会
鬼頭喜太郎
鬼頭好英

助川 竜夫
大蔵狂言会
大蔵彌太郎
大蔵基義

和泉元秀
大蔵狂言会
大蔵彌太郎
大蔵基義
千215 川崎市麻生区岡上四三八一
電話(〇四四)九八七一一八七番

三宅藤九郎
狂言共同社
名古屋和泉会
千170 東京都豊島区北大家1-24-16

茂山千五郎
千真正千五郎
千三郎
京都市上京区中筋通り石薬師上ル

狂言やるまい会
野村又三郎
千460 名古屋市中区正木二丁目16-25
電話(三三二)七五五三番

世阿弥記念碑建立

記されている。
ここ味間の補殿寺は、至徳元年開基の権刹であるが、寺蔵の納帳

の資金に基づいて、世阿弥の父觀阿弥没後六百年、補殿寺開基六百年の年にこの碑を建立した。

により除障、表章氏の建碑の功をさつ、田原本町渡辺町長の祝辞、功労者表彰として山本勝一氏、補殿

後見 本田 光洋 地盤 永田 孝司 中村 富次

松岡 賢二 林 鉄郎 小島 芳樹 吉場 広明 金春 安明 中村 富次

発行 能楽の友社
名古屋市中千区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋0-36393
購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
— 部 70円

能楽の友

謡曲名所めぐり旅行

「熊野」ゆかりの洛東の謡曲名所探訪
11月23日(祭)に実施
会費 8,500円 (詳細9月号)

世阿弥記念碑建立 8日補巖寺(奈良)で除幕式

世阿弥の偉業を顕彰すべく、奈良県磯城郡田原本町味間の曹洞宗 宝陀山補巖寺(ふがんじ)に建設がすすめられていた世阿弥記念碑の除幕式が、八月八日午後二時から関係者多数が列席して盛大に行われた。

この事業は、世阿弥祈期成会(本紙五十八年二月号既報)が中心となり五十七年十一月から舞臺活動を展開、五月末現在で四百六十三口、千二百万四千円の寄付金が集められた。碑は高さ二、四二〇センチ、幅五、九七センチ、台座とも高さ三、一一二センチ。

碑文は中央に大きく「世阿弥参学之地」と記され、道元禪師真筆から集字され、左右に次のように記されている。

世阿弥の補巖寺は、至徳元年開基の禪刹であるが、寺威の納帳に能楽の大成者世阿弥と妻の法名が見られ、ここが夫妻の菩提寺で遺著「花鏡」等に顕著な世阿弥の禪的教養は、当時二代竹窓智恵からに就いて参学した結果と信じられる。その事を解明したのは故香西精であり、ここに世阿弥を顕彰し、願したの故山本博之であるが、先覚の志も空しく光陰が過ぎた。このたび、世阿弥の遺徳を仰ぐ者や地元有志が發起し、各界から



第19回 名古屋薪能 2000人の観客で盛会

第十九回名古屋薪能は、八月四日、熱田神宮神苑の特設舞臺で開催され、二千人に近い観客で会場を埋め盛況であった。

当日は、連日三十数度の酷暑につき、午後には市内の東部に雷雨があるなど心配されたが、予定どおり開演、夏の夜にくりひろげる幽玄の境地に誘った。

演能は金春流仕舞「加茂」観世流仕舞「松風」「放下僧」「昭君」につづき金剛流舞踊子「八島」・宝生流能「鶴亀」(シテ鈴木義久)のち、熱田神宮・長谷晴男権宮司による火入れ式が行われた。つづいて、喜多流能「橋弁慶」(シテ長田颯)、「和泉流狂言」(山伏)「野村又三郎ほか」の上演さらにけんらん、俊慶の王朝絵巻をくりひろげる観世流能「住吉詣」(シテ小島一英)で盛会のうちには午後八時半終了した。

- #### 演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)
- [8月]
19日(日) 龍吟会ゆかた会 (来場歓迎)
25日(土) 名古屋学生能楽連盟大会 (一般非公開)
26日(日) 名古屋宝生流官庁楽団連合大会 (来場歓迎)
- [9月]
2日(日) 名古屋金春会能 (第一部来場歓迎、第二部有料) (番組①面)
8日(土) 竹前観唱会 (来場歓迎) (番組①面)
9日(日) 観世会定式能 (有料) (番組②面)
15日(祝) 武田太加志喜祝賀能 (有料) (番組③面)
16日(日) 宝生会定式能 (有料) (番組④面)
21日(金) 中日文化センター芸能発表会 (来場歓迎)
22日(土) 観世九泉会定期能 (有料)
23日(日) 和泉会 (来場歓迎)
24日(日) 龍と狂言の会 (藤田六郎兵衛主催) (有料)
30日(日) 武田謡楽会大会 (来場歓迎)
- [10月]
6日(土) 菊恵会大会 (来場歓迎)
7日(日) 草楽会大会 (来場歓迎)
10日(祭) 下田三師中部地区連合会能 (来場歓迎)
13日(土) 青陽会能 (有料)
14日(日) 邦楽会創立30周年記念能 (来場歓迎)
21日(日) 故梅若彌義・13回忌追善梅指金能 (有料)
27日(土) 清陽会能 (来場歓迎)
28日(日) 淡交会大会 (来場歓迎)
- [11月]
3日(祭) 福井啓次郎職分30周年記念能 (有料)
4日(日) 風韻会能 (来場歓迎)
10日(土) 朝日カルチャーセンター発表会 (来場歓迎)
11日(日) 観世会定式能 (有料)
17日(土) 観世陽会大会 (来場歓迎)
- (演能変更の節はご了承下さい)

名古屋金春会同門会

九月二日(日) 午前九時始
熱田神宮能楽殿

連吟	仕舞	連吟	仕舞	連吟	仕舞
高竹	熊井舟	熊井舟	熊井舟	高竹	熊井舟
砂	野島	野島	野島	砂	野島
岸	三輪昌宏	三輪昌宏	三輪昌宏	岸	三輪昌宏
中川由美	中村正之	中村正之	中村正之	中川由美	中村正之
小島芳樹	原重之	原重之	原重之	小島芳樹	原重之
赤広一雄	赤広一雄	赤広一雄	赤広一雄	赤広一雄	赤広一雄
永田孝司	小林喜行	小林喜行	小林喜行	永田孝司	小林喜行
渡部道三	長尾勇人	長尾勇人	長尾勇人	渡部道三	長尾勇人
伊藤嘉彦	土島充久	土島充久	土島充久	伊藤嘉彦	土島充久
三好祐子	三好祐子	三好祐子	三好祐子	三好祐子	三好祐子
水野潤三	佐藤九郎	佐藤九郎	佐藤九郎	水野潤三	佐藤九郎
堤杉浦	佐久間祥夫	佐久間祥夫	佐久間祥夫	堤杉浦	佐久間祥夫
米杉浦	米杉浦	米杉浦	米杉浦	米杉浦	米杉浦
幸夫	幸夫	幸夫	幸夫	幸夫	幸夫
幸三	幸三	幸三	幸三	幸三	幸三

名古屋金春会能

九月二日(日) 午後二時始
熱田神宮能楽殿

連吟	仕舞	連吟	仕舞	連吟	仕舞
高竹	熊井舟	熊井舟	熊井舟	高竹	熊井舟
砂	野島	野島	野島	砂	野島
岸	三輪昌宏	三輪昌宏	三輪昌宏	岸	三輪昌宏
中川由美	中村正之	中村正之	中村正之	中川由美	中村正之
小島芳樹	原重之	原重之	原重之	小島芳樹	原重之
赤広一雄	赤広一雄	赤広一雄	赤広一雄	赤広一雄	赤広一雄
永田孝司	小林喜行	小林喜行	小林喜行	永田孝司	小林喜行
渡部道三	長尾勇人	長尾勇人	長尾勇人	渡部道三	長尾勇人
伊藤嘉彦	土島充久	土島充久	土島充久	伊藤嘉彦	土島充久
三好祐子	三好祐子	三好祐子	三好祐子	三好祐子	三好祐子
水野潤三	佐藤九郎	佐藤九郎	佐藤九郎	水野潤三	佐藤九郎
堤杉浦	佐久間祥夫	佐久間祥夫	佐久間祥夫	堤杉浦	佐久間祥夫
米杉浦	米杉浦	米杉浦	米杉浦	米杉浦	米杉浦
幸夫	幸夫	幸夫	幸夫	幸夫	幸夫
幸三	幸三	幸三	幸三	幸三	幸三

「おことわり」 暑中お慶いは紙面の都合にて勝手ながら七月号、八月号に分けて掲載いたしました。何卒ご理解賜わりますようお願い申し上げます。

市民の劇場 和泉流狂言上演
8月公演

師が「道成寺」を披露する。ワ
キ和泉昭太郎、苗・藤田六郎兵衛、
小鼓・柳原重司忠、大鼓・河村総

武田太加志師喜寿祝賀能
九月十五日(敬老の日)正午始

麦の会

茂山忠三郎
606 京都市左京区北白川大覚寺47-1
電話(075)777-2111

能楽の友読者招待
9月2日 金春会能
能「三井寺」「望月」
狂言「雁大名」

二井栄逸師画抄集
85能画カレンダー
ご好評を頂いております本紙連載「青雅日記」の二井栄逸
師画集による昭和六十年能画カレンダーが発行されます。
能画は二井栄逸師の画抄集より「草子洗小町」「岡田川」
「二人静」「松風」「紅葉狩」「砦」、オフセット4色刷
B14(タテ51・5センチ×ヨコ38・0センチ)表紙本文と
も7枚の美麗カレンダー(特注には社名刷込みします。)
昨年と同じく本紙で取り扱いますのでお申込み下さい。
◎予約特価一部千五百円、郵送の場合送料三百五十円が加
わりますので一部千四百五十円。(但し二部以上は部数に
かわらず送料は五百円。)

観世会定式能
九月九日(日)十二時半始
熱田神宮能楽殿
能組
素組
トモ 祖父江修一
ツレ 清沢一政
小 督 武田邦弘 今村喜男
高野物狂
武田友志
武田太加志
間 杉江元
西村欽也
飯富雅介
後見 中川雅章
野村四郎
茂山正義
入間川 狂言 茂山千五郎
松本義典
後見 茂山真吾
笠之段 武田志房
玉之段 浦田保利
野村四郎
谷田宗二朗
後藤孝一郎
森本重一
殺生石
後見 小島一英
武田志房
間 地謡 高橋幸親
中川武田
中村和男 武田宗和
武田邦弘
附祝言 (終了 五時前頃)
主催名古屋観世会
当日券 六千円(自由席)

暑中御伺
ピデオ撮影
西川企画画
名古屋観世会
梅若紀彰
井上嘉久
大江将董
久田銀正会 久田徹二
大倉流小坡 久田舜一郎
郁譚会 前野郁子
松誼会 松山幸親
笙月会 中川雅章
芳韻会 稲生芳雄
加賀敏彦
松和金中村和男
幸韻会 近藤幸江
清韻会 今村嘉勇

谷田宗二朗
長田驍後援会
二井栄逸
和島富太郎
喜多実
中部金春会
前田茂穂
米本平一



大阪薪能
11、12日 生國魂神社で
大阪薪能は八月十一、
十二日の二日間、生國魂
神社で開催。
主催 能楽協会大阪支部
大阪薪能委員会、後援 大阪府、大
阪市、府、市教育委員会、大阪21
世紀協会。
第一日 観世流能「夏夜」(佐
々木勝輝、南条秀雄) 大蔵流狂言
「千鳥」(善竹孝太) 観世流能「野
宮」(梅若盛義)「一角仙人」(大
槻文蔵)
第二日 宝生流能「田村」(辰
己孝門) 大蔵流狂言「伯母が酒」
(善竹長徳) 観世流能「花籃」(山
本真賢) 観世流能「土蜘蛛」(大
西智久)
鏡之丞師の「砦」
大阪能楽鑑賞会9月公演
大阪能楽鑑賞会の9月公演は九
月十八日、大阪能楽会館(北区中
崎西二丁目)で、観世流能の丞師の
「砦」を上演する。
狂言は「節分」(茂山真吾) 比
舞「清経」(山本順之)「三井寺」
(片山博太郎)
A席(指定席)四千八百円、B
席(自由席)三千三百円(前売三
千円) 同鑑賞会電話06(234)一
三八四七番

暑中御伺
ピデオ撮影
西川企画画
名古屋観世会
梅若紀彰
井上嘉久
大江将董
久田銀正会 久田徹二
大倉流小坡 久田舜一郎
郁譚会 前野郁子
松誼会 松山幸親
笙月会 中川雅章
芳韻会 稲生芳雄
加賀敏彦
松和金中村和男
幸韻会 近藤幸江
清韻会 今村嘉勇

暑中御伺
ピデオ撮影
西川企画画
名古屋観世会
梅若紀彰
井上嘉久
大江将董
久田銀正会 久田徹二
大倉流小坡 久田舜一郎
郁譚会 前野郁子
松誼会 松山幸親
笙月会 中川雅章
芳韻会 稲生芳雄
加賀敏彦
松和金中村和男
幸韻会 近藤幸江
清韻会 今村嘉勇

待印を押し返して返信ハガキをお送り致します。演能当日、能楽殿受付にてご提出下さい。

市民の劇場 和泉流狂言上演

「佐渡狐」「武悪」「首引」

名古屋市民会館では、八月の自主文化事業として、きたる八月二十八日、和泉流の名手による「狂言」三番を上演する。

同公演は市民会館自主企画として行われている「市民の劇場」の第百十回目に当り、朝日新聞、名古屋テレビが共催、名古屋市教育委員会が後援している。

番組は「佐渡狐」(野村又三郎、井上礼之助、井上松次郎)「武悪」(野村万之丞、野村万作、佐藤友彦)「首引」(和泉元秀、和泉元弥、大野弘之ほか)会場は名古屋市民会館中ホール、午後六時半開演。

二井栄逸 能画展

松坂屋本店で23点出品



能画家・二井栄逸氏の能画展が七月二十六日から三十一日まで六日間、名古屋・松坂屋本店八階の美術画廊で開催され、愛好者の鑑賞とともに成約もめだち、盛会であった。

中川雅章師 「道成寺」上演

9月15日 武田太加志喜寿祝賀能 観世流シテ方・武田太加志師の喜寿祝賀能が九月十五日(敬老の日)熱田神宮能楽殿で催される。

観能

楽しめた「若市」

今年の朝日狂言会(七月十五日)は大曲揃い、見所も満員の盛況でしたが、一番楽しめたのは「若市」でした。

井上祐一の若市がまことに結構な出来で、なんとも色気のある尼僧姿、権高な言葉使いに、こりや何かあるな、あるとしたら色々とだな、と舞台へ出たトタンに思わせたのは大したもの。和泉元秀の住持が俗臭フンブンとして若市から心あたりから、いよいよよさうだと感づかない見所はないかっただけで、あるまじき境界の情事だけに、舞台の表面にはそれとおぼす言葉もなく、若市を

ののしり打つ住持の理不盡さが目立つばかり、その仕返しにまた尼僧仲間を動員して押し寄せるあたりは、一見不自然の感はまぬかれません。

決して名作とは云えず、同一趣向の「愚問」とは比較になりませんが、住持と若市の隠れた関係を想像し、いろいろと愛憎の線をたぐっていくと、興味しんしんとて盡きず、曲の不自然さが気にならぬどころか、皮肉な作者の眼と演出の技巧に敬意を表したくさくなります。

舞台の印象もサラリとして淡白いやらしさなど吹く風で、気の

のきいた小品ながらにまとまっ

たが、前半の仙蔵主はいささかもたつき加減、後半をからけてコ

ンと鳴くあたりから本領を発揮して面白かった。井上松次郎の

師が大元気で、狐との格闘は大熱演、結局「芸」より「人」の釣狐

武田太加志師喜寿祝賀能

九月十五日(敬老の日)正午始 熱田神宮能楽殿

小袖曾我

祖父江修一 武田 志房

桶の酒

佐藤 友彦 井上礼之助

鶴

武田 文志 武田 宗典

春

武田 友志 武田 宗典

小鍛冶

武田 友志 武田 宗典

附祝言

東京中野区中央一丁目二六二〇五

入場料

指定席A 二、〇〇〇円 指定席B 一、〇〇〇円

尾張旭市東大道町原田二六二一〇六

暑 21213 電話(052)5711581-6

伺

森田 光春

御

瀬尾 乃武

中

亀井 俊一

暑

前川 光隆

表

長田 久

表

梅田 邦久

表

久田 徹二

表

森田 光春

表

谷口 正喜

清風会 今村 嘉勇

茂山 忠三郎

善竹 忠一郎

中村 喜彦

栄能楽舞台

朝日カルチャーセンター

楽諷庵舞台

葵心庵舞台

能楽の友社

〔お断り〕暑中広告の掲載はまことに勝手ながら紙面の都合にて七月号、八月号に分けて掲載させて頂きましたので何卒ご理解賜りますようお願いいたします

第廿八期・第三回 名古屋宝生会定式能

九月十六日(日)午後一時始
熱田 神宮 能楽 殿

- | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|---------|--------|-------|---------|--------|
| 衣 愛 | 番 能 | 生田敦盛 | 後見 辰巳 孝 | 水 仕 | 三 輪 | 千手 衣 | 謀生 狂 |
| 竹内 澄子 | 飯 雅介 | 鬼頭 英二 | 馬場 富四夫 | 丸 辰巳 孝 | 輪 耕司 | 重内 藤 泰二 | 井上 礼之助 |
| 福井 良治 | 山本 良治 | 福井 良治 | 小村 頼子 | 鬼頭 嘉男 | 吉田 定男 | 西村 欽也 | 井上 松次郎 |
| 福井 良治 | 山本 良治 | 福井 良治 | 小村 頼子 | 鬼頭 嘉男 | 吉田 定男 | 西村 欽也 | 井上 松次郎 |
| 福井 良治 | 山本 良治 | 福井 良治 | 小村 頼子 | 鬼頭 嘉男 | 吉田 定男 | 西村 欽也 | 井上 松次郎 |

- 女 郎 花
戸田 和
西村 欽也
大野 弘之
福井 啓次郎
鬼頭 喜太郎
森本 重一

附 祝 言
主 催 名 古 屋 宝 生 会
名 古 屋 市 和 区 山 里 町 一 三 五
内 藤 藤 三 方 電 話 八 三 二 一 三 四 九 番

9月に栄謡曲祭
栄能楽堂創立
10周年を記念
名古屋の都心、中区栄五丁目にある「栄能楽堂」は、昭和四十九年秋、後藤新蔵氏の篤志で創立され、ことしで満十周年を迎える。この十年間、能楽はもとより、邦楽全般の数少ない発表の場の一つとして、地元の伝統芸能の振興に寄与してきているが、日頃同舞台を研さんる場として利用している。

同好の有志により、舞台創立十周年を祝う記念の催しをという機運が高まり、きたる九月二十三日(日)「創立十周年記念・栄謡曲祭」が催される。行事は、第一部(午前九時開始)謡曲、仕舞約二十番、第二部(午後六時)祝賀パーティで、謡曲愛好者なら誰でも自由に参加できる。問い合わせは、栄能楽堂・電話〇五二二二六二二一八三番、又は世話人三浦謙介方・電話〇五二二七八二一八八五番。

七月の舞台から

「第26回朝日狂言会」と「九阜会」

「木六駄」十二頭の牛を追ってゆく難儀を考えると、シテ太郎冠者(千五郎)が、空の黒い故明日に、と言っただけでいともあっさり主(真喜)の頼みを引き受けるのが拍子抜けする位だった。それからあらかぬか一曲を通して千五郎の持つ遊びの気分は殊更色濃く、茶屋での酒盛は旨うに及ばず、昨の登り下りに小謡を口ずさむなど、鼻唄まじりといった抜配であり、酒盛はまた茶屋(千之丞)が、酒の太鼓冠者は乗りに乗り、酔余の舞は実に陽気そのものだった。酔った粉れた新六駄を茶屋に連立していきさかも思われるところは無く、その酔態は伯父(狂雲)に会ってからも愛らず、はらはらさせられる態のものだった。僅かに茶屋の肩衣の雪片散シ文様が、「雪の狂言」を暗示しているが、「雪の狂言」の印象は

大坂能楽養成会 第二回研究発表会

9月4日 山本能楽堂
大坂能楽養成会の第二回研究発表会は、九月四日(火)山本能楽堂で開かれる。午後六時開始。番組は、観世流・舞囃子「敬盛」(シテ大西礼久、笛・山田和人、小鼓・吉阪一郎、大鼓・山本哲也)・宝生流・舞囃子「百万」(シテ広島克栄、笛・貞光訓義、小鼓・吉阪一郎、大鼓・守家紀之、太鼓・森田澄子)・観世流「忍神楽」(笛・野口雅夫、小鼓・清水皓祐、大鼓・守家紀之、太鼓・上田哲)・観世流「半番」(シテ山本博通、ワキ森本幸治、笛・貞光卓生、小鼓・清水皓祐、大鼓・山本哲也、地謡・河村信重ほか)

新作40余点を展示 能面研究会・面巧社の能面展

能面研究会「面巧社」は、七月三十一日から八月五日まで名古屋市博物館で新作能面展を開催、林龍雲師の特別出品はじめ、会員の力作約四十点を出品、多数の来観でにぎわった。作品は、翁、黒色厨、小牛厨、姥、小面、若女、孫次郎、増女、深井、平太、中將、羽法師、蟬丸、慈童、狸々、泥眼、般若、大飛出



- 59年8月・9月放送予定
- 【8月】
NHK・FM放送 (日曜日午前7時10分)
19日(日)宝生流「七騎落」今井泰男ほか
26日(日)金剛流「女郎花」金剛 巖ほか
NHKラジオ第2放送 (日曜日午前9時30分)
19日(日)大西信久、上田照也、寺井政教各師を偲ぶ
26日(日)観世流「玄象」大槻秀夫ほか
- 【9月】
NHK・FM放送 (日曜日午前7時10分)
2日(日)宝生流「俊寛」大坪十喜雄ほか
9日(日)喜多流「景清」友枝喜久夫ほか
16日(日)観世流「融」梅若万三郎ほか
23日(日)「玄象」大槻秀夫ほか
NHKラジオ第2放送 (日曜日午前9時30分)
2日(日)観世流番囃子「朝長」徹法
9日(日)武田大加志ほか
16日(日)宝生流「七騎落」今井泰男ほか
23日(日)観世流「玉鬘」井上嘉久ほか
NHK教育テレビ(午前9時)
9月15日 中尊寺の能「秀衡」
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

小鼓方・福井啓次郎師

宝生流舞囃子「岩船」(宝生英照) 独調「八島」(衣斐正宜) 小鼓・後藤嘉津幸

演 能 案 内

柿山伏 二村 敬勝 酒井 雅子

面打教室 於名古屋・朝日神社 毎週木曜日(月4回)午後5.30~8.00
指導 林龍雲
面巧社
電話問合せ <052> 211-4451
教室の見学・能面お求めになりたい方 お気軽におこし下さい

観世流・金剛流 宗家本 流元
檀書店
〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291) 2488-9
〒604 京都市中京区二条通鉄町東入 振替東京 3-3 552 電話(231) 1990 振替 京都 1-113

割烹・小料理 城
●熱田神宮能楽殿喫茶部 ●住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248

外科・せいけい外科・皮膚、泌尿器科
東山整形外科
TEL 781-7835
東山公園駅下車 オークランドビル2F

(2)

月刊(毎月一回10日発行) 第3種郵便物認可

友の楽能

昭和59年9月10日(第213号)

青月雅日記

雨月

えと文 二井栄逸

家のすぐ前の四五百坪が、台風
の余波をうけてさわめき、折りか
らの月明に高い梢がキラキラと輝
くのを、秋の到来をたしかめ
ました。もう、草むらには蟋蟀が
透き通る声で秋をうたい始めてい
ます。

新秋九月。さあ、出番ですよ
と、見得をさりとくなるような此
頃です。

鎌倉時代に成立した仏教説話集
に、撰集抄(せんじゅうしよう)
というのがあります。能の作者金
春洞竹(こんぼるせんちく)は、
この撰集抄に想を得て雨月とい
能を作りました。

この雨月、まことに閑雅、気品
の高い能で、前段は、月の光を仰
ぎ、一種神秘的な劇味があり、そ
れでいて劇臭がない。気の合った
者同士、秋の夜長を語うには格
好の曲です。

西行法師が摂津の住吉明神に社

参し、あたりの家に宿を借りよう
としたとき、そこに住む老人夫婦
が雨月の二つを争う風流の心に接
して、一首の和歌がまよります。

互いに雨月を争う内に、翁は、
賤が軒端を登きぞ煩う、と下の句
をよみます。この上の句を継がせ
て軒を登く。

10月21日名古屋公演

故梅若猶義追善別会能

故梅若猶義師の十三回忌追善別
会能は梅若盛義師主催、梅猶会後
援でことし三月、東京、今治での
春の公演につづいて、十月十四
日に東京・観世能楽堂、同二十一
日、名古屋・熱田神宮能楽殿、十
一月二十五日、大阪能楽会館で秋
の会として催される。

二井栄逸師画抄集

85 能画カレンダー

ご好評を頂いております'85能画カレンダー
B4(タテ51.5cm×ヨコ38.0cm)表紙とも
7枚の美麗カレンダーです。

- ◎ 予約特価 1部 1100円、郵送の場合送料とも1部
1450円(2部以上の場合送料は部数に拘らず
500円)
- ◎ 予約申込み期限 10月5日(それ以後は1部 1800円、ただし
部数によりお応えできない場合がありますのでご理解下さい)
- ◎ お申込み方法 ハガキで部数明記のうえ当社へ
お申込み下さい。代金は振替、切手、現金書留
いずれも結構です。

申込み先 能楽の友社
〒464 名古屋市中千種区千種2-18-18 電話(052)731-7984
振替口座 名古屋 0-36393

武田謳楽会秋季大会

九月三十日(日)午前九時始
熱田神宮能楽殿

番外舞神	歌	武田 欣司	吉井 基晴
舞獅子 春	栄	武田 大和	柳原富司忠
素謡 清	経	加藤 花子	池田 菊雄
井	筒	野村 和朝	阪野 昭和
舞獅子 高	砂	井上 苑枝	鬼頭喜太郎
小	督	北田 尚子	柳原富司忠
雲	林	後藤 とき	鬼頭喜太郎
菊	慈	童 小牧 大助	柳原富司忠
仕舞	鶴	村ヶ	野村寿美子
舞獅子 葛	城	池田 菊雄	柳原富司忠
山	衣	土野 典子	河村総一郎
羽	和	合之舞	福井啓次郎
仕舞	姥	今村 香	河村総一郎
仕舞	立	花	中里 明子
子方 武田 大志	通	小 町	松陰 真澄
花輪 一枝	河	村 総一郎	鬼頭喜太郎
法楽之舞	野	村 又三郎	藤田六郎兵衛
独吟 柳 之 段	鈴	木 信男	
番外仕舞 松	片	山 博太郎	
井上 苑枝	吉	井 順一	
舞獅子 俊成忠度	大	塚 幸二	後藤 孝一郎
班	女	高木 宏子	後藤 孝一郎
三	輪	小南 啓代子	後藤 孝一郎
弱	法	師 田中 萬子	後藤 孝一郎
素謡 天	鼓	林 留三	岡田 浩二
番外舞獅子 船	慶	武田 邦弘	後藤 孝一郎

猶惠会秋の大会

十月六日(土)午前十時始
熱田神宮能楽殿

仕舞 浮	舟	山田 梅子
阿	漕	河合すみ子
野	宮	萩野ちとせ
東	衣	辻 信子
舞獅子 鶴	龜	杉浦 一枝
雲	雀	山 永田 勝一
唐	船	小川 美愛
海	士	加藤 恵美子
融	日	下すみ子
舞獅子 三	輪	熊沢 恵美子

名古屋皇楽会秋季大会

十月七日(日)午前十時始

運吟社

森 千恵子
船橋 百合子
浅野 郁子
村松 敏子
村松 敏子
村松 敏子

観能独語

兄弟に有無を云わさぬり
しい武家女房の貞操がなくて盛
り上りを欠きます。この一巻を生
産したいやうに思っているように見
受けられます。芝居にならぬよう
指のワクをはみ出さないように

邦謡会創立30周年記念大会(二)

十月十四日(日)午前九時半始
熱田 神宮 能楽殿

素通 盛 竹内 英雄 住田 和男

半 蔀 兼田 元次 杉藤 芳男

景 清 田中 純一 橋本 正晴

舞臺子 菊 慈 童 官川 千尋 河村 大助川 竜夫

井 筒 山田とよ子 後藤孝一郎 鹿取 希世

小 督 野田 博子 河村 大助川 竜夫

能羽 衣 飯富 雅介 柳原富司 藤田六郎兵衛

仕舞社 若キリ 高沢寿美子

松山 幸親 清沢 一政

後見 今沢 美和 地謡 今村 嘉男 小野 徹二

武田 欣司 加賀 敏彦 武田 邦弘

松山 幸親 清沢 一政

後見 今沢 美和 地謡 今村 嘉男 小野 徹二

武田 欣司 加賀 敏彦 武田 邦弘

松山 幸親 清沢 一政

後見 今沢 美和 地謡 今村 嘉男 小野 徹二

武田 欣司 加賀 敏彦 武田 邦弘

松山 幸親 清沢 一政

後見 今沢 美和 地謡 今村 嘉男 小野 徹二

武田 欣司 加賀 敏彦 武田 邦弘

松山 幸親 清沢 一政

後見 今沢 美和 地謡 今村 嘉男 小野 徹二

武田 欣司 加賀 敏彦 武田 邦弘

松山 幸親 清沢 一政

龍松 半田 智子 小林富美子
風 西村 欽也 吉田 定男 藤田六郎兵衛
見留 井上松次郎 祖父江修一 久田 徹二
梅田 邦久 須部 一政 武田 邦弘

仕舞加 茂 丸井 秀子
野 宮 丹羽 久子
班 女アト 磯谷 行雄
雨 之 坂田 猛

花 笹 深川寿美子 寛 敏一 鹿取 希世
善 知 鳥 森崎 紀子 吉田 定男 鹿取 希世

狂言 柿 山 伏 佐藤 友彦 井上礼之助
番外 養 梅田 邦久 片山慶次郎
老 西村 欽也 河村 大助川 竜夫
水波之伝 飯富 雅介 柳原富司 藤田六郎兵衛

後見 祖父江修一 地謡 安藤 勝朗 小野 徹二
須部 一政 武田 邦弘

主催 邦 梅 田 邦 久 会

〔御来場歓迎〕

主催 謡曲名所めぐり

11月23日「熊野」道行を訪ねる

本紙では、毎年謡曲名所めぐりのバス旅行を実施しておりますが、本年は「熊野」「田村」「花月」にゆかり深い清水寺を中心とした六波羅密寺、田村堂、地主権現、子安塔、さらに泉涌寺(舍利)を訪ねます。紅葉の秋、お誘い合わせに参加下さい。
〔日時〕十一月二十三日(祝)
集合、愛知文化講堂前(NHK名古屋南側)午前八時、出発八時十分、帰着予定午後七時(雨天でも実施します)
〔定員〕四十八人(※申込み多数)
〔料金〕八千五百円(バス代、昼食代、拝観料一切を含みます)
〔申込〕本紙の謡曲名所めぐり集をご持参下さい。
「熊野」「田村」「花月」「小舎利」「舍利」「融」(詳細は会員券にてご案内いたします。)
お申し込み、会費を添えて現金書留、または振替にて左記へお申込み下さい。
名古屋千種区千種2丁目18-18(〒464) 能楽の友社(電話052-731-7984)
振替口座名古屋 01936393

風韻会 能

十一月四日(日)午前十時始
熱田 神宮 能楽殿

素通 能 組 富田 貞子 岩田 扶巳

舞臺子 石 輪 大池 智声 石崎 博一

連吟 鉄 輪 大池 智声 石崎 博一

萬 萬 小島 初恵 小笠原敦子

仕舞放 下 備 生浦 貞枝 大矢 浩子 谷口 寛子 足立 悦子 高田みね子

独吟 井 筒 日比大吉郎

花 笹 阿部 タマ 志方つね子

舞臺子 石 輪 大池 智声 石崎 博一

連吟 鉄 輪 大池 智声 石崎 博一

萬 萬 小島 初恵 小笠原敦子

仕舞放 下 備 生浦 貞枝 大矢 浩子 谷口 寛子 足立 悦子 高田みね子

独吟 井 筒 日比大吉郎

花 笹 阿部 タマ 志方つね子

舞臺子 石 輪 大池 智声 石崎 博一

連吟 鉄 輪 大池 智声 石崎 博一

萬 萬 小島 初恵 小笠原敦子

仕舞放 下 備 生浦 貞枝 大矢 浩子 谷口 寛子 足立 悦子 高田みね子

独吟 井 筒 日比大吉郎

花 笹 阿部 タマ 志方つね子

舞臺子 石 輪 大池 智声 石崎 博一

連吟 鉄 輪 大池 智声 石崎 博一

萬 萬 小島 初恵 小笠原敦子

能野

弱法師 鬼頭貴代子 吉田 定男 福井啓次郎 鹿取 希世

合奏留 大野 弘之

後見 近藤 幸江 地謡 伊藤 貞子 山本 正人

舞臺子 石 輪 大池 智声 石崎 博一

連吟 鉄 輪 大池 智声 石崎 博一

萬 萬 小島 初恵 小笠原敦子

仕舞放 下 備 生浦 貞枝 大矢 浩子 谷口 寛子 足立 悦子 高田みね子

独吟 井 筒 日比大吉郎

花 笹 阿部 タマ 志方つね子

舞臺子 石 輪 大池 智声 石崎 博一

連吟 鉄 輪 大池 智声 石崎 博一

萬 萬 小島 初恵 小笠原敦子

仕舞放 下 備 生浦 貞枝 大矢 浩子 谷口 寛子 足立 悦子 高田みね子

独吟 井 筒 日比大吉郎

花 笹 阿部 タマ 志方つね子

舞臺子 石 輪 大池 智声 石崎 博一

連吟 鉄 輪 大池 智声 石崎 博一

萬 萬 小島 初恵 小笠原敦子

仕舞放 下 備 生浦 貞枝 大矢 浩子 谷口 寛子 足立 悦子 高田みね子

独吟 井 筒 日比大吉郎

花 笹 阿部 タマ 志方つね子

舞臺子 石 輪 大池 智声 石崎 博一

連吟 鉄 輪 大池 智声 石崎 博一

演能案内

秋の清謡会(第七回)

十月二十七日(土)午前十時始

59年9月・10月放送予定
〔9月〕
NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)
23日(日) 観世流「玄象」大柳秀夫ほか
30日(日) 和泉流「鬼瓦」和泉元秀ほか
NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)
23日(日) 観世流「玉鬘」井上喜久ほか
30日(日) 喜多流「松虫」粟谷菊生ほか
NHK教育テレビ(午前9時)
23日(祝) 狂言「歌仙」野村万作・野村万之丞ほか
〔10月〕
NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)
7日(日) 宝生流「檢壇」近藤三ほか
14日(日) 同 上 同 上
21日(日) 喜多流「松虫」粟谷菊生ほか
28日(日) 観世流「玉鬘」井上喜久ほか
NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)
7日(日) 観世流「山姥」関根祥六ほか
14日(日) 観世流「安達原」谷村一郎ほか
21日(日) 宝生流「俊寛」大坪十喜雄ほか
28日(日) 観世流「梅若」梅若盛義ほか
NHK教育テレビ 10月10日午前9時
能と狂言「鬼・二熊」能「野守」金剛殿ほか
能「首引」茂山千五郎ほか
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

歳末助け 協賛能

各古屋市に寄託されている。ことしの演能は、観世流能「敦盛」(シテ高橋殿)・金剛流能

演能案内

各古屋市に寄託されている。ことしの演能は、観世流能「敦盛」(シテ高橋殿)・金剛流能



名古屋・本山駅 電 762-2434代表

能楽の友

題字は熱田神宮 藤田宮司筆

発行能楽の友社

名古屋千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一 部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[10月]

14日(日) 邦協会創立30周年記念大会 (来場歓迎)

21日(日) 故梅若猶義・13回忌追善梅猶会能 (有料)

27日(土) 秋の清談会 (来場歓迎) (番組①面)

28日(日) 淡文会大会 (来場歓迎) (番組②面)

[11月]

3日(祭) 福井啓次郎職分30周年記念能 (有料) (番組②面)

4日(日) 風韻会能 (来場歓迎) (番組③面)

10日(土) 朝日カルチャーセンター発表会 (来場歓迎)

11日(日) 親世会定式能 (有料) (番組③面)

17日(土) 初陽会大会 (来場歓迎) (番組④面)

18日(日) 宝生会定式能 (有料) (番組④面)

23日(祭) 和泉会 (有料)

24日(土) 修風会大会 (来場歓迎)

25日(日) 久田親正会大会 (来場歓迎)

[12月]

2日(日) 歳末助け合い運動協賛能 (有料)

8日(土) 一陽会叶石会大会 (来場歓迎)

14日(金) 熱田高校能観賞会 (関係者のみ)

16日(日) 壺泉会能 (有能)

[59年1月]

3日(木) 能楽協会名古屋支部新年開初式 (能楽協会関係者のみ)

12日(土) 名古屋学生能楽連盟能 (来場歓迎)

15日(祝) 名古屋清談会能 (来場歓迎)

27日(日) 青陽会定期能 (有料)

(演能変更の際はご了承下さい)

能・シエクスピア研究会主催 英語能第5回公演

能・ハムレット

11月11日磐田・醍醐荘で

英語能・ハムレットの上演で国際的にも関心をよんでいる能・シエクスピア研究会(NSG)の第5回公演「能・ハムレット」が十一月十一日(日)磐田市浜田の醍醐荘能楽台で催される。

古演出「葵上」

次回第六十四回は、明春四月七日(日)、「能「采女」(広田泰三)」「能「熊坂」(広田泰三)を上演。

野上記念・法政大学能楽研究所は、十月二十三日、国立能楽堂で古演出による「葵上」試演能をこの会の協賛により開催する。

広田後援会能

広田後援会は十月七日、金剛能楽堂で秋の後援会能を開催。

歳末助け合い運動協賛能 能楽協会名古屋支部主催 12月2日能4番上演

能楽協会名古屋支部(内藤三支部長)主催による昭和五十九年度の歳末助け合い運動協賛能は、きたる十二月二日(日)熱田神宮能楽殿で、能四番はじめ狂言、仕舞など上演。

追加	能融	能砧	能狂言	能舞	能経
梅若猶義	梅若猶義	梅若猶義	梅若猶義	梅若猶義	梅若猶義
...

附祝言	独調玉之段	雲林院	羽衣	葛城	舞通小町	舞難	独調狸	素羅千手	素羅花	素羅弱法師	素羅半葉狩	素羅竹生鳥	素羅歌	素羅正	素羅清
...

る第一部(午前九時始)には、素謡十番はじめ、仕舞、連吟、独吟... (電話)〇五二一七三二一九六六六

志月雅日記

走井の宿

えと文 二井栄逸

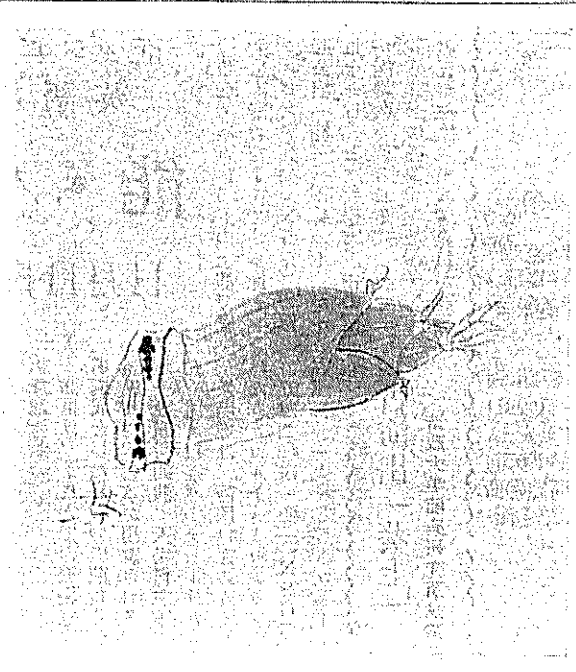
先日京都の月心寺から、月心寺での料理という本が届きました。その本は、住職の明道尼さんのお書きになった手記で、文化出版局から出版されたものでした。右半、右側の自由を奪われるという交通大事故を克服して、今、走井の精進料理として、多くの人から賞讃される身となられた明道尼さんの手記は、私共が、毎日食べている野菜等を通じて、しみじみと人生観が透み出てくるような文章であらうなっていました。

私はまだ、お目にかかったことはありませんが、お目に会ったことはありませんが、十月の始め、四日市の福徳寺の門生達と、月心寺をたずねることになっていますので、そんなことでの本を贈って下さったのかも知れません。

料理人としては、初の紫綬章までいただいたかたという、大阪高麗橋の吉兆の御主人の言葉をかりて言おうと、明道尼さんのつくられ

うとのこと。
調味料の塩とすし口一滴のことでも、そのお盆の味がうす過ぎて、腰がぬけた味になったり、活き活きとした湯えた味が生れるわけだ。明道尼さんは、その辺のコツをまことによくわかまえていられるとのことですので、楽しみにしています。

神の道を深くきわめられている故か、私共の芸の道にも通じる言葉も、いくつもかいていられます。一番料理も同じ真剣勝負や。白紙に向って生かすもころすも自分や。



料理することを面倒など少しでも思うたら、その料理は面倒な味になつてしまふ。

評論家の白洲正子さんが、日本のたぐみの中で、月心寺のことを次のように書いていられます。一門を入った左手は「走井」と書いた石の井戸があり、玄関から座敷へ通ると、相阿弥作と伝える庭園が現れる。紅葉の古木を通して、山から落ちる滝が正面に望まれ、その上方に清水が湧いていて注連縄がはりめぐらしてある。これを「元井」と称し、山の上から下まで水が流れているために、「走井」と呼ばれたのであろう。

古代から音に聞えた水で「蜻蛉日記」には、道綱の母が、真夏の頃にとこを訪れ、手足を冷して気持ちよくなったと記してあり、謡曲「蟬丸」の道行にも、「水も走井の影みれば」と、美しく謳われて

白洲正子さんの御主人は、学生の頃、四谷によくお稽古に見えていましたので存じ上げています。長身のスリとしたダンディな方で、今をときめく、歌人の馬場あき子さんや、横道さん方も御一緒でした。共に家元にお稽古にお出でになっていた喜多流ファンの方ばかりです。

茂山忠三郎・狂言の会

11月20日大阪、28日京都

「茂山忠三郎・狂言の会」は、毎秋全国四ヶ所で公演を行っているが、こし六年目を迎えて、東京(十月二十三日・宝生能楽堂)福岡(十月三十一日・住吉能楽堂)大阪(十一月二十日・大槻能楽堂)京都(十一月二十八日・京都観世会館)で開催される。

東京では「秋大名」「細柳」など大阪文化祭賞を受賞した作品上演、福岡では「三人かたは」「入間川」「右近左近」、第三夜の大槻公演は「文蔵」「狐塚」「抜般」で、狐塚は小唄入。忠三郎家の得意とする狂言歌謡の醍醐味を披露する。

京都公演は「土筆」「止動六角」

「塗師」。「止動六角」は大槻太郎宗家、茂山千五郎、茂山千作の出演。とくに今回は、各地で活躍する忠三郎家の門弟(重要無形文化財保持者)の出演が企画されている。

大阪、京都公演一般前売二千五百円、当日三千円。電話予約、問い合わせは〇六(八六三)八二五〇番・柳川方。

忠三郎(仕舞)菊慈童(泉泰孝)「塗之段」(観世鏡之丞)、前売券三千円。

次回は十二月十二日(水)能「井筒」(片山博太郎)狂言「六地藏」(茂山千之丞)

「一角仙人」「観猿」

明石古典芸能の会は、こし明石市民会館自主公演・第十回記念公演として、十一月四日(日)明石市民会館大ホールで開催される。

能「一角仙人」(シテ観世鏡之丞、ツレ久田徹二、ワキ中村弥三郎)狂言「観猿」(茂山正義、茂山千五郎、茂山真吾)仕舞「玉之能」(観世鏡之丞)のほか日本舞踊「大般若」(観世鏡之丞)も上演される。

秋季淡交会大会

十月二十八日(日)午前九時半始

- | | | |
|-------|-------------------|-----------------------------------|
| 番外仕舞老 | 松 | 橋岡 久共 |
| 素舞羽 | 衣 | 夫馬日出子 伊藤 吉子 |
| 藤 | 戸 | 中野 末子 鈴木多美子 仲尾 和子 |
| 大仏供養 | 立 | 堀浦 晃 子方 磯野 大弥 ツレ 大西 繁 児島 寺好 加藤 政義 |
| 通小町 | 鶴津 恵二 | 瀬戸 文雄 |
| 独吟松 | 風 | 千早 光子 松 風 加藤 孝長 |
| 仕舞羽 | 衣切 | 八木 栄子 紅 葉 狩 北条富美子 |
| 船井慶曲 | 加藤八千代 | 露 林 院曲 原 小夜 |
| 富士太鼓 | 武田ナナ子 | 班 女曲 西尾 伯子 |
| 独吟田村 | 吉田富貴松 | 俊 寛 長沢 三郎 |
| 雲林院 | 丸山 一郎 | |
| 素舞百 | 子方 浅井利記子 | 万 長尾 洋子 伊藤さち子 |
| 仕舞玉之段 | 長沢 良子 祐 | 古川波奈子 |
| 仕舞花月 | 松前佐和子 | 五 暈 酒井 一江 |
| 女郎花 | 松前 慶子 | |
| 仕舞敦盛曲 | 吉川 信得 融 | 伊藤 篤 |
| 紅葉狩 | 長尾 洋子 | |
| 独吟踊小町 | 池上 梢 | |
| 素舞当 | 梅田 弘子 | 橋岡 久共 |
| 隅田川 | 八木 栄子 大野 文子 大川 雪子 | |
| 舞臺子松 | 風 福代 綾子 | 吉田 定男 森本 重一 |
| 素舞山姥 | 姥 竹井 喜信 | 吉田 定男 鬼頭 好信 後藤孝一郎 森本 重一 |
| 仕舞江口 | 瀬戸 綾子 | |

福井啓次郎職分三十周年記念能

十一月三日(文化の日) 熱田 神宮 能楽 殿

- | | |
|----------------|--|
| 第一部(午前九時四十五分始) | 熱田 神宮 能楽 殿 |
| 舞臺子養 | 老 関根 祥六 河村総一郎 鬼頭喜太郎 水波之伝 幸 義太郎 藤田六郎兵衛 |
| 能清 | 関根知孝 野村 四郎 河村 欽也 河村大 森本 重一 替之型 |
| 狂言飛越 | 後見 井上 裕久 地謡 松山 幸親 林 喜一郎 藤井 徳三 地謡 清沢 一政 角 寛次郎 関根 祥一 地謡 祖父江修一 坂井 音重 野村又三郎 井上礼之助 高橋 弘 |
| 一調二声小督 | 武田太加志 後藤孝一郎 |
| 能葛城 | 後見 角 寛次郎 地謡 高橋 謙一 関根 祥一 野村 四郎 地謡 関根 祥一 林 喜一郎 大和舞 井上松次郎 高橋 謙一 関根 祥一 林 喜一郎 |
| 附祝言 | 後見 野村 四郎 地謡 関根 祥一 林 喜一郎 |
| 第二部(午後二時始) | |
| 舞臺子岩 | 船 宝生 英照 幸 正昭 鬼頭 好信 島 衣斐 正宜 後藤孝一郎 |
| 能俊寛 | 後見 宝生 英照 地謡 竹腰 勝一 鬼頭 好信 内藤 泰二 地謡 竹腰 勝一 鬼頭 好信 石黒 幸 |
| 狂言桶の酒 | 井上松次郎 大野 弘之 |
| 一調一管芭蕉 | 金剛 巖 福井啓次郎 森田 光春 鬼頭 八郎 |
| 能鷲 | 後見 宝生 英照 地謡 高安 勝久 寛 敏一 立石 欽也 福井 良久 杉富 雅也 井上松次郎 佐藤 耕司 井上松次郎 佐藤 耕司 鬼頭 好信 井上松次郎 佐藤 耕司 鬼頭 好信 井上松次郎 佐藤 耕司 鬼頭 好信 |
| 附祝言 | 後見 近藤 幸江 地謡 伊藤 貴代子 鬼頭 好信 文蔵 地謡 伊藤 貴代子 鬼頭 好信 殿 金丸 牧子 地謡 伊藤 貴代子 鬼頭 好信 水田 嘉修 地謡 伊藤 貴代子 鬼頭 好信 |

梅猶会定期能は、十二月二日大槻能楽堂で五十九年度最終回の演能を開催する。

能「自然居士」(梅若盛義、ツレ井戸良祐)「葛城」(井戸和男)「鉄輪」(井上生香)、狂言「鬼瓦」(善竹幸四郎)

なお、梅猶会定期能は年四回開催。六十年度初回は一月二十日大槻能楽堂で開催。定期能年間予約券を受け付けている。連絡先〇六(八三)七八五四番・梅若善高方。

梅猶会定期能は、十二月二日大槻能楽堂で五十九年度最終回の演能を開催する。

能「自然居士」(梅若盛義、ツレ井戸良祐)「葛城」(井戸和男)「鉄輪」(井上生香)、狂言「鬼瓦」(善竹幸四郎)

なお、梅猶会定期能は年四回開催。六十年度初回は一月二十日大槻能楽堂で開催。定期能年間予約券を受け付けている。連絡先〇六(八三)七八五四番・梅若善高方。

鏡能「通小町」と「道成寺」

幻覚に近い先入観を、見所に抱かせた両者の妙技を、なんと云ったらいいか、ほめるにも言葉がなくなるように消えました。鮮かでした。さすが野村四郎の鏡後見。後シテはあまり感心しませんでした。

風韻会能

十一月四日(日)午前十時始

後見 近藤 幸江 地謡 伊藤 貴代子 鬼頭 好信 文蔵 地謡 伊藤 貴代子 鬼頭 好信 殿 金丸 牧子 地謡 伊藤 貴代子 鬼頭 好信 水田 嘉修 地謡 伊藤 貴代子 鬼頭 好信

初陽会大会

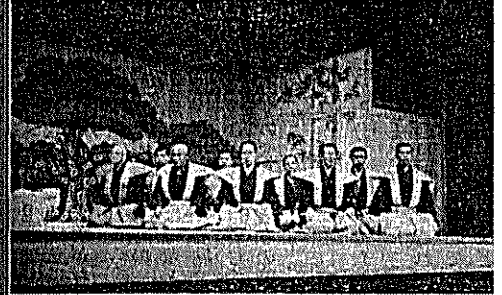
十一月十七日(土)午前九時半始
熱田 神宮 能楽殿

素弱 遊 行 柳	高 野	山 融	能 通 小 町	素弱 弱 法師	舞 子 紅 葉	葛 城	玄 野	附 祝 言
杉本 勉	山田 武嗣	大谷 善吉	西村 欽也	浅井 一元	鈴木 容子	大和舞	象 神	武 田 宗 和
小川 明宏	後藤孝一郎	立野 善吉	福井啓次郎	中川 雅章	鬼頭英二	竹内 正	鬼頭英二	初 陽 会
鬼頭英二	藤田六郎兵衛	後藤孝一郎	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	鬼頭英二	藤田六郎兵衛	
鬼頭英二	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	

名古屋宝生会定式能

十一月十八日(日)午後一時始
熱田 神宮 能楽殿

栗 蝶	胡 蝶	鐵 輪	巴 蝶	胡 蝶	栗 蝶	鐵 輪	巴 蝶
飯富 雅介	飯富 雅介	高安 勝久	飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介	高安 勝久	飯富 雅介
鬼頭英二	鬼頭英二	後藤孝一郎	鬼頭英二	鬼頭英二	鬼頭英二	後藤孝一郎	鬼頭英二
鬼頭英二	鬼頭英二	藤田六郎兵衛	鬼頭英二	鬼頭英二	鬼頭英二	藤田六郎兵衛	鬼頭英二
鬼頭英二	鬼頭英二	藤田六郎兵衛	鬼頭英二	鬼頭英二	鬼頭英二	藤田六郎兵衛	鬼頭英二



悠謔会記念能盛會
瀬戸市文化センターで
瀬戸市を中心とする悠謔会(主
宰加藤武吉氏)は、既報の上
うに八月十二日、瀬戸市文化セ
ンターで同会発足二十周年記念能
を開催、八声会、瀬戸市教委の後
援で、武田太加志、武田志房、武
田宗和の諸師も来演。
能「羽衣」狂言「梅樹」素謡
「道成寺」「求道」など、瀬戸市
で初の能上演として千五百名近い
来会で盛況であった。
〔写真〕素謡「道成寺」

八月の演能から

薪能彼方此方及びホール狂言
竹尾 邦太郎

八月十六日、岐阜の薪能を見た。舞台は影向の松ならぬ老松を背に金華山が迫る護国神社境内である。地謡方は左手深窓になつてゐる社務所から横板の後を通つて、常なら切戸のある所から草履を脱ぎそのまま足を掛けて上る。その高さは三・四センチ程だろうか。薪能は目付柱と脇柱前方に二基。神社の舞を流用する。見所はてんでに床几が並べられ、草に腰を下ろす人もあれば、後ろに立つ人も居り二百五十人余り、入場無料は神社の主催と邦謡会の奉仕の所為なのだうか。

三百円の呈茶券で野点のお点前に与かる。鶴鯛のさんざめが微かに届き、陽が落ちると辺りの木立と金華山は漆黒の闇の中に融け込み、見上げる空は蒼蒼と幽遠な光を現出する。無頼なテレビのライトやカメラの閃光も無く、奥床しく贅沢な薪能で、そこにはまさしく詩があり、文字通り夏の風物詩たり得ていた。

番組は博太郎の「羽衣」・正義「梅樹」・邦久「船弁慶」・長良の川風が心地よく吹き渡り、演者も見所もゆったりと心ゆくたに開かれて至福の一夜であった。

一日置いて十八日、津島神社新館に出掛けた。主催は津島青年会。約一ヶ月前に、「じつ」としてはじまらない。身近にある「こんな事」の大見出しのある新聞折込広告が近隣町村を含めて各戸に配布された由である。その中の主催者メッセージには、「光・音・影の芸術である薪能を海部・津島では初めて開催するはこびとなりました。」とある。意気込みの程はよく分かるが、その広告にあしらつたイラストが尾張万歳の太夫と才藏なのは些かお粗末である。

舞台は境内とはいふ糸神社南門を背にしてその外郭の駐車場に作られてゐる。高さは一米余もある。舞台は境内とはいふ糸神社南門を背にしてその外郭の駐車場に作られてゐる。高さは一米余もある。舞台は境内とはいふ糸神社南門を背にしてその外郭の駐車場に作られてゐる。高さは一米余もある。

外科・せいかい外科・皮膚、泌尿器科

東山整形外科

TEL 781-7835

東山公園駅下車、オーグランドビル2F

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ！
舞姿の勉強と記念に是非どうぞ！

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。

テレビ放送番組企画制作
テレビCM企画制作
ビデオプロダクション 西川企画

名古屋営業所 名古屋市西区名駅2-20-3 輪の内荘 小原方 TEL (052) 571-5816
岐阜市北野町20-2 TEL (0582) 63-9869

御田、和泉元弥初演 山 幸 録

和泉名古屋特別公演

須賀 黎子

河村裕一郎

藤田六郎兵衛

能の会館の九月の舞台から

金春会・観世会・九阜会

能と狂言の会

竹尾邦太郎

「三井寺」(曲見か)と、全体にいよいよ銀を沈めたような無...

「雁大名」主従に企まれて雁を許された小アト(礼之助)の...

「望月」如何にも偉丈夫のシテ(鬼実)のゆつたりとした風格...

「入間川」休憩後の見所のさわめき。シテ(千五郎)は委細構わ...

「殺生石」シテ(四郎)のすつきりとした立居の美女ぶりが玉...

「高野物狂」静かな雰囲気(シテ)太加志が静かに文を読む。...

出しそうな泥顔の白っぽい面は儚く見えたが、枕ノ段では妬心が張り...

「通小町・雨夜ノ伝」ツレ(邦久)は絶望した。紅無唐織に緑色の...

「後ツレ(邦久)」は若い女面、襟赤・登地菊水文様紅入唐織と装束...

「掘江勤之助染色展」狂言装束の復元で知られる掘江...

「住所移転」山本勝一氏(観世流シテ方)新住所大阪東区徳井町二丁目...

「道成寺・赤頭」若いシテ(晩夫)が若い囃子方(六郎兵衛・源二郎・大・池)の混交した演奏...

各地だより

故梅若猶義13回忌追善別会

能「井筒」上演

故梅若猶義十三回忌追善別会、十一月二十五日(日)大阪能楽会館で井筒良造師の「鶴...

能「大原御幸」1月5日、豊泉会第47回公演は明春一月五日、大阪大観能楽堂で「第四十七回豊泉会」を開催する...

能「井筒」上演 12月の大観能楽堂自主公演

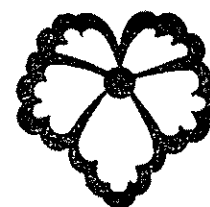
岐阜淡交会 秋季大会 11月25日 中央青少年会館で

岐阜 25日(日)岐阜市中央青少年会館で「秋季淡交会大会」を開催する。午前九時半始。

能「大原御幸」 1月5日、豊泉会第47回公演は明春一月五日、大阪大観能楽堂で「第四十七回豊泉会」を開催する...

能「大原御幸」 1月5日、豊泉会第47回公演は明春一月五日、大阪大観能楽堂で「第四十七回豊泉会」を開催する...

能「大原御幸」 1月5日、豊泉会第47回公演は明春一月五日、大阪大観能楽堂で「第四十七回豊泉会」を開催する...



料理 あつた 蓬菜軒 本店 熱田区神戸町三四 電話(052)868618

観世流謡曲本 ちくさ正文館 ちくさ駅前 電話052-1137

大観能楽堂自主公演は、本年度第八回公演として十二月十二日開催する。

高、法皇・大観文蔵、ワキ植田隆之亮、間・善竹幸四郎、笛・野口...

面打教室 於名古屋・栄朝日神社 日本能面巧芸会 会長 林 龍 雲

意味が分って詠いたい そんな願いをこめました 謡の口語訳 「読謡集 シリーズ」

中日新聞本社主催の「中日名匠鑑賞能」は、来春三月三十日(土)...

十二月雅日記

十一月の日記から

えと文 二井 栄逸

十一月二日
三重県久居農林高校の八十周年記念式。お祝いの意味で田中さんが田村の舞囃子を舞われるので地を頼まれる。田中さんはこの高校の先生である。校庭はさすがに林高らしく、色々な樹木や草花



が、いばい種えられ、明るい陽光の下に静かにそよんでいるのが、いかにも爽やかであった。
毎日文化教室の水墨画講座の上級講座が始まるのが十二時三十分。舞台をすませて大急ぎで名古屋へ。この日は、木下子(むくろ)が、いばい種えられ、明るい陽光の下に静かにそよんでいるのが、いかにも爽やかであった。
毎日文化教室の水墨画講座の上級講座が始まるのが十二時三十分。舞台をすませて大急ぎで名古屋へ。この日は、木下子(むくろ)

に観賞してもらおうと大ホールで上演される。午前十一時始。
主催、神戸市・神戸市民文化振興財団神戸文化ホール、後援能楽協会神戸支部。
能(宝生流)「小鍛冶」辰巳孝
ワキ江崎金治郎
能(宝生流)「景清」宝生英雄
ワキ江崎正左衛門
能(観世流)「班女」(小書征之伝)観世元正、ワキ福王茂十郎
能(観世流)「正尊」(小書起請文、期入)藤井徳三、ワキ植田隆之亮
狂言(大藏流)「蝸牛」(茂山千五郎、茂山三郎ほか)
入場料一般五百円、学生千五百円

初春1月12日 神戸新春能

神戸文化ホールで

昭和五十年一月に始められた「神戸五流能」は、ことし一月、第十回記念能を盛大に開催し、一応区切りをつけ、昭和六十年から「神戸新春能」として内容を地元中心の演能という形にかえて上演されることになった。
新春能は、地元の観世流と宝生流を中心に、それぞれ宗家の出演をふくめて、能四番、狂言一番、仕舞各流三番ずつで構成されている。また舞台は一人でも多くの方

にあるというもの。午前三時就寝。
十一月六日
S画廊から絵の催促。朝、風呂から出てひねもす絵筆をとる。
筆洗にそっと入れた白樺の白さが眼にしみる。完成はいつになるかしら。
十一月十日
熱田神宮能楽殿で朝日カルチャーセンター能楽会。喜多は、雨月と飛鳥川の素謡。鶴之段と程政の連謡。みんなよく出来たので嬉しかった。門生達が日毎に成長してゆくのをみるほど嬉しいものはない。講師の出席では、後藤師と松虫の一調。
十一月十一日
伊勢のみはら館で浅深会。
十一月十六日
毎日文化教室出講。終了後、名古屋から伊勢へ直行。戸田屋に滞在中の、藤間紋寿郎さんとお会いして、食事と共に頂く。舞師と能の話しが咲く。
十一月十八日
新城山講。豊橋からタクシーで新城へ。袖の名産地なので、走る車の右を、左を、赤い実が点々とつらなり走る。いつまでも、あゝいいなあ、と思うのは、視野いっぱいにくら山なみの美しさ、澄みきった大気のおいしさである。今日の稽古は湯谷。去年は、大曲、碓を一年稽古したが、今年もしっかり湯谷を稽古して置くことにした。

問い合わせは神戸文化ホール事務局、電話〇七八一三五―一三五三五番。
山本定期能
60年上半期演能
山本定期能楽会、昭和六十年度上半期演能予定は次のとおりである。
・一月六日(日)
素謡、持歌(父ノ尉延命冠者) 山本勝一、波多野晋
能 白楽天 山本 真賀
能 船弁慶 宇治田正子
前後之替
・二月十日(日)
能 龍 松浦信一郎
能 吉野天人 山本 勝一
能 鉢木 千崎 隆一
(研究会)
能 社若 河村 信重
・四月六日(土)
能 隅田川 山本 真賀
能 殺生石 八木 康夫
白頭
(研究会)
能 實茂 山本 博通
・六月九日(日)
能 頼政 波多野 晋
能 源氏供養 矢野 一馬
能 天鼓 山本 勝一
能 弄鼓之舞
入場料四回券一万円、一般券(一回券)三千円、学生券(一回券)千五百円。

名古屋清韻会能

昭和六十年一月十五日(祭)十時始
熱田神宮能楽殿
能 組
日比大吉郎
千歳伊藤 愛義

竹生島 浮貝 綱一
日比大吉郎 伊藤 愛義 地謡
高橋 宗司 小川 貞三 地謡
鈴木 明
高橋 宗司 小川 貞三 地謡
加野 昭二

松風 鈴木 明
高橋 宗司 小川 貞三 地謡
加野 昭二

葵上 北原良一郎 日比大吉郎
浮貝 綱一
山本 正人
水田 信二
今村 嘉勇

俊寛 高橋香代子
鬼頭貴代子
伊藤志のん

狸 長島みつ子
奥村 久枝
福井啓次郎
鬼頭 英二
柳原富司忠
森本 重一
鬼頭喜太郎
森本 重一

杜若 小川記子
福井啓次郎
鬼頭 英二
柳原富司忠
森本 重一
鬼頭喜太郎
森本 重一

野宮 桑原 信夫
柳原富司忠
吉田 定男
藤田 六郎兵衛

59年12月・60年1月放送予定

〔12月〕
NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)
23日(日) 金剛流「三輪」金剛 殿ほか
30日(日) 金剛流「追舟」金剛 殿ほか
NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)
23日(日) 観世流「染川」藤井久雄ほか
30日(日) 観世流「流」藤井久雄ほか

〔60年1月〕
NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)
6日(日) 観世流「静」観世元正ほか
13日(日) 観世流「院」梅若若行ほか
20日(日) 観世流「東」渡辺三郎ほか
27日(日) 観世流「染川」藤井久雄ほか
NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)
6日(日) 喜宝流「威」栗谷新太郎ほか
13日(日) 喜宝流「威」栗谷新太郎ほか
20日(日) 喜宝流「威」栗谷新太郎ほか
27日(日) 喜宝流「威」栗谷新太郎ほか
NHK教育テレビ
1月15日(祝) 午前9時〜10時
金春流能「小鍛冶」金春安明、福王茂十郎ほか
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

〔御来場歓迎〕

能(宝生流)「花笠」三川泉任
か。再放送なし。
NHKラジオ新春放送
十二月三十一日(月)午前八時三十分〜九時三十分。
一調、独吟、仕舞ほか
一月一日(祝)午前九時〜十時、再放送正午〜午後一時。
一月一日(祝)
金剛流「翁」金剛殿ほか、宝生流「小鍛冶」宝生英雄ほか。
観世流「龍野」観世元正ほか。
一月二日(水)
喜多流「西行」喜多実ほか。
金春流「山姥」金春信高ほか。
一月三日(木)
東西狂言「和泉流狂言」空願」野村万作ほか。
大藏流狂言「伊文字」善竹忠一 郎ほか

遊 柳 長谷川 実
吉田 定男
鬼頭喜太郎
藤田 六郎兵衛
熊 野 渡辺 節子
後藤 孝一郎
鹿取 希世
弱 法 高田みね子
吉田 定男
福井 啓次郎
森本 重一
融 池田 忠三
鬼頭 英二
藤田 六郎兵衛
藤 戸 佐藤アヤ子
吉田 定男
森本 重一
番外仕舞
泉 嘉夫
殿島 修二
地謡 齊藤 信隆
大隈 秀夫
山本 正人
(終演午後五時頃の予定)

主催名 古屋清韻会
補導大 槻 秀夫

「木賊」の地に能舞台

耳目抄

青陽会定期能

昭和六十年一月二十七日(日)

「木賊」の地に能舞台

ゆかりの史跡・下伊那の園原 名古屋の愛好者が記念謁会

「木賊」のゆかりの地、長野県下伊那郡阿智村園原に、能舞台(智里西コミニティ会館)が完成、これを記念して、名古屋の能愛好者グループ「鳴々会」(鈴木正徳会長)のメンバーが十一月十一日、記念謁会を催し、能舞台の名所として、地元との交流をふかめ、披露した。

この園原に能舞台ができるきっかけとなったのは、楽風舞臺で親しまれる観世流名師範・加納保一さん(八八)が名古屋市長と区川山町一〇五で、同氏が四年前、昇神温泉を訪れた際、同地の長岳寺・山本慈照住職と出会い、たまたま「木賊」の話をしたところ、山本住職は大変関心をもち、以後交通を重ねるなかで、能舞台建設の話が進んだ。

このことは、村を動かし、長野県では、五十七年に園原をモデルコミニティ地域に指定、長野県と阿智村がそれぞれ五百万円、地元が三百万円で資金を造成、総工費千三百万円で五十八年五月、資料館付属能舞台の建設に着工、同年十二月に完成した。この設計は加納氏の助言が大きく、木造平家建て約四百四十平方メートル、ゆかりの地に新しい話題となっている。

「鳴々会」は加納保一氏が指導にあたり、十一月十日、十一日にわたり、鳴々会大会を園地で開催、能舞台完成記念謁会では、「櫻鏡」「木曾」「定家」など素謡と「松風」「紅葉狩」さらに由緒の地として「木賊」が特に奉納された。

園原に能舞台ができるきっかけとなった加納保一さんは「園原はひかし、東山道の要所として栄え、秘曲・木賊がつくられたり、神坂神社や月見堂など史跡の宝庫。この日本のふるさとともいえるべき園原に能舞台の完成をきっかけに広く認識させて、むかしのにぎわしを園原によみがえらせることを期待しています」と話している。

なお能舞台の完成と記念謁会には中日新聞も報道、また南信州新聞にも報道された。

「木賊」は、別名「木賊刈」世阿弥元清作。新古今集・坂上皇朝の歌「園原や伏屋に生ふる骨木の歌」とは見て逢えて逢わぬ君かな」とあり、この地に名高い木賊刈を背景につくられたとされる。(観世流木賊・資料より)

園原の名は、「木賊」のほか、「雲林院」の「園原」しげる木賊色の、「柏崎」の「園原」伏屋に生ふる骨木の、などに見えている。

福井啓次郎職分三十周年記念能(十一月三日・熱田能楽殿)を見ました。名門福井家を継いで三十年多くの後進を育て、名古屋の雅子方の発展に功績顕著な、会主のキヤリアにふさわしい豪華番組。観世、宝生、金剛の三家元到大家、中堅、新鋭を揃えて、たっぷりと楽しませてくれました。それだけに、良し悪しは二の次、結構々々と頭を下げるのが礼儀かも知れませんが、ほんのちよっとばかり云わせていただくと、元正の「葛城」英雄の「驚」両家元の首録と風情、金剛家元の福井、森田トリオによる

観能 豪華で内容充実 福井啓次郎記念能はか

一調一管「芭蕉」の名調はいわずもがなとして、野村四郎の「清経」が、一門の前途に見切りをつけ、一歩々々死におもむく心境の節目を、繊細、適格に演じ分けて興味をそそられました。

もう一つ、十一月の観世会定式能(十一月・同)が充実した舞台でした。「柏崎」の片山博太郎、静かな運歩の流れの美しさに、円熟した芸境をうかがわれました。観世清和の「熊坂」は元氣いっぱい、狂言と受けとれぬほどの明るい暴れぶり、それだけに飛び返りなど鮮やかにきまって痛快至極、若い

仕舞各流三番ずつで編成されている。また舞台は一人でも多くの方入場料一般五千円、学生二千五百円

耳目抄 断想

下半期、断想

まず狂言のこと。林文左衛門氏(料亭河文へかわぶん)会長が五月十八日に永眠される。年古りた狂言愛好者の数少ない中の一人名古屋和泉会(現在休会)結成者に名を連ね、やわらかいうちに紐さのある目で永い間狂言を見守って来られ、自身狂言芸をたしなまれた。いわゆる「大通(たいつう)」の人。こういう方がだんだん減って行く。時の流れか。享年八十歳。

野上弥生子さんのこと。六月号執筆に付言二つ。一つは、夏目漱石の小説に描かれた女性について福原麟太郎氏(英文学者・故人)が「漱石は、現実の女性をそんなに沢山知っていたに相違ない。お弟子の野上弥生子さんのような人を土台にして、飯空にありうな知的女性をつくりあげたに相違ない云々」(「読書と或る人生」)と「文学理論の要求」)。また戦前(昭和十四)ご夫妻で欧州見学の旅行の帰途のことである。フランスで同車された汽車の進行途中ではぐれられ、奇しくも再会、アメリカに揃って紀行文(野上豊一郎・西洋見学の末尾(大戦脱出記)の一文を胸を打つ。一説をおすめしたい(耳目抄五九・六月号)

人の舞台はこれだから楽しい。若い人といえは、もひとつ若い少年の和泉弥弥が、これはかわい「御田」(「賀茂」の替間)の神主をめでたく舞った和泉名古屋特別公演(十一月二十三日・同)。芝居でも映画でも、子供が出ると大人が食われるといいますが、元弥少年、みごとにお父さん、お祖父さん食ってしまつた。和泉家パンザイですね。(M)

野上弥生子さんのこと。六月号執筆に付言二つ。一つは、夏目漱石の小説に描かれた女性について福原麟太郎氏(英文学者・故人)が「漱石は、現実の女性をそんなに沢山知っていたに相違ない。お弟子の野上弥生子さんのような人を土台にして、飯空にありうな知的女性をつくりあげたに相違ない云々」(「読書と或る人生」)と「文学理論の要求」)。また戦前(昭和十四)ご夫妻で欧州見学の旅行の帰途のことである。フランスで同車された汽車の進行途中ではぐれられ、奇しくも再会、アメリカに揃って紀行文(野上豊一郎・西洋見学の末尾(大戦脱出記)の一文を胸を打つ。一説をおすめしたい(耳目抄五九・六月号)

故、橋岡久太郎氏夫人、橋岡久馬、久共氏の母堂トキさんは、十一月二日午前八時五十分、百七歳で逝去された。

前後之替
二月十日(日)
一回券)三千円、学生券)一回券)千五百円

60年度梅猶会

初回は一月二十日上演

梅猶会(梅若盛義師主)は、昭和六十年年度定期第一回を新春一月二十日(日)大阪能楽会館で開催する。午前十一時始。素謡「神歌」(井戸良道、梅若盛)「高砂」(池内光之助、ツレ

同月下旬同店で平井智(とも)氏のイタリマ・マジヨリカ陶芸展をみた。展示の代表作とも書える三十種横五十種位の道徳風作品が私の目を釘付けにした。貴公子の左横顔が円の中に大きく刻まれている。目のすがすがしいこと。「美しいもの」をみている目で「アトリー」をみつめるように「など平井氏と。久々、東西の古典文化・イタリマ・ルネッサンス(ルカ・デルラ・ロツピア。陶芸家彫刻家)の展開を、平素能と狂言しか口にしない私が平井氏と楽しく話した。現代、金剛殿、羽衣のローマ法王献能のことも含めて、同氏のイタリマの住居(フアンツア・ポロニヤ近郊)には能は日本の諸芸能(芸術)の本が置かれてある(例えば保育社のカラーブックに拠る)。あの「明るさは得がたい。再会を約す。

十一月二十一日福井孝作氏死去狂言や能に深い理解を持たれた。「能の話」坂本雪島能評全集、付文庫本作成を希望する。「狂言の中の歌謡」(狂言の小舞)「おきななき」(翁草)のうらや「志賀直哉の遺愛の能面」はか「巖に咲く花」、能・狂言の随想集、佳書)、「逝く春」(「野郎」・小説集)などゆかし。どれも美しい能面の写真が添えられている。

名古屋の能と金剛流のローマ法王献能・茂山千作氏狂言八十五年(受贈)ほか本とは別記。(五九・一一・二五)の)

梅猶会(梅若盛義師主)は、昭和六十年年度定期第一回を新春一月二十日(日)大阪能楽会館で開催する。午前十一時始。素謡「神歌」(井戸良道、梅若盛)「高砂」(池内光之助、ツレ

後見 近藤 幸江
大橋 秀夫
地謡 加野 明
高橋 宗三
小川 貞三
今村 嘉男

青陽会定期能

昭和六十年一月二十七日(日) 午前十一時始

第二十九期 第一回 熱田 神宮 能楽 殿

東 北 高木美智子
能 北 前野 郁子
東 津 前野 郁子
東 津 前野 郁子

弱法師 西村 欽也
間 井上松次郎

胡蝶 服部 紗枝
河村真之介
福井啓次郎

難 波 須部 甫
知 須部 甫
枕 須部 甫
能 須部 甫

武田 大和
近藤 幸江

素袍落 野村又三郎
仕 井上礼之助
佐藤 友彦

野 中川 雅章
能 梅田 邦久

久田修弥代
武田 邦弘

後見 近藤 幸江
久田 徹二
地謡 前野 郁子
加賀 敏彦
須部 甫

主権 青 陽 会

東 北 高木美智子
能 北 前野 郁子
東 津 前野 郁子
東 津 前野 郁子

弱法師 西村 欽也
間 井上松次郎

胡蝶 服部 紗枝
河村真之介
福井啓次郎

難 波 須部 甫
知 須部 甫
枕 須部 甫
能 須部 甫

武田 大和
近藤 幸江

素袍落 野村又三郎
仕 井上礼之助
佐藤 友彦

野 中川 雅章
能 梅田 邦久

久田修弥代
武田 邦弘

後見 近藤 幸江
久田 徹二
地謡 前野 郁子
加賀 敏彦
須部 甫

主権 青 陽 会

東 北 高木美智子
能 北 前野 郁子
東 津 前野 郁子
東 津 前野 郁子

弱法師 西村 欽也
間 井上松次郎

胡蝶 服部 紗枝
河村真之介
福井啓次郎

難 波 須部 甫
知 須部 甫
枕 須部 甫
能 須部 甫

武田 大和
近藤 幸江

素袍落 野村又三郎
仕 井上礼之助
佐藤 友彦

野 中川 雅章
能 梅田 邦久

久田修弥代
武田 邦弘

後見 近藤 幸江
久田 徹二
地謡 前野 郁子
加賀 敏彦
須部 甫

主権 青 陽 会

東 北 高木美智子
能 北 前野 郁子
東 津 前野 郁子
東 津 前野 郁子

弱法師 西村 欽也
間 井上松次郎

胡蝶 服部 紗枝
河村真之介
福井啓次郎

難 波 須部 甫
知 須部 甫
枕 須部 甫
能 須部 甫

武田 大和
近藤 幸江

素袍落 野村又三郎
仕 井上礼之助
佐藤 友彦

野 中川 雅章
能 梅田 邦久

久田修弥代
武田 邦弘

後見 近藤 幸江
久田 徹二
地謡 前野 郁子
加賀 敏彦
須部 甫

主権 青 陽 会

[12] 23日 30日 6日 13日 27日 6日 13日 27日 1月 1日

神無月・霜月の舞台から

梅猶会別会・福井啓次郎職分三十周年記念能・観世会・和泉特別公演

竹尾邦太郎

「経正」シテ盛彦。初面か(?)変声期のむずかしい年頃だが声がよくもり、また下居のときなど前屈み気味で面がクモリ過ぎの難はあったが、カケリは親譲りの型の美しさを将来性をうかがわせた。ワキ雅介は好演。位十分であった。(33分)

「昌運」僧に憧れるシテ礼之助と、内心満更でもないアド松次郎との掛合がゆっくり展開し、剃髪して僧形になってにんまりする礼之助が小アド友彦のわわしい女の登場で一気に意気消沈してゆくあたり好アンサンブルであった。(24分)

「姑・持之出」妻を疎んずる氣持の萌芽は、氣位の高い妻の深げにあるのではないかと思わせる冷え冷えとした閑愁のシテ修一だった。特に後場、浅黄大口を穿いたシテは、所謂袴元をびたりとかき合せて、隙のないことな近寄り難い女を堅く強く演じて雰囲気を出していた。すすり泣くような哀切の地謡(朗詠・生香ら)も好調。(1時間41分)

「融・十三段之舞」ワキ欽也の思立之出であった。シテ盛彦は体調をこわしたかや元氣がなく、沙も田子を投げ出して舞台で涙んだが扱いは巧妙だった。舞事は流石に、舞来たり舞去って融の大臣の喜悅を遺憾なく見せつけた。袖を巻き、またあしろう折々に直衣の袖口から零れる緋の真紅が殿上人の番氣を漂わせ印象深かった。(1時間23分・10月21日・梅若猶義十三回忌追善別会能)

「清経・替之型」へ移る夢こそ、と一ノ松へ抜け、橋懸でクセを舞うのが替え型の見どころ。それはツレから遠ざかって、文字通り遠い夢の世界へ移るといふイメージを具体化したとも言えるだろう。

へ白鷺の群、と二ノ松勾欄に寄るシテ四郎には波に沈む運命を見据えながらも、自由に飛翔する鷺への想いが素直に表現され、それ

故に、へ腰より横笛、の前の東の間の静まりが重く胸に沁えた。(1時間11分)

「葛城・大和舞」シテ元正の凛とした氣品がこの曲によく合う。後シテは十寸髪・緋大口・灰色舞衣は金で萬葉草文様である。御けば黒々と降る雪と、素(さつく)にかけられた葛城の神の視覚化か? 神樂は華やがずしつとり氣味。へ面なや、とワキ茂好にアシライ一瞬の羞恥を見せて左袖で面を隠すと直ぐほいて背を見せ、へ葛城の、と橋懸へ抜け三鼓のナガンで入った。立上って見送るワキは後光を拜するようには最後は坐って合掌してトめた。(1時間28分)

「俊寛」シテ孝。面(俊寛)を褐色の花帽子に包むと窪んだ眼窩は御殿のように黒々とあり、幽鬼を思わせた。クセの深い感情表現も平板な地が沈滞氣味。全体に一寸湿っぽ過ぎた。(1時間5分)

「一闘一管・芭蕉」本幕でシテ兼・笛光春・小鼓啓次郎の順に長上下で出る。古風な能太夫の風格を奏す兼はクセから静かに吟ずる。序之舞の囀りは八分余、箱々とした藤田流の笛と明るい音色伸びやかな掛声の幸清流の小鼓、大鼓の手も加わって情愔深い詩境を作ってゆく。序之舞から直ぐへ久方の、へ。キリはほとんど小鼓がアシライ、トト近く、へ芭蕉は、から再び笛が加わった。明るいつれど物淋しい月光と、芭蕉の葉裏を白く映がせる風の風情に見所は声も無くしみじみとの世界に浸った。見所と演者との美しい心の交流がそこにはあった。(72分)

「鶯」鶯のイメージが複雑で軽快にあるとすれば、宗家宗家に損な役回りと言わざるを得ない風格だけでは押し切れないもどかしさを思った。(36分・11月3日・福井啓次郎職分三十周年記念能)

「相磨・思出之舞」稀曲であり、且つ大曲をシテ博太郎は情味豊かに舞い通した。

形見と文を持つワキ次郎右衛門

と受け取るシテの出会いが劇的興奮を伴ない、シテの氣分は激しく昂揚して文で膝を叩くところなどは狂乱が直観に出ていた。

シテの中入は大小アシライで、ワキはシテが幕に入ってから立ち退場無しで中入した。シテ・ワキ両者の胸中の思いが対照的に暗示されていた。(1時間51分)

「文蔵」太郎冠者(礼之助)の食べたものが氣になり居ても立ってもいられぬ主(松次郎)とそれに火を注ぐような太郎冠者の暗愚ぶりに見所も奇立つ氣分にさせられた。

床几にかけた主の合戦調は氣負と性急がなまぜになって快調なテンポであった。(31分)

「熊坂」ワキ欽也が登壇案なく出て一ノ松で名宣り、道行となつてワキ座に行きかけるところにシテ清和が幕内から呼掛けた。声量あり朗々としているが異形のムードに欠け涙みは感じられない。後シテもさらびやだがどっしりした重味があった。(1時間7分・11月11日)

「舟渡舞」年増の型で分別がありすぎる印象の弘之。それがあらぬか着付の段段斗目も褐色で派手たではないか。また酒にいきまないシテ松次郎の對への恐怖ぶりと妻礼之助への権柄すくは少々度が過ぎるのではなからうか。(35分)

「寛茂・替御田」ワキ欽也の着セリフと同時に神主元弥が大臣鳥帽子紅上頭掛・着付赤緋箔に青色丸紋下袴・白緋水衣の盛装に押掛けの凛々しい姿で出る。狂言兼序で出る大人の早乙女四人を統べる氣分の良さもあって元氣熱演である。科白のときの頭の上下の振りも子供から少年への脱皮を見せつつあり進境著しい。家の芸を守ろうとする健氣さに見所は喝采ひとしきりであった。

しかしこの替間の上演の少なさは分る氣がする。半能ならまだしも、全曲となると焦点が散るのではなからうか。(54分)

「萩大名」途方もない大愚を演じてこれ程味のないからりと明るい大名を知らないだけだし元秀の依り代であるが。(21分)

「彌十郎」性明朗で如何にも大らかな元秀には、この太郎冠者のような姑息な手段を弄して主家に戻るといふ役柄は似合わないが、細梅う折の仕形話には充分に持味が出ていた。

しかし、屈折した氣分と大らかなこの兼合は文字通り一筋縄ではゆかないの感を深くした。(34分)

「福の神」体力の消耗を避けたのらうか、シテ福の神(藤九郎)は直面であった。しかし体調優れないのか運びに力が無く、笑いも虚ろに聞えた。御自愛を祈るのみ(18分・11月23日・和泉名古屋特別公演)

「彌十郎」性明朗で如何にも大らかな元秀には、この太郎冠者のような姑息な手段を弄して主家に戻るといふ役柄は似合わないが、細梅う折の仕形話には充分に持味が出ていた。

しかし、屈折した氣分と大らかなこの兼合は文字通り一筋縄ではゆかないの感を深くした。(34分)

「福の神」体力の消耗を避けたのらうか、シテ福の神(藤九郎)は直面であった。しかし体調優れないのか運びに力が無く、笑いも虚ろに聞えた。御自愛を祈るのみ(18分・11月23日・和泉名古屋特別公演)

謡曲名所めぐり

本紙主催、洛東のゆかりを訪ねる

泉涌寺・清水寺など



能楽の友社では、恒例の謡曲名所めぐり旅行を十一月二十三日(日)実施、泉涌寺、清水寺などを訪ねました。

当日は四十七名が参加、午前八時愛知文化講堂前を出発。車中に「熊野」「財貴妃」「舍利」を同吟しながら各神高道路京都東

「彌十郎」性明朗で如何にも大らかな元秀には、この太郎冠者のような姑息な手段を弄して主家に戻るといふ役柄は似合わないが、細梅う折の仕形話には充分に持味が出ていた。

しかし、屈折した氣分と大らかなこの兼合は文字通り一筋縄ではゆかないの感を深くした。(34分)

「福の神」体力の消耗を避けたのらうか、シテ福の神(藤九郎)は直面であった。しかし体調優れないのか運びに力が無く、笑いも虚ろに聞えた。御自愛を祈るのみ(18分・11月23日・和泉名古屋特別公演)



〔清水寺・陽明殿前で記念撮影〕

インクアチエンジから京都市内に入り、那須野市の養所に詣り、泉涌寺へ。丁重な由緒説明をうけ、同寺の湯貴妃観音に参拝。堀川通五条通りを経て、六波羅密寺に参拝して、六道の辻、珍皇寺など参道を徒歩で京料理「五条坂」に到着、湯どうふで楽しみました。

少憩ののち、熊野の道行コースとして、経書堂、馬止、鹿園塚、田村堂などを経て、本堂に参拝、音羽ノ滝を眺め寺務所に到着、同寺の特別のご厚意により陽明殿にて謡曲「田村」を詠いました。

清水寺の印象をふかめつつバスセンターに集合、国道一号线を経て、清閑寺に参拝、小僧のゆかりをしのび、紅葉を楽しみました。

夕開道るころ再びバスで山科を経て京都市東区から一路名古屋へ、午後七時帰宅しました。

今回は、泉涌寺、清水寺、などで特別のご配慮を頂きましたことを紙上をかりて厚くお礼申し上げます。また参加皆さまのご協力を感謝いたします。(加野記)

④清水寺での「田村」の詠唱
⑤泉涌寺境内にて

観世流・金剛流
世宗本元

檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291) 2488-9
振替東京 3-3 552
〒604 京都市中京区二条通駄馬町東入 電話(231) 1990
振替京都 1-113

医療衛生用品総合商社

八神商事株式会社

取締役社長 八神 幸一

本社 〒460 名古屋市中区丸の内三丁目11ノ4
電話(052) 971-8671番(代表)

営業所 西・熱田・名東・関東・静岡
浜松・岡崎・岐阜・津

城

割烹・小料理

●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!

舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きっとご満足いただける自信があります。

テレビ放送番組企画制作
テレビCM企画制作
記録ビデオ撮影

ビデオプロダクション 西川企画

名古屋営業所 名古屋西区名駅2-20-3 輪の内荘 小原方 TEL(052) 571-5816
岐阜市北野町20-2 TEL(0582) 63-9869

謹賀新年

財団法人 能楽研究會

會